

取扱説明書

詳細版

ARROWS Tab
QHシリーズ

サポート情報のご案内

紙

マニュアル

『箱の中身を確認してください』

添付品の一覧です。ご購入後、すぐに添付品が揃っているか確認してください。

『取扱説明書』(本書)

使い始めるために必要な情報を中心に説明しています。

お使いの機種により、これ以外にもマニュアルや重要なお知らせなどの紙・冊子類があります。

Web

マニュアル

インターネットに
接続してください

Web『取扱説明書<詳細版>』

このパソコンの取り扱い方法や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

スタート画面で「@メニュー」をクリックします。



① サポートをさがす

② 使い方を調べる

③ マニュアルで調べる

④ 実行する

Webマニュアルをダウンロードするページが表示されます。

FMV
サポート

インターネットに
接続してください

サポートページ <http://azby.fmworld.net/support/>

FMVに関するQ&A事例や活用情報など、「知りたい・困った」ときに役立つ情報を提供しています。

さまざまな使い方のご提案
「パソコン活用情報」



豊富な「Q&A」で
トラブルを解決!

「富士通アドバイザー」の「サポート&サービス情報」の「サポートページで調べる」からサポートページを開くこともできます。

目次

このパソコンをお使いになる前に	6
マニュアルの表記	9
安全上のご注意	12
取り扱い上のご注意	19
パソコンの使用環境についての注意	19
使用上のお願い	20
疲れにくい使い方	21
認定および準拠について	21
各部の名称について	22
1. セットアップする	
セットアップを始める前のチェック	23
セットアップの流れを確認する	23
パソコンの準備をする	24
Windows のセットアップをする	24
パソコンを快適にお使いいただくための準備をする	38
インターネットに接続せずにセットアップしたときは	41
Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する	41
インターネットに接続する	42
Microsoft アカウントに切り替える	44
2. 各部の名称と働き	
パソコン本体表面	45
パソコン本体裏面	46
クレードル	47
スリムキーボード	48
3. 取り扱い	
Windows をスタートする／終了する	50
Windows をスタートする	50
Windows を終了する	51
スリープにする／復帰させる	52
パソコンをスリープにするときの注意	52
スリープにする	52
スリープから復帰する	52
バッテリー	53
バッテリーの充電	53
充電状態や残量の確認	53
マウス	53
マウスをお使いになるうえでの注意	53
各部の名称と働き	54
マウスの使い方	54
フラットポイント	55
フラットポイントをお使いになるうえでの注意	55
フラットポイントの基本的な使い方	56

タッチ機能	58
タッチ機能をお使いになる上での注意事項	58
タッチ機能を使う	60
音量	62
画面の明るさ	63
メモリーカード	64
お使いになるうえでの注意	64
使えるメモリーカード	64
メモリーカードを差し込む／取り出す	65
周辺機器の取り扱い	66
周辺機器の取り扱い上の注意	66
クレードル	66
クレードルをお使いになるうえでの注意	66
クレードルを取り付ける	66
クレードルを取り外す	66
スリムキーボード	67
防水性能	68
防水性能でできること	68
防水性能を維持するために	68
防水性能をお使いになるうえでの注意	69
水抜き	69
充電のときの注意	70
お手入れ	71
パソコン本体のお手入れ	71
液晶ディスプレイのお手入れ	71

4. 便利な機能のご紹介

My Cloud	72
F-LINK (ケータイ連携機能)	73
F-LINK をお使いになるうえでの注意	74
Skype	74
Skype でできること	74
搭載されているアプリを使う (@メニュー)	75
「@メニュー」の使い方	75
指紋認証	75
指紋認証でできること	75
指紋センサーをお使いになるうえでの注意	75
指紋認証をお使いになるうえでの注意	76
指のスライドのさせ方	76
指紋を登録する	77
指紋認証を使う	78
指紋認証が使えなくなったら	80
ステータスパネルスイッチ	80
ステータスパネルスイッチをお使いになるうえでの注意	80
ステータスパネルスイッチの使い方	81
各モードの設定を変更する	81

表示中の画面をメモする（ワンタッチキャプチャ）	82
ワンタッチキャプチャをお使いになるうえでの注意	82
ワンタッチキャプチャを使う	82

5. バックアップ

バックアップナビ	83
バックアップナビの機能	83
バックアップナビをお使いになるうえでの注意事項	83
マイデータ	84
バックアップ／復元できる項目	84
「マイデータ」の注意事項	84
「マイデータ」のバックアップ／コピー／復元方法	84
パソコンの状態	85
「パソコンの状態」の注意事項	85
「パソコンの状態」をバックアップする場所	85
「パソコンの状態」をバックアップする	86
「パソコンの状態」のバックアップデータをコピーする	88
「パソコンの状態」を復元する	88
「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する	90

6. 困ったときは

メールや Office で困ったときは	91
ウイルス対策アプリなどで困ったときは	92
マカフィー マルチアクセスのお問い合わせ先	92
その他のアプリのお問い合わせ先	92
アプリのお問い合わせ先の確認方法	93
よくあるトラブルと解決方法	94
起動・終了時	94
Windows・アプリ関連	96
バッテリー	98
ポインティングデバイス	98
キーボード	99
文字入力	99
サウンド	100
ディスプレイ	100
無線 LAN	102
有線 LAN	103
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	103
USB 機器	104
SSD	104
メール	104
その他	105
トラブル発生時の基本的な対処	106
落ち着いて状況を確認する	106
マニュアルで調べる	107
インターネットで調べる	107
「富士通ハードウェア診断ツール」を使う	107

「トラブル解決ナビ」を起動する	108
富士通の窓口にご相談する	110
ユーザー登録のご案内	110
サポート&サービス紹介	111
7. ご購入時の状態に戻す	
ご購入時の状態に戻す必要があるか再確認	117
ご購入時の状態に戻すリカバリの準備	117
バックアップをする	117
ご購入時の状態に戻すリカバリの注意	117
作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法	118
ディスクが必要な場合	118
ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する	119
Cドライブを初期状態に戻す	119
Windows のセットアップをする	120
8. 使いこなすために	
フラットポイント	121
フラットポイントの設定を変更する	121
フラットポイントの有効/無効の切り替え	123
ディスプレイ	123
解像度と発色数についての注意	123
液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数	124
外部ディスプレイやデジタルテレビの接続	124
外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数	126
画面の解像度の変更	127
表示するディスプレイの切り替え	129
画面表示の回転	132
ディスプレイ省電テクノロジー設定	133
サウンド	134
再生時/録音時のサウンドを調節する	134
通信	137
有線 LAN	137
無線 LAN	141
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	146
無線通信機能の電波を発信する/停止する	149
スリープ/休止状態	150
スリープ/休止状態とは	150
スリープ/休止状態にするうえでの注意	151
スリープ/休止状態の設定変更	152
電源プラン	153
パソコンの節電	154
省電力モード	154
アプリ	154
Windows ストア アプリ	154
デスクトップアプリ	155
SSD の領域について	158

CドライブとDドライブの割合を変更する	158
リカバリ領域を削除する	159
リカバリ領域を復元する	159
BIOS の設定	161
BIOS セットアップの操作	161
BIOS のパスワード機能	163
BIOS が表示するメッセージ一覧	167

9. 付録

インターネットを安心してお使いいただくために	170
青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について	170
リカバリディスクセットを作っておく	172
リカバリディスクセットを作るうえでの注意	172
リカバリディスクセットの作成手順	172
パソコンの電源を完全に切る	175
廃棄・リサイクルのご案内	175
パソコンの廃棄・譲渡時の SSD 上のデータ消去に関するご注意	175
富士通パーソナルコンピュータ修理規定	176
My Cloud FMV サポート会員規約（旧 AzbyClub 会員規約）	178
文字コードの取り扱いに関する注意	181
環境依存文字の取り扱いについて	181
Windows 8.1、Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性	183

10. 仕様一覧

パソコン本体の主な仕様	186
仕様一覧の注記について	187

このパソコンをお使いになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、バックアップをおとりください。
- ・本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

使用許諾契約書（ライセンス条項）

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、または添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうち、Windowsストアアプリについては、本契約は適用されず、Microsoft社所定の標準アプリケーションライセンス条項が適用されます。なお、Microsoft社所定の標準アプリケーションライセンス条項に加えて、個別の追加条件が適用される場合があります。上記の他、本ソフトウェアのうち、別途の「使用条件」または「使用許諾契約書」等が添付されている一部ソフトウェアについては、本契約は適用されず、当該「使用条件」または「使用許諾契約書」等が適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2」および「3」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルおよび予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされた本装置とともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 壁紙の使用条件
本製品に「FMV」ロゴ入りの壁紙がインストールされている場合、お客様は、その壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
8. 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
9. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください（大切なデータは日ごろからバックアップをとられることをお勧めします）。

添付品は大切に保管してください

ディスクやマニュアル等の添付品は、本製品をご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

- ・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・ 表示する条件によってはムラおよび微小な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

有寿命部品について

- ・ 本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化等が進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- ・ 有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1日約8時間、1ヶ月に25日のご使用で約5年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用等、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- ・ 本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液のもれや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- ・ 摩耗や劣化等により有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- ・ 本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

<主な有寿命部品一覧>

液晶ディスプレイ、フラッシュメモリディスク、キーボード、マウス、ACアダプタ、電源ユニット、ファン

消耗品について

一般的にバッテリーパックは、300～500回の充放電で寿命となります。（温度条件や使用環境によって異なります。）

24時間以上の連続使用について

本製品は、24時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本製品に接続する LAN ケーブルはシールドされたものでなければなりません。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

無線 LAN について

2.4 DS/OF 4

- ・上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DSSS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。
- ・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠では見通し半径 25m 以内、IEEE 802.11n 準拠では見通し半径 50m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。
- ・本製品に内蔵の無線 LAN を 5.2/5.3GHz 帯でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になりません。
- ・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジーについて

2.4 FH8

- ・上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。
- ・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2 の最大値）です。ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。また、バッテリー残量が不十分な場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

本パソコンは電気・電子機器の特定の化学物質<鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリプロモビフェニル、ポリプロモジフェニルエーテルの 6 物質>の含有表示を規定する JIS 規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。
本パソコンにおける特定の化学物質（6 物質）の詳細含有情報は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.fmworld.net/fmv/jmoss/>

クラス 1 レーザ製品 IEC 60825-1:2007

クラス 1 レーザ製品の国際規格である（IEC 60825-1）に準拠しています。

本装置は、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合したマークを画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「認定および準拠について」（→ P.21）をご覧ください。

本装置は、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マーク  を画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「認定および準拠について」（→ P.21）をご覧ください。

マニュアルの表記

このマニュアルの内容は 2014 年 7 月現在のものです。

お問い合わせ先や URL などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

■本文中での書き分けについて

このマニュアルには、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。

お使いの機種に機能が搭載されているかを「各部の名称と働き」、「仕様一覧」、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/fmv/>) で確認して、機種にあった記載をお読みください。

■安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するためのシンボルマークと警告絵文字を使っています。

□警告レベルを表すシンボルマーク

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

□危険や障害の内容を表す警告絵文字

△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

	特定の条件において、破裂する可能性について注意を喚起します。		特定の条件において、高温による傷害の可能性について注意を喚起します。
	特定の条件において、レーザー光を直視する危険性について注意を喚起します。		特定の条件において、けがする可能性について注意を喚起します。

⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。

	一般的な禁止行為や禁止事項を示します。		特定の条件において、外部の火気によって製品の発火する可能性を示します。
	特定の条件において、機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性を示します。		防水処理のない機器を水場で使用して漏電によって傷害が起こる可能性を示します。
	機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性を示します。		機器を濡れた手で扱っていると、感電する可能性を示します。
	防水処理のない機器を水がかかる場所で使用または、水に濡らすなどして使用すると、漏電して感電や発火する可能性を示します。		

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

 アース線を接続せよ	安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続するように指示します。	 プラグを抜け	故障時や落雷の可能性がある場合、使用者に電源プラグをコンセントから抜くように指示します。
 一般指示	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。		

■危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	以降の手順が分かれることを表しています。
	冊子のマニュアルを表しています。
	インターネットで公開している情報を表しています。参照方法は表紙の裏面をご覧ください。
	CD や DVD などのディスクを表しています。
	参照ページを表しています。

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■操作手順について

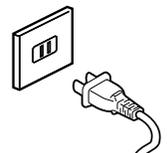
このマニュアルでは、連続する操作手順を「▶」でつなげて記述しています。

なお、アプリの状態を変更した場合は、操作手順が異なることがあります。

■電源プラグとコンセント形状の表記について

このパソコンに添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。マニュアルでは「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ (125V15A) 用コンセント」をご利用ください。マニュアルでは「コンセント」と表記しています。



■タッチ操作について

タッチ操作の場合、クリックと記載されている箇所をタップと読み替えてください。
基本的なタッチ操作について詳しくは、「タッチ機能を使う」(→ P.60)をご覧ください。

■CD や DVD の使用について

本文中の操作手順において、CD または DVD を使用することがあります。
操作に必要なドライブが搭載されていない場合は、次のポータブル CD/DVD ドライブのご購入をお勧めいたします。

●品名/型名

・スーパーマルチドライブユニット/ FMV-NSM54

なお、ポータブル CD/DVD ドライブをお使いになる場合は、添付されている電源ケーブルを接続してください。
他社製品をご購入の場合は、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「他社周辺機器接続情報」をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■スリムキーボード、クレードルについて

WQ1/M でスリムキーボード、クレードルを選択した場合のみ添付されています。それ以外の機種はオプションとして用意されています。

■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows 8.1	Windows または Windows 8.1
Windows 8.1 Pro	Windows または Windows 8.1
Windows Internet Explorer 11	Internet Explorer 11 または Internet Explorer
Microsoft Office Personal 2013	Office または Office Personal 2013
Microsoft Office Home and Business 2013	Office または Office Home and Business 2013
Microsoft Word 2013	Word
Microsoft Excel 2013	Excel
Microsoft Outlook 2013	Outlook
Windows Media® Player 12	Windows Media Player
Windows Live®	Windows Live
ポータブル CD/DVD ドライブ	CD/DVD ドライブ
マカフィー® サイトアドバイザーライブ 30 日間限定版	サイトアドバイザーライブ
マカフィー® マルチアクセス	マカフィー マルチアクセス
Roxio Creator LJ	Roxio Creator

安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。「安全上のご注意」はインターネット上でも公開しています。

<http://azby.fmworld.net/support/manual/safety/>
ここでは、ACアダプタのケーブルと電源ケーブルを合わせて「電源ケーブル」と表記している箇所があります。お使いの機種によっては、搭載されていない機能についての記載もありますが、あらかじめご了承ください。

設置／準備

警告



プラグを抜く

コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

万一の場合に、電源プラグが抜けなくなり、危険につながるおそれがあります。



一般禁止

梱包に使用している袋類は、お子様の手の届く所に置かないでください。

口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因になります。



一般指示

台に設置して使う場合は、台からはみ出したり、片寄ったりしないように載せてください。

本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

振動している場所や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。

本製品が倒れたり、落下して、けが、故障の原因になります。



一般禁止

本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

火災の原因になります。



一般禁止

矩形波が出力される機器 (UPS (無停電電源装置) や車載用 AC 電源など) に接続しないでください。

火災の原因になることがあります。



一般指示

本製品や周辺機器のケーブル類の配線にご注意ください。

ケーブルに足を引っかけ、転倒したり、本製品や周辺機器が落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因になります。



一般禁止

添付もしくは指定された以外のACアダプタや電源ケーブルを本製品に使ったり、本製品に添付のACアダプタや電源ケーブルを他の製品に使ったりしないでください。

感電、火災の原因になります。



一般指示

電池を機器に入れる場合は、+ (プラス) と- (マイナス) の向きに注意し、表示どおりに入れてください。

間違えると電池の破裂、液もれ、発火の原因になります。



一般指示

電源ケーブルは、指定された電圧 (100V) の壁のコンセントやコネクタに直接かつ確実に接続してください。

不完全な接続状態で使用すると、感電、火災の原因になります。



一般禁止

タコ足配線をしないでください。

感電、火災の原因になります。



アース線を接続せよ

プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。

安全のため、電源プラグにはアース線が付いています。アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電の原因になります。アースネジ付のコンセントが利用できない場合は、お近くの電気店もしくは電気工事士の資格をもつ人に、アースネジ付コンセントの取り付けについてご相談ください。電源ケーブルを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。



一般禁止

アース線はガス管には絶対に接続しないでください。

火災の原因になります。



ぬれ手禁止

濡れた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。

感電の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルを束ねた状態で使用しないでください。

発熱して、火災の原因になります。



注意



一般禁止

本製品を調理台や加湿器のそばなどの油煙や湯気の多い場所や、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になることがあります。



一般禁止

本製品や AC アダプタを直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそば、ホットカーペットの上で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災、故障の原因になります。



プラグを抜く

本製品を移動する場合は、次の点にご注意ください。

電源ケーブルが傷つき、感電、火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因になります。

- ・電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- ・接続されたケーブルなどを外してください。
- ・作業は足元に充分注意して行ってください。



一般禁止

電話回線ケーブル（モジュラーケーブル）の取り外しや接続を行うときは、モジュラーコンセントの端子部分に触れないでください。

電話がかかってくると電話回線上に電圧がかかるため、電話回線ケーブルを抜いたときにモジュラーコンセントの端子に触れると感電のおそれがあります。

使用時



警告



火気禁止

火中に投入、加熱しないでください。

発煙、発火、破裂の原因になります。



一般禁止

端子をショートさせないでください。

感電、火災の原因になります。



プラグを抜く

発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。

異常状態のまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、異常な現象がなくなるのを確認して、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



プラグを抜く

落としたり、カバーなどを破損した場合は、電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。

バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも取り外してください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃やしやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

本製品や本製品を設置している台にぶら下がったり、上に載ったり、寄りかかったりしないでください。

本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

排気孔付近や AC アダプタなど、本製品の温度が高くなる場所に長時間直接接触して使用しないでください。

排気孔からの送風に長時間あたらしないでください。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。

低温やけどの原因になります。



水場使用禁止

風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になります。



水ぬれ禁止

本製品の上や周りに、花瓶やコップなど液体の入ったものを置かないでください。

水などの液体が本製品の内部に入って、感電、火災の原因になります。

防水性能については、「防水性能」(→ P.68)をご覧ください。



一般禁止

本製品を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持たないでください。

故障、けがの原因になります。

持ち上げたり運んだりするときは、本製品の底面あるいは本製品中央の両脇を持ってください。



一般禁止

使用中の本製品や AC アダプタに、ふとんや布などをかけないでください。通風孔がある場合は、ふさがないでください。

通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にはこりを取ってください。

内部に熱がこもり、火災の原因になります。



一般指示

ご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。

過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



一般指示

本製品や周辺機器のケーブル類に、お子様が容易に触れないようにしてください。

誤って首に巻きつけると窒息の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体を落下させたり、強い衝撃を与えないでください。

カバーが割れたり、変形したり、内部の基板が壊れ、故障、感電、火災の原因になります。修理は、弊社問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

自転車、バイク、自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。

安全走行を損ない、事故の原因になります。安全な所に止めてからお使いください。



一般禁止

バッテリーパックや電池を取り扱うときは、次の点にご注意ください。

液もれ、けが、やけど、破裂、火災、周囲を汚す原因になります。

- ・指定された方法以外で使用しない
- ・分解や改造をしない
- ・加熱したり、火の中に入れてたりしない
- ・熱器具に近づけない
- ・火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりしない
- ・落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えない
- ・先のとがったもので力を加える、強い圧力を加えない
- ・ショートさせない
- ・端子部分をぬらしたり、水の中に入れてたりしない
- ・金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに携帯、保管しない
- ・お子様の手の届く所に保管しない
- ・乾電池を充電しない
- ・ハンダ付けしない

特に、バッテリーパックは、落下などの衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって発熱・発火し、けがの原因になったり、破裂・液もれによる周囲の汚損の原因になることがあります。

バッテリーパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。



一般禁止

電源ケーブルやACアダプタが傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルの接続部分に、ドライバーなどの金属を近づけないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルは、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。感電、火災の原因になります。



一般禁止

ACアダプタ本体に電源ケーブルをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルを抜くときは、コード部分を引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルが傷つき、感電、火災の原因になります。

無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARSURE の注意

次の場所では、無線通信機能を停止してください。「ワイヤレススイッチ自動オン機能」対応の CLEARSURE 搭載機種の場合は、自動的に無線通信機能がオンにならないようにしてください。無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。



一般指示

- ・ 病院内や医療用電子機器のある場所
特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。
- ・ 航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- ・ 自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- ・ 満員電車の中など付近（22cm（NFC ポートは 12cm））に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性がある場所



レーザー光
注意

本製品は、レーザー光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。

- ・ 光源部を見ないでください。
光学ドライブのレーザー光の光源部を直接見ないでください。
- また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザー光線が装置外にもれた場合は、レーザー光線をのぞきこまないでください。
レーザー光線が直接目に照射されると、視力障害の原因になります。
- ・ お客様自身で分解したり、修理・改造したりしないでください。
レーザー光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因になります。



レーザー光
注意

レーザーマウスは底面から、目に見えないレーザー光が出ています。
クラス 1 レーザ製品は、予測可能な使用環境において極めて安全ですが、マウス底面の光は直視しないでください。

注意



一般禁止

本製品の上に重いものを置かないでください。
けがの原因となることがあります。

本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは1時間に10～15分の休憩時間や休憩時間の間の小休止をとるようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因になることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」などの目の健康障害の原因になります。

- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体が付く高さに調節する。
- ・手首や腕、肘は机やいすの肘かけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、肘の角度が90度以上になるように使用する。



一般指示



指のケガに注意

液晶ディスプレイを開閉するとき、手などはさまないよう注意してください。

けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



指のケガに注意

光学ドライブのトレーやスロット、コネクタ、通風孔など、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。ディスクなどをセットまたは取り出す場合も、手や指を入れないでください。

けが、感電の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

ヘッドホン・イヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因になります。



一般指示

電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。

ヘッドホン・イヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因になります。



高温注意

「ExpressCard™」、「PCカード」、「SDメモリーカード」、「メモリースティック」、「UIMカード」の使用終了直後は、高温になっていることがあります。

これらを取り外すときは、使用後十分に温度が下がるのを待ってから取り出してください。

やけどの原因になります。



一般禁止

マウス底面の光を直視しないでください。レーザー式マウスの場合も、目に見えないレーザー光が出ています。

目の痛みなど、視力障害を起こすおそれがあります。

メンテナンス／増設

警告



分解禁止

お客様ご自身で修理、改造しないでください。また、マニュアルなどで指示がある場合を除いて分解しないでください。

けが、感電、火災の原因になります。

修理や点検などが必要な場合は、弊社問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、お子様の手の届く所に置かないでください。

誤って飲み込むと窒息の原因になります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



一般指示

メモリの取り付け、取り外しやお手入れのときなど、カバーをあける場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。

作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。お子様が手を触れると、けが、故障の原因になります。



一般指示

メモリの取り付け、取り外しやお手入れのときなど、カバーをあける場合は、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いた後、しばらくたってから行ってください。

カバーをあけた状態で電源ケーブルをコンセントに挿し込んだり、電源を入れたりしないでください。

やけど、感電、火災の原因になります。



一般禁止

清掃するときに、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。

故障や火災の原因になります。



一般禁止

本製品の内部に搭載されているリチウム電池には触らないでください。

取り扱いを誤ると、人体に影響を及ぼすおそれがあります。リチウム電池はご自身で交換せずに、弊社問い合わせ窓口にご相談ください。



一般指示

必ず本製品に添付のバッテリーパックを使用してください。寿命などでバッテリーパックを交換する場合は、必ず指定品を使用してください。

指定以外のバッテリーパックは、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため、火災、破裂、発熱のおそれがあります。



一般禁止

指定以外の電池は使用しないでください。

新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

電池の破裂、液もれにより、火災、けが、周囲を汚損する原因になります。



一般指示

電源ケーブルはコンセントから定期的に抜いて、接続部分のほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると感電、火災の原因になります。1年に一度は点検清掃してください。特に電源プラグ部分についてはほこりがたまりやすいので、ご注意ください。



プラグを抜け

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどを行うときは、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも外してください。

故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電、火災の原因になります。また、本製品および周辺機器が故障する原因になります。



注意



一般禁止

周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

けが、故障の原因になります。



一般禁止

本製品内部の突起物、および指定された部品以外には、手を触れないでください。

けが、故障の原因になります。



高温注意

電源を切った直後は、本製品の内部が高温になっています。

メモリや拡張カードなどの内蔵オプションを取り付け／取り外す場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、十分に温度が下がるのを待ってから作業を始めてください。やけどの原因になります。



一般指示

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどを行うときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。けがの原因になります。

異常時



警告



プラグを抜け

本製品の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐに本製品の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。

バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも取り外してください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

 **警告**

バッテリーパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。



破裂注意

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

バッテリーパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般のゴミといっしょに火中に投げられると破裂のおそれがあります。

 **注意**

本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源ケーブルをコンセントから抜いてください。



プラグを抜け

バッテリーパックや乾電池を取り外せる場合は、取り外してください。

火災の原因になります。

本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

パソコン本体にはリチウム電池を使用しております。



破裂注意

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには、乾電池、充電池を使用しております。一般のゴミといっしょに火中に投げられると電池が破裂するおそれがあります。

使用済み電池の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまで本製品やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。



一般禁止

落雷の可能性がある場合は、あらかじめ本製品の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による故障、感電、火災の原因になります。

タッチパネルのガラスにヒビ、傷などがあった場合は、すみやかにご使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般指示

そのまま使用するとけがをするおそれがあります。

バッテリーパックや電池が液もれし、もれ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。



一般指示

失明など障害の原因になります。

液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

 **注意**

カバーや部品などが破損・脱落したり、キーボードのキートップが外れた場合は、使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



指のケガに注意

破損した製品や破片によるけがや故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。

液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で15分以上洗浄した後、医師に相談してください。



一般指示

中毒を起こすおそれがあります。

液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

取り扱い上のご注意

パソコンの使用環境についての注意

パソコンは精密機器です。使用環境に注意してご利用ください。取り扱い方法を誤ると故障や機能低下、破損の原因となります。

内容をよくご理解のうえ、注意してお取り扱いください。

●パソコンをお使いになる環境の温度と湿度

次の範囲内としてください。

- ・動作時：温度 10～35℃／湿度 20～80%RH
- ・非動作時：温度 10～60℃／湿度 20～80%RH

●パソコンの結露

動作時、非動作時にかかわらず、パソコン本体が結露しないようにご注意ください。

結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。パソコンを温度の低い場所から温度の高い場所、または、温度の高い場所から温度の低い場所へ移動すると、パソコン内部に結露が発生する場合があります。結露が発生したままパソコンを使用すると故障の原因となります。

パソコンを移動したときは、直射日光が当たらない風通りの良い場所に設置し、室温と同じくらいになるのを待ってから電源を入れてください。

●パソコンをお使いになれない場所

・直射日光のあたる場所

感電、火災、破損や故障の原因となります。

・熱がこもりやすい場所（棚、ドア付 AV ラック、ふとんやクッションの上など）

放熱が妨げられ、故障の原因となります。パソコン本体および AC アダプタは平らで堅い机の上などに置いてください。

・静電気の発生しやすい場所

パソコンは、静電気に対して弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。使用する前には、アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

・電磁波の影響を受けやすいもの（テレビやラジオなど）や、磁気を発生するもの（モーターやスピーカーなど）に近い場所

故障や機能低下の原因となります。

・腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が存在する場所

パソコン本体が腐食する可能性があります。

●パソコン使用中の環境

- ・パソコンを長時間同じ場所に設置すると、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがありますので、ご注意ください。

●タコ足配線はしないでください。

感電・火災の原因となります。

●無線通信機能をお使いになる場所

- ・パソコン本体に搭載されている無線通信機能をお使いになるときは、できるだけ見通しの良い場所でお使いください。電子レンジの近く、アマチュア無線機の近くや足元など見通しの悪い場所でお使いになると、周囲の電波の影響を受けて、接続が正常に行えないことがあります。

- ・お使いになる場所によっては電波を停止する必要があります（「安全上のご注意」▶「無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARSURE の注意」（→ P.15））。機内モードに切り替えて電波の発信を止めてください。

手順については、サポートページから Q&A ナンバー「5909-9593」を検索してご覧ください。サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます（→ P.107）

●GPS をお使いになる条件

- ・GPS は人工衛星からの電波を利用しているため、次の条件では、電波を受信できない、または受信しにくい状況が発生しますのでご注意ください。
 - ・建物の中や直下
 - ・地下やトンネル、地中、水中
 - ・かばんや箱の中
 - ・ビル街や住宅密集地
 - ・密集した樹木の中や下
 - ・高圧線の近く
 - ・自動車、電車などの室内
 - ・大雨、雪などの悪天候
 - ・パソコン本体の周囲に障害物（人や物）がある場合
- ・GPS アンテナの付近を手で覆わないようにしてお使いください。

使用上のお願い

■パソコン本体の取り扱い上の注意

- 衝撃や振動を与えないでください。
- 操作に必要な部分を押したり、必要以上の力を加えたりしないでください。
- 磁気プレスレットや磁気ネックレスなど、磁気を発生するものを身につけたまま、操作しないでください。画面が表示されなくなるなどの故障の原因となるおそれがあります。
- マニュアルに記述されている箇所以外は絶対に開けないでください。
- 液晶ディスプレイを閉じてもスリーブにしない設定の場合は、電源が入っているときにパソコン本体の液晶ディスプレイを閉じないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となることがあります（スリムキーボード添付機種のみ）。
- 水などの液体や金属片、虫などの異物を混入させないようにしてください。故障の原因になる可能性があります。
- パソコン本体を立てたり、傾けて置かないでください。パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。
- パソコン本体は昼夜連続動作（24 時間動作）を目的に設計されていません。ご使用にならないときは電源を切ってください。

■パソコンの温度上昇に関して

- 長時間使用すると、パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じるがありますが、故障ではありません。これは、パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温くなるためです。
- ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起す可能性があります。
- 使用するアプリによっては、スリムキーボードのパームレスト部（手を載せる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起す可能性がありますので、ご注意ください（スリムキーボード添付機種のみ）。

■パソコンを持ち運ぶ場合の注意

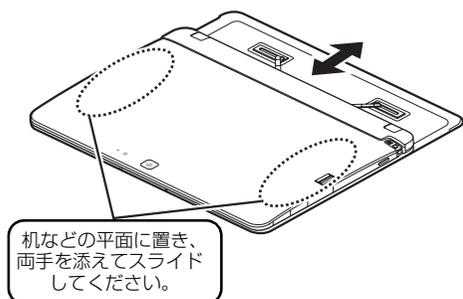
- スリムキーボードに接続したまま移動させるときは、液晶ディスプレイを閉じてください（スリムキーボード添付機種のみ）。
- パソコン本体に接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。
- パソコン本体にメモリーカードをセットしている場合は必ず取り外してください。
- パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手で掴んでください。
- パソコン本体を持ち運ぶ場合は防水キャップを閉めてください。
- パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落としたりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。
- パソコン本体をかばんなどに入れて持ち運ぶ場合には、次の点に注意してください。
 - ・パソコン本体を立てた状態で、かばんなどに入れてください。
 - ・AC アダプタをいっしょに入れて持ち運ぶと、AC アダプタでパソコン本体を傷つけたり、破損したりするおそれがあります。
- パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

■液晶ディスプレイの取り扱い上の注意

- 液晶ディスプレイを開閉するときは、次の点に注意してください（スリムキーボード添付機種のみ）。
 - ・衝撃を与えないようにゆっくりと開閉してください。
 - ・無理に大きく開けないでください。
- 液晶ディスプレイをたたいたり強く押ししたりしないでください。また、ひっかいたり先のとがったもので押ししたりしないでください。
- 表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力が加わると、画面にムラが発生する場合があります。
- 液晶ディスプレイにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- 液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください（スリムキーボード添付機種のみ）。
- 液晶ディスプレイとキーボードの間に、物をはさまないでください（スリムキーボード添付機種のみ）。

■スリムキーボードの取り扱い上の注意 (スリムキーボード添付機種のみ)

- スリムキーボードをスライドする場合は、必ず机などの平らな場所に置き、図の点線部に両手を添えて矢印の方向に動かしてください。平らな場所に置かずにスリムキーボードをスライドすると、スライド部の破損の原因となります。



- スライド部を開いたまま、持ち運ばないでください。破損の原因となります。

■雷についての注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておいてください。また、雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。

安全のため、避雷器の設置をお勧めします。

ただし、どのような避雷器をお使いになってもパソコン本体を保護できない場合があります。あらかじめご了承ください。

□落雷について

落雷には、直撃雷と誘導雷の2種類あります。直撃雷と誘導雷のどちらでも避雷器で保護できない可能性があります。

●直撃雷

避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できます。ただし、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いてもパソコン本体を保護できないことがあります。

●誘導雷

パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、LANケーブルなどから誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。

□落雷時の故障について

落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。

故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

また、場合によっては、落雷によってパソコン本体だけでなく周辺機器などが故障することもあります。

疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面を見続けることです。パソコンをお使いになるときは姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

- 直射日光があたらない場所や、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしない場所に設置し、画面の向きや角度を調節しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調節しましょう。
- 目と画面との距離をとり、疲れにくい位置を保って利用しましょう。
- 1時間以上続けて作業しないようにしましょう。
 - ・続けて作業をする場合には、1時間に10～15分程度の休憩時間を取りましょう。
 - ・休憩時間までの間に1～2分程度の小休止を1～2回取り入れましょう。

認定および準拠について

このパソコンに固有の認定および準拠マークに関する詳細(認証・認定番号を含む)は、次の手順で表示される画面で確認できます。

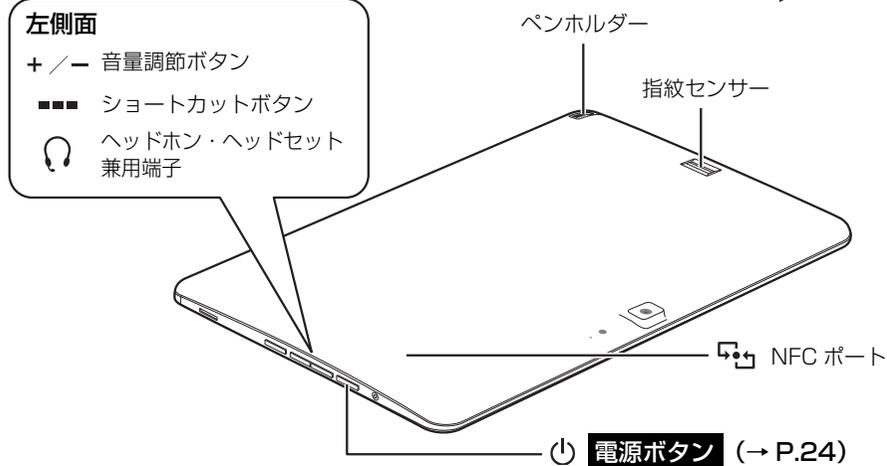
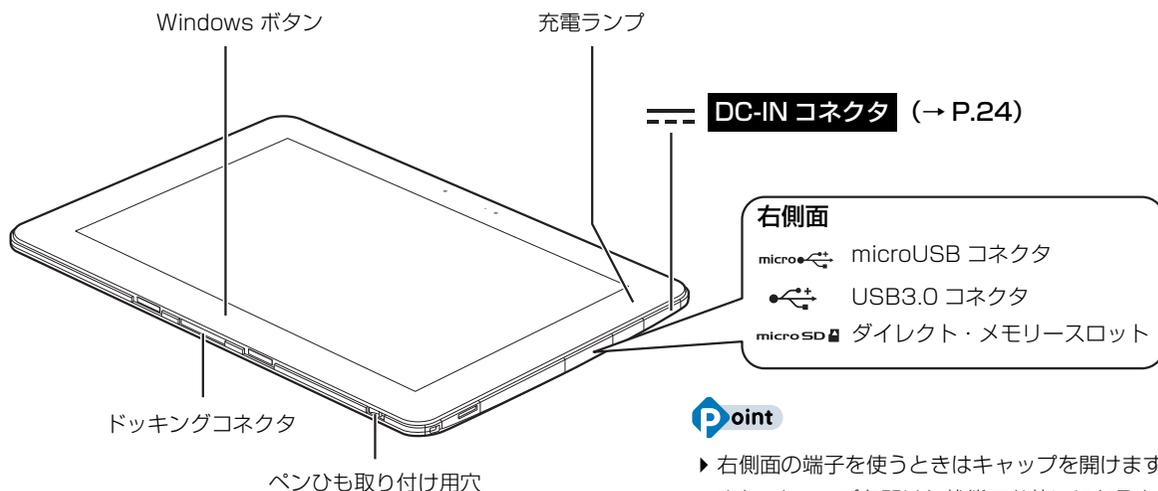
1 BIOS セットアップを起動します。

2 「情報」(「Info」)メニューから「認証表示」(「Display Regulatory Compliance」)を選択します。

BIOS セットアップについて、詳しくは「BIOS の設定」(→ P.161)をご覧ください。

各部の名称について

このパソコンの各部の名称は次のとおりです。



Point

- ▶ 各部の動きや、クレードルやスリムキーボードなどについては、「各部の名称と動き」(→ P.45) をご覧ください。

セットアップを始める前のチェック

セットアップの準備が整っているか確認してください。

□ 添付品の確認は済んでいますか？

→ まだの場合は、『箱の中身を確認してください』をご覧ください。

□ パソコンを使用する場所は決まっていますか？

→ 使用場所については、「パソコンの使用環境についての注意」(→ P.19) をご覧ください。

□ インターネットに接続する準備ができていますか？

→ できていない場合は、プロバイダーと契約してください。

□ ワイヤレス (無線 LAN) を使う場合、ネットワーク名 (SSID) とパスワードが必要です！

→ セットアップの途中で必要になりますので、あらかじめ記載しておいてください。

※ わからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

パスワードはセキュリティキーなどの名称で説明されていることもあります。



ネットワーク名 (SSID)

パスワード

セットアップの流れを確認する

パソコンの準備をする (→ P.24)



Windows のセットアップをする (→ P.24)

Windows のセットアップをする

メールの設定をする

Windows を終了する



パソコンを快適にお使いいただくための準備をする (→ P.38)

● **セットアップ前に周辺機器を接続しないでください**
クレードル、プリンター、USB メモリ、メモリーカードなどは、「Windows のセットアップをする」が終わるまで接続しないでください。

● **ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では、スリムキーボードも接続しないでください。**

● **必ず AC アダプタを接続してください**
途中でバッテリー残量がなくなると電源が切れてしまい、故障の原因になる場合があります。

所要時間は約 30 分～ 1 時間です。

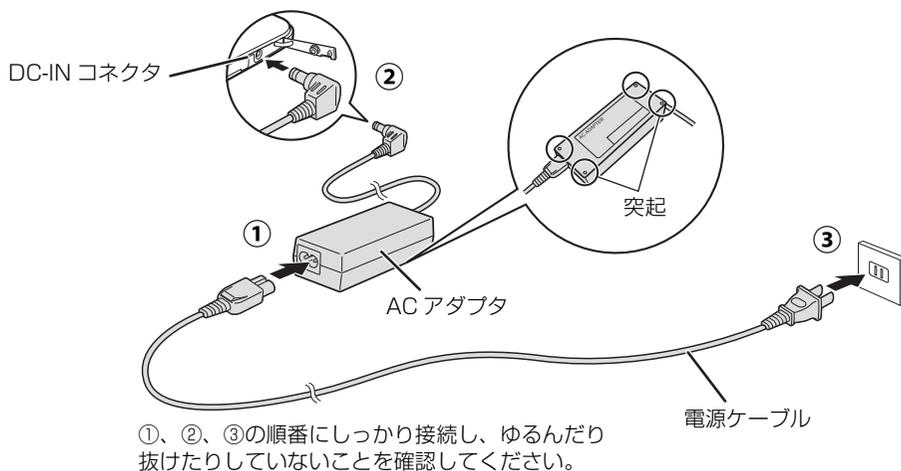
● **このあいだは絶対に電源を切らないでください**
途中で電源を切ると、故障の原因になる場合があります。

● **時間に余裕をもって作業してください**

パソコンの準備をする

1 パソコンを電源に接続します。

- ① AC アダプタに電源ケーブルを接続します。
- ② パソコン本体側面の DC-IN コネクタ (→ P.22) のキャップを開け、AC アダプタを接続します。
- ③ 電源プラグをコンセントに接続します。
AC アダプタに突起がある場合は、その面を下にして設置します。

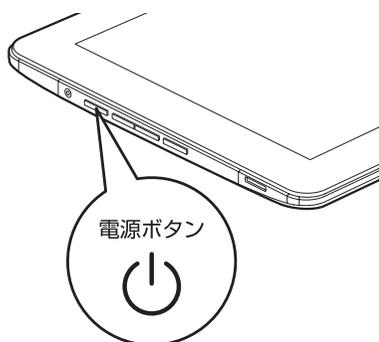


(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

Windows のセットアップをする

1 無線 LAN をお使いになる場合、接続するネットワーク名 (SSID) とパスワードを確認します (→ P.23)。

2 電源ボタン (⏻) をポチッと押します。



重要

- ▶ 「地域と言語」画面が表示されるまで絶対に電源を切らないでください。

3 「地域と言語」画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。



画面が何度か変化します。

Point

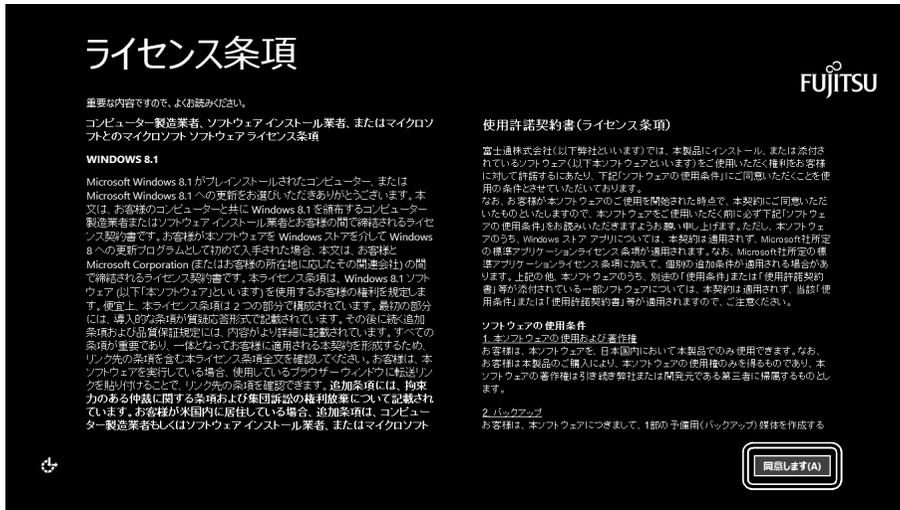
- ▶ しばらく操作をしないと省電力機能が働き、画面が真っ暗になることがありますが、電源が切れたわけではありません。Windows ボタンを押すか、ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M で専用キーボードを接続している場合はフラットポイントやキーボードを操作すると元の画面に戻ります。画面が戻らなかった場合は、電源ボタンをポチッと押してください。

4 「地域と言語」画面が表示されたら、「次へ」をタップします。

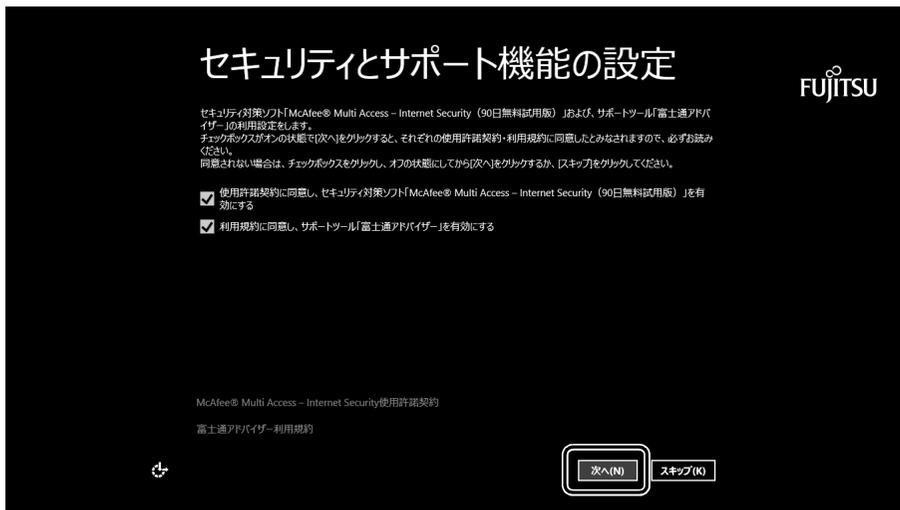


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

5 「ライセンス条項」を確認し、「同意します」をタップします。



6 セキュリティとサポート機能についての説明をよく読んで、「次へ」をタップします。



7 パソコンに好きな名前（PC 名）を付けます。



① PC 名を入力します。

タッチキーボードを使用します（ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M で専用キーボードを接続している場合を除く）。入力する場所をタップすると、画面上にタッチキーボードが表示されます。

例：「fmv1」という名前にする場合は、タッチキーボードで「f」、「m」、「v」とタップし、「&123」をタップして画面を切り替えて「1」をタップします。専用キーボードでは **[F]**、**[M]**、**[V]**、**[1]** と押します。

② 「次へ」をタップします。

Point

- ▶ PC 名は、12 文字以内の半角英数字（a～z、A～Z、0～9）でお好きな名前を入力してください。数字を使う場合は英字と組み合わせてください。

8 「セットアップを始める前のチェック」(→ P.23) で記入したネットワーク名 (SSID) をタップします。

わからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



Point

- ▶ ARROWS Tab WQ2/Mでキーボード・ドッキングステーションを接続し、有線LANを使う場合はネットワークが「接続済み」となっていることを確認し、「次へ」をタップします。手順 10 に進んでください。



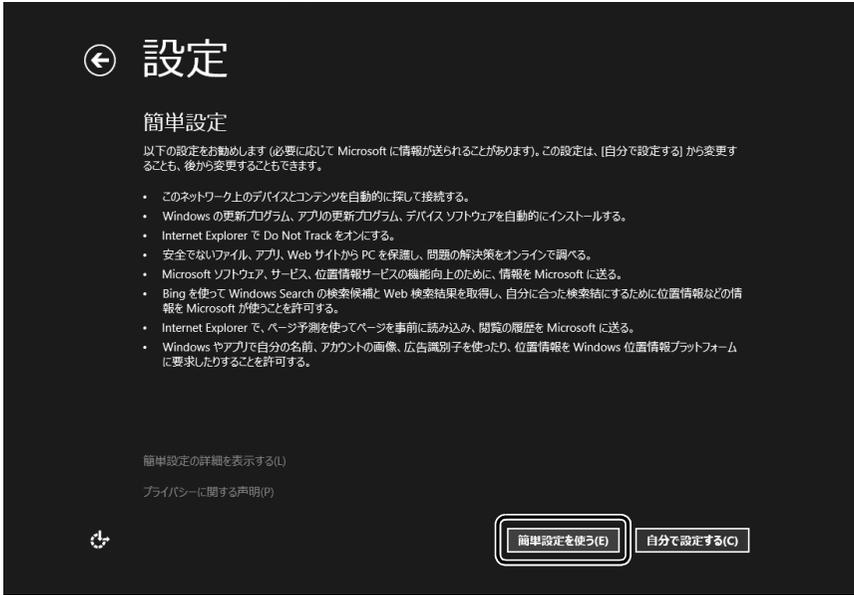
- ▶ セキュリティのためネットワーク名 (SSID) が表示されないように設定している場合は、「非公開のネットワーク」をタップし、画面の表示に従って操作してください。

9 このネットワークのパスワードを入力します。



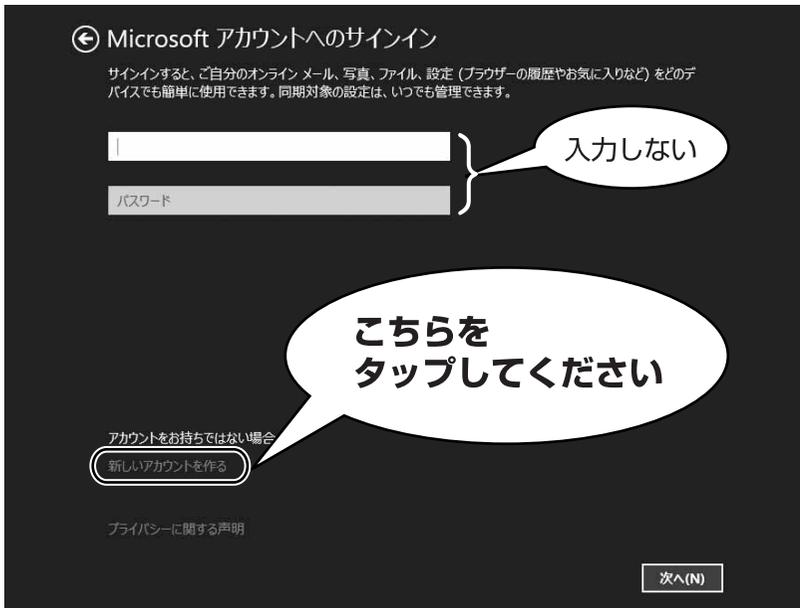
- ① 「セットアップを始める前のチェック」(→P.23)で記入したパスワードを入力します。「ルーターのボタンを押しても接続できます。」と表示されていたら、無線LANアクセスポイント (ルーター) のボタンを押して接続できる場合があります。詳しくは、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- ② 「次へ」をタップします。

10 「簡単設定を使う」をタップします。



11 「新しいアカウントを作る」をタップします。

パソコンへサインインするための Microsoft アカウント (メールアドレス) を新規作成します。



Point

- ▶ 次のような画面が表示された場合は、「インターネットに接続せずにセットアップしたときは」(→ P.41) の手順に従って、セットアップを続けてください。



アカウント取得についてのお問い合わせ

手順 11 ~ 17 の Microsoft アカウントを取得する操作については、日本マイクロソフト株式会社のサーバーにインターネットで接続して行っています。本書と異なる画面が表示された場合など、ご不明な点は日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

日本マイクロソフト株式会社 パーソナルサポート窓口

※お電話で問い合わせると、「マイクロソフト コミュニティ」のご利用を案内される場合があります。

電話番号：0120-54-2244

受付時間：月～金／9:30-12:00、13:00-19:00 (土・日・祝祭日および指定休業日を除く)

マイクロソフト コミュニティ

URL：<http://answers.microsoft.com/ja-jp/>

12 新しくメールアドレスを作ります。

- ① メールアドレスとして使いたい文字列を入力します。
半角英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) およびピリオド (.)、ハイフン (-)、下線 (_) のみ使用できます。

- ② パスワードを設定します。下段には設定したパスワードを再度入力してください。

【パスワードの作成例】

半角英字

半角数字
半角記号

ab1-c23d4

8文字以上

安全性を高めるため、8文字以上で、半角英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) および半角記号を組み合わせて作成してください。

※ 例とまったく同じ文字をパスワードとして使わないでください。

- ③ 姓・名を入力します。
- ④ 「次へ」をタップします。

13 次の欄に手順12で作ったメールアドレスとパスワードを記入します。

パスワードは絶対に忘れないようにしてください。
サインインのときに毎回入力が必要です。

※参照しやすいよう本書の巻末にも記入欄を用意しています。
※第三者に漏れないように十分に注意して管理してください。

14 パスワードを忘れた場合のセキュリティ情報を入力します。

ここで入力した情報で、パスワードを再設定することができます。

①および、②～④のうち2つ以上を入力してください。

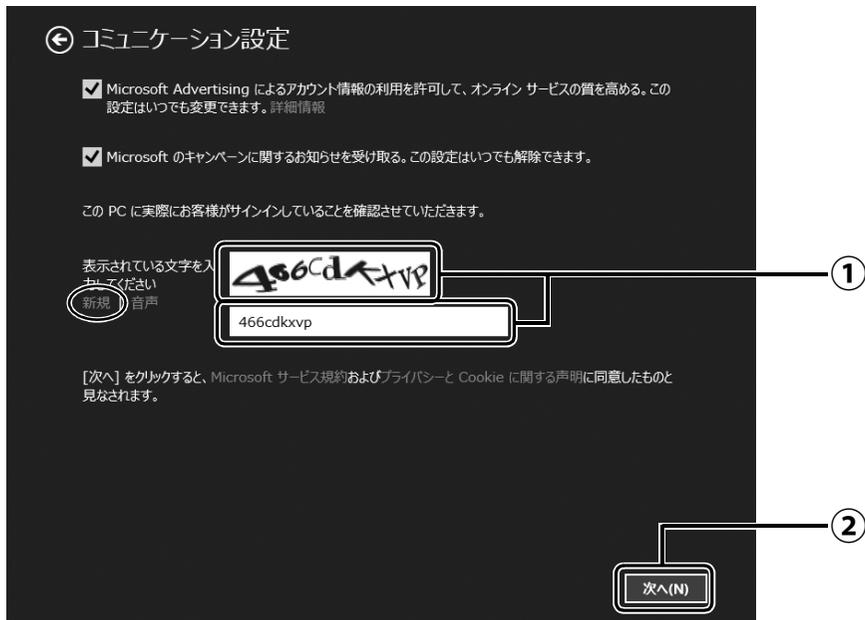
The screenshot shows a dark-themed interface titled "セキュリティ情報の追加" (Add Security Information). Below the title is a sub-header "この情報により、アカウントとデバイスの安全性を高めることができます。この情報は、パスワードを復元する際のみ使われます。" (This information can help improve the security of your account and device. This information is only used when restoring your password.).

The form contains the following fields:

- 生年月日** (Date of Birth): Three dropdown menus for year, month, and day. A line labeled ① points to the year dropdown.
- 携帯電話のメールアドレスまたは電話番号** (Mobile phone email address or phone number): A dropdown menu currently showing "日本" (Japan). A line labeled ② points to this dropdown.
- 連絡用メールアドレス** (Contact email address): A text input field. A line labeled ③ points to this field.
- 秘密の質問** (Secret question): A dropdown menu. A line labeled ④ points to this dropdown.
- 答え** (Answer): A text input field.
- 次へ(N)** (Next): A button at the bottom right. A line labeled ⑤ points to this button.

- ① ▾ をタップし、生年月日を選択します。
- ② 「日本」 になっていることを確認し、2 段目に携帯電話のメールアドレス、または最初の 0 と間のハイフン「-」を抜いた電話番号を入力します。
例：電話番号が「045-□□□-△△△△」の場合、「45□□□△△△△」と入力します。
(□△は数字を表しています。)
- ③ 以前から使用しているメールアドレスを入力します（携帯電話のメールアドレスを除く）。
お持ちでない場合は②と④を入力してください。
- ④ ▾ をタップし、秘密の質問を選択し、2 段目に答えを入力します。
- ⑤ 「次へ」 をタップします。

15 最終設定を行います。

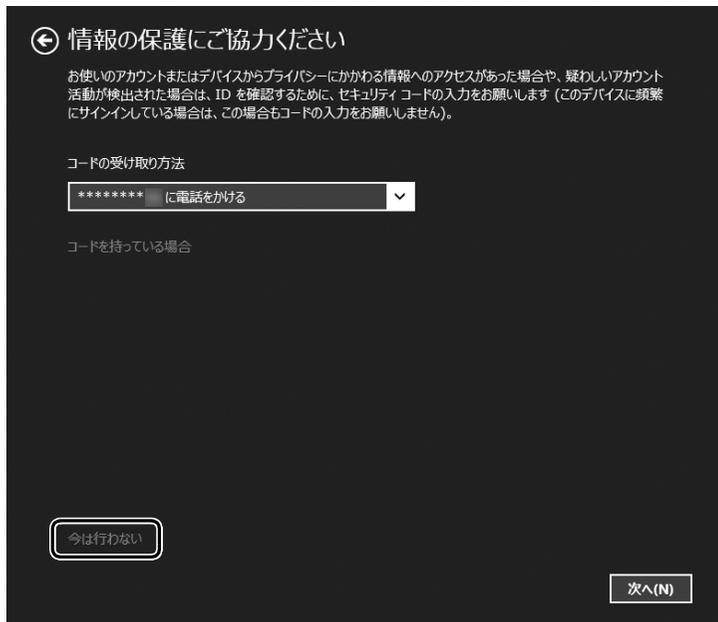


- ① 画面に表示されている文字を入力します。
文字が読めない場合は「新規」をタップします。新しい文字が表示されます。
- ② 「次へ」をタップします。

Point

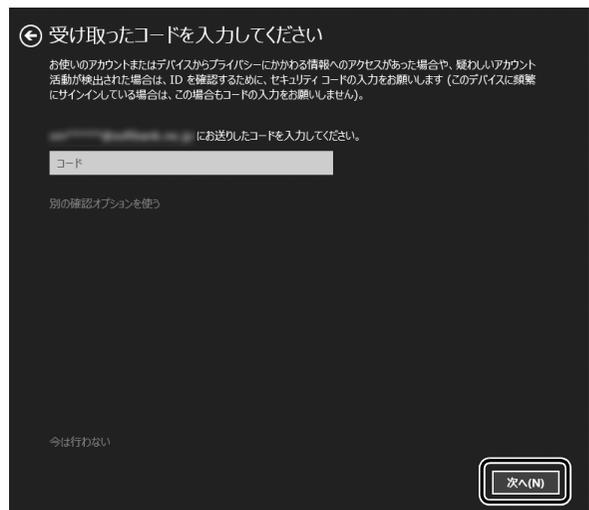
- ▶ 文字の入力が失敗した場合、「入力した文字が画面の文字と一致しません」というメッセージが表示され、新しい文字が表示されます。表示されている文字を再度入力してください。
- ▶ 入力したメールアドレスが、すでに他の人に使用されていた場合、手順 12 に戻ります。別のメールアドレスを入力してください。メールアドレス以外の入力した情報はそのまま残っていますが、手順 15 はやり直しになります。
- ▶ セキュリティ情報の入力に間違いがあった場合は、手順 14 に戻ります。入力内容を修正した後、手順 15 をやり直しになります。

16 「今は行わない」をタップします。



Point

- ▶ 「次へ」をタップした場合は、右の画面が表示され、同時に次の方法でコードが送られてきます。
 - ・手順14で電話番号を記載した場合は、電話がかかってきます。電話を受けると、音声でコードを伝えてきます。
 - ・手順14で携帯のメールアドレスを記載した場合は、携帯へメールが送られてきます。
 - ・手順14で電話番号も携帯のメールアドレスも記載しなかった場合は、パソコンのメールアドレスにメールが送られてきます。



送られてきたコードを入力し、「次へ」をタップします。

電話、メールが受信できなかったり、聞き取れなかったりした場合は、🔄をタップして手順14へ戻り、その場で受信できる電話番号またはメールアドレスに変更し、やり直してください。

17 SkyDrive の説明が表示された場合は、「次へ」をタップします。

画面が何度か変化します。

スタート画面が表示されるまでお待ちください。



画面が何度か変化します



(スタート画面)

18 スタート画面で画面左上にある「メール」を タップします。

Microsoft アカウントとしてお使いのメールアドレスで、
メールを送受信できるようになります。



Point

- ▶ 「受信トレイの準備中に別のアカウントを追加しますか?」と表示された場合は、「今は追加しない」をタップします。

プロバイダーから提供されたメールアドレスなどでメールを使うには

Windows ストア アプリの「メール」ではお使いになれません。

「Outlook」、または「Windows Live メール」をお使いください。

使い方については、「富士通アドバイザー」の「メールの使い方」をご覧ください(→ P.38)。

「Outlook」について、ご不明な点がある場合は、次のお問い合わせ窓口をご利用ください。

PC コンシェルジュサービス [有料] (富士通株式会社提供)

電話：0120-99-5462 (携帯電話からの場合：045-514-2262)

受付時間：9:00～21:00

URL：<http://azby.fmworld.net/concierge/>

日本マイクロソフト株式会社 技術サポート窓口

電話：0120-54-2244

受付時間：月～金 / 9:30～12:00、13:00～19:00、

土 / 10:00～17:00 (日・祝祭日および指定休業日を除く)

URL：<http://support.microsoft.com/contactus/>

19 Windows ボタンを押して、スタート画面を表示します。
 手順 18 で起動した「メール」などのアプリは、終了させる必要はありません。

20 Windows を終了するため、電源ボタン (⏻) をポチッと押します。
 セットアップを完了させるため、いったん Windows を終了させてください。

重要

- ▶ 電源ボタンを ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M では 4 秒以上、ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では 10 秒以上押さないでください。
 パソコンの電源が強制的に切れてしまい、データが失われる場合もあります。詳しくは、「Windows をスタートする／終了する」(→ P.50) をご覧ください。

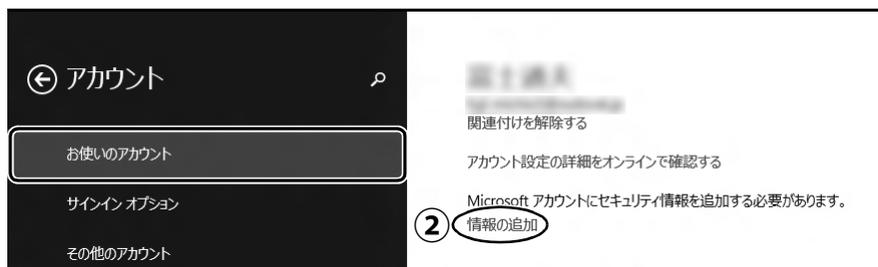
これで、Windows のセットアップが完了しました。

この PC で本人確認を行う

取得した Microsoft アカウントでこのパソコンを快適にお使いになるために、本人確認を行う必要があります。

1. 「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。

2. 「設定チャーム」で「PC 設定の変更」をタップし、「アカウント」をタップします。
3. ①「お使いのアカウント」をタップし、②「情報の追加」または「確認する」と表示されている場合は、本人確認を行う必要があります。
 タップし、その後は画面の指示に従って操作してください。



パソコンを快適にお使いいただくための準備をする

パソコンを最新の状態にアップデートするなど、パソコンを使うために知っておいていただきたいことや、「Word」や「Excel」を使うための準備などについてご案内します。
（「Word」、「Excel」は Office 搭載機種のみお使いになれます。）

1 電源ボタン（) をポチッと押します。

2 ロック画面が表示されたら、下から上にスライドします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』



3 パスワードを入力し、 をタップします。

「Windows をセットアップする」の手順 13 で記入したパスワードです。

4 スタート画面が表示されたら、「富士通アドバイザー」をタップします。



5 富士通アドバイザーの画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「同意する」をタップします。



6 「富士通アドバイザーをバックグラウンドで実行しますか？」と表示されたら、「許可」をタップします。

この後は、画面の指示に従って操作を進めます。

■ 次のお知らせはできるだけ早くお読みください

● ワード・エクセルの準備（Office 搭載機種のみ）

Office をインストールします。

● パソコンを最新の状態にする

セキュリティ対策アプリや Windows を最新の状態にします。

● 使用上のご注意

このパソコンをお使いになるうえで知っておいていただきたい内容です。

● Windows 8.1 の使い方

Windows の基本操作や、パソコンの音量や画面の明るさの調整方法などをご紹介します。

Point

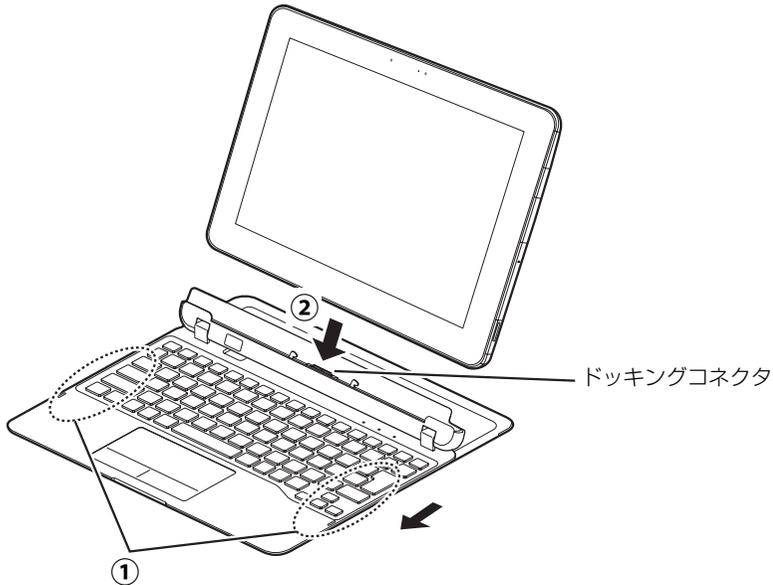
- ▶ 「富士通アドバイザー」は、このほかにも、パソコンを快適にお使いいただくためのお知らせを配信します。定期的にご確認ください。

■ スリムキーボードを取り付ける／取り外す

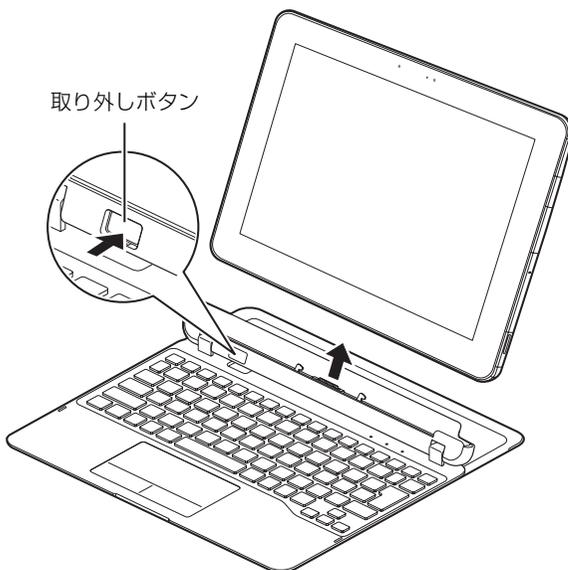
スリムキーボードは、WQ1/M をご購入時にスリムキーボードを選択した場合のみ添付されています。それ以外の機種はオプションとして用意されています。

スリムキーボードをお使いになる場合は、次のように取り付けます。

- ① スリムキーボードを平らな場所に置き、図の点線部に両手を添えて手前にスライドします。
- ② ドッキングコネクタと、パソコン本体のドッキングコネクタ（→ P.22）の位置を合わせて、パソコン本体をまっすぐ下ろし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。



取り外す場合は、スリムキーボードの取り外しボタンを押し、パソコン本体をまっすぐ上に持ち上げます。



重要

- ▶ スリムキーボードをスライドして収納する場合は、「スリムキーボードの取り扱い上の注意」（→ P.21）をご覧ください。

Point

- ▶ クレードル（添付機種のみ）の取り付け／取り外しについては、「取り扱い」－「クレードル」（→ P.66）をご覧ください。

インターネットに接続せずにセットアップしたときは

ここでは、セットアップ中にインターネットに接続しなかった場合、どのようにセットアップを完了したら良いか説明します。操作の流れは次のようになります。

Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する (→ P.41)

インターネットに接続する (→ P.42)

Microsoftアカウントに切り替える (→ P.44)

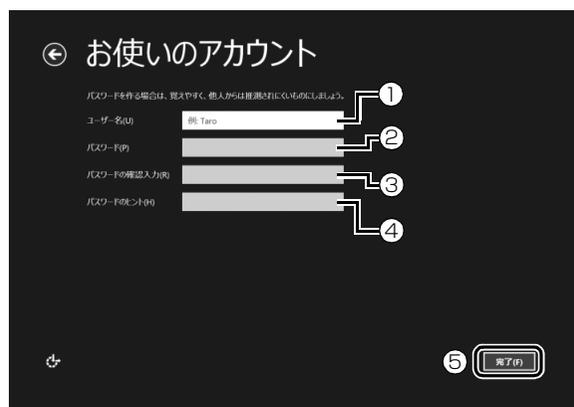
メールの設定をする
(「Windows のセットアップをする」手順 18)

Windows を終了する
(「Windows のセットアップをする」手順 20)

パソコンを快適にお使いいただくための準備をする (→ P.38)

Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する

「Windows のセットアップをする」の手順 11 で次のような画面が表示された場合の操作方法です。



- ① 「ユーザー名」を入力します。
 - ・「Windows のセットアップをする」の手順 7 で入力した PC 名と同じ名前は入力できません。
 - ・12 文字以内の半角英数字 (a～z、A～Z、0～9) で好きな名前を入力してください。
- ② 「パスワード」を入力します。
 - 12 文字以内の半角英数字 (a～z、A～Z、0～9) で好きなパスワードを入力してください。
- ③ ②で入力したものと同じものを入力します。
- ④ 自分だけがパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。かなも漢字も使用できます。
- ⑤ 「完了」をタップします。

Windows のセットアップが完了しました。
スタート画面が表示されるまでお待ちください。

インターネットに接続する

このパソコンをお使いになるときは、有線 LAN または無線 LAN でインターネットに接続してください。インターネットの設定方法については、ご契約のプロバイダーの指示に従ってください。

Point

- ▶ データ通信カードやアダプター、ポケットWi-Fi ルーターなどのデータ通信機器をお使いになりインターネットに接続する場合、設定および使用方法については、データ通信機器に添付のマニュアルをご覧ください。データ通信機器に関しては、ご契約のデータ通信サービス会社にお問い合わせください。

■有線 LAN でインターネットに接続する

有線 LAN をお使いになる場合は、LAN ケーブルを LAN コネクタに接続します。

- 有線 LAN は次の場合に使えます。
 - ・ARROWS Tab WQ2/M でターボモード拡張クレードル、またはキーボード・ドッキングステーションを接続した場合
 - ・ARROWS Tab WQ1/M で拡張クレードルを接続した場合

■無線 LAN でインターネットに接続する

ここでは、無線LANアクセスポイントと内蔵無線LANを使って、無線 LAN でインターネットに接続する方法を説明します。

重要

- ▶ お使いのパソコンに無線LANが搭載されているか、「仕様一覧」(→P.186) をご覧になり、確認してください。無線LANが搭載されていない場合は、有線LAN または別売の無線LANアダプターをお使いください。
- ▶ パソコンを屋外で使う場合、電波法の定めにより5GHz帯の電波を停止する必要があります。

Step1 無線 LAN アクセスポイントを設定する

別売の無線LANアクセスポイントを用意し、インターネットに接続する設定を行ってください。設定方法は、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

重要

- ▶ 無線LANアクセスポイントは、セキュリティの設定をしてお使いになることをお勧めします。セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

Step2 無線 LAN アクセスポイントの設定を記入する

無線LANアクセスポイントに設定した情報を、次の欄に記入してください。パソコンに無線LANの接続設定をするときに、必要になります。

記入後は第三者に漏れないよう注意してください。無線LANアクセスポイントの設定情報がわからない場合は、**無線LANアクセスポイントのメーカーにお問い合わせください。**

- ネットワーク名 (SSID)



無線LANアクセスポイントの名前のようなものです。パソコンから接続する無線LANアクセスポイントを識別するために利用されます。

- パスワード



無線LANアクセスポイントにセキュリティをかけるときに設定します。

Step3 パソコンの設定をする

Windows 8.1の標準機能を使って無線LANの設定を行う方法を説明します。

1 無線LANアクセスポイントの電源が入っていることを確認します。
無線LANアクセスポイントの電源の入れ方については、無線LANアクセスポイントに添付されているマニュアルをご覧ください。

2 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。


3 「設定チャーム」で「ネットワーク」アイコンをタップします。



4 次の画面の操作をします。



- ① 「Wi-Fi」がオフになっていたら、 (オフ) をタップして (オン) にします。
- ② Step2で記入した無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) をタップを選択します。
- ③ 「自動的に接続する」の をタップして にします。

④ 「接続」をタップします。

5 次の画面の操作をします。



① Step2で記入した無線LANアクセスポイントのパスワードを入力します。

「ルーターのボタンを押しても接続できません。」と表示されていたら、無線LANアクセスポイント (ルーター) のボタンを押して接続できる場合があります。

詳しくは、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

② 「次へ」をタップします。

6 正しく設定できたか確認します。

正しく設定できると、「接続済み」と表示されます。



Point

- ▶ 「接続済み」と表示されなかった場合は、もう一度、Step2で記入した無線LANアクセスポイントの設定情報と、手順5で入力したパスワードを確認してください。
- ▶ 無線LANアクセスポイントで設定した内容と同じ情報をパソコンに設定しないと、ネットワークに接続できません。無線LANアクセスポイントの設定がわからない場合は、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

- ▶ プロバイダーから提供されるインターネット接続に必要な情報が正しく設定されているか確認してください。設定する情報がわからない場合は、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

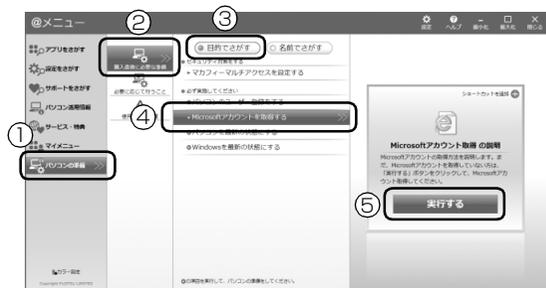
これで無線 LAN を使ったインターネット接続は完了です。

Microsoft アカウントに切り替える

Windows 8.1 では Microsoft アカウントでサインインすることで、様々な機能やサービスを快適に利用できます。インターネットに接続したら、ローカルアカウントを Microsoft アカウントに切り替えてください。

「@メニュー」で切り替え方法を確認できます。

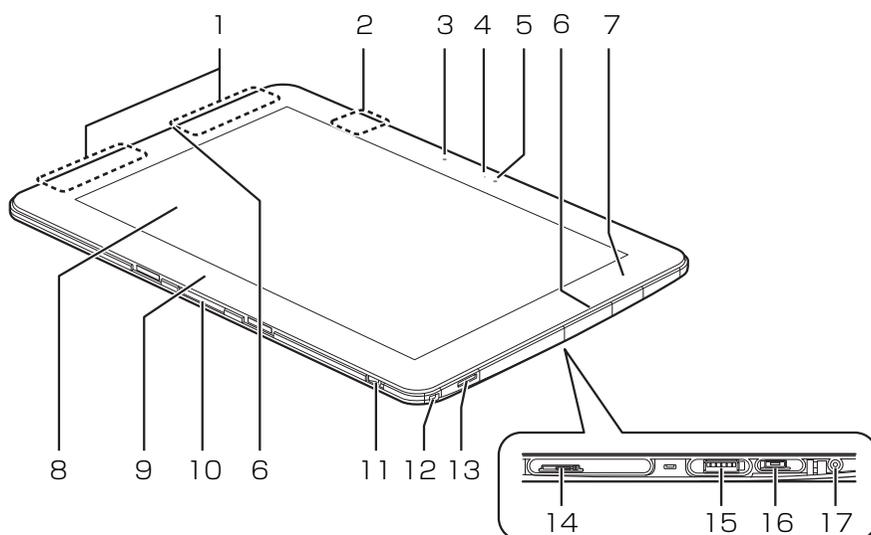
- 1 スタート画面で「@メニュー」をタップします。
- 2 次の画面の操作をします。



- ① 「パソコンの準備」をタップします。
- ② 「購入直後に必要な準備」をタップします。
- ③ 「目的でさがす」をタップします。
- ④ 「Microsoft アカウントを取得する」をタップします。
- ⑤ 「実行する」をタップします。

➡ この後は、「Windows のセットアップをする」の手順 18 (→ P.36) ~手順 20、および「パソコンを快適にお使いいただくための準備をする」(→ P.38) を行ってください。

パソコン本体表面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 内蔵無線 LAN・内蔵 Bluetooth ワイヤレステクノロジー兼用アンテナ

無線 LAN・Bluetooth ワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

Point

▶ 無線 LAN、Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて、詳しくは「通信」(→ P.137)をご覧ください。

2 GPS アンテナ

3 明るさセンサー

周囲の明るさを検知して、自動で最適な明るさに調節します (→ P.63)。

4 イン Web カメラ状態表示 LED

イン Web カメラが動作しているときに点灯します。

5 イン Web カメラ

自分を撮影するときなどに使います。

このイン Web カメラは、次の機能で使用します。

・ Skype (→ P.74)

6 内蔵マイク

テレビ電話用アプリを利用して音声通話するときに使います。

7 充電ランプ

パソコンが AC アダプタやクレードルに接続されている場合に、バッテリーの充電状態を表示します。

8 液晶ディスプレイ (タッチパネル)

入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。画面に触れて操作することができます (→ P.58)。

液晶ディスプレイに強い圧力が加わると、画面にムラが発生する場合があります。

9 Windows ボタン

スリープから復帰 (レジューム) したいときや、スタート画面を表示したいときに押します。

10 ドッキングコネクタ (→ P.66)

クレードルやスリムキーボード (添付機種のみ) を接続します。

11 ペンひも取り付け用穴 (→ P.58)

12 ペンホルダー

このパソコンに添付のペンを収納します (→ P.58)。

13 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.62)。

14 ダイレクト・メモリスロット (microSD)

microSD メモリーカードを差し込みます (→ P.64)。

15 USB3.0 コネクタ (●⇄)

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

16 microUSB コネクタ (micro●⇄)

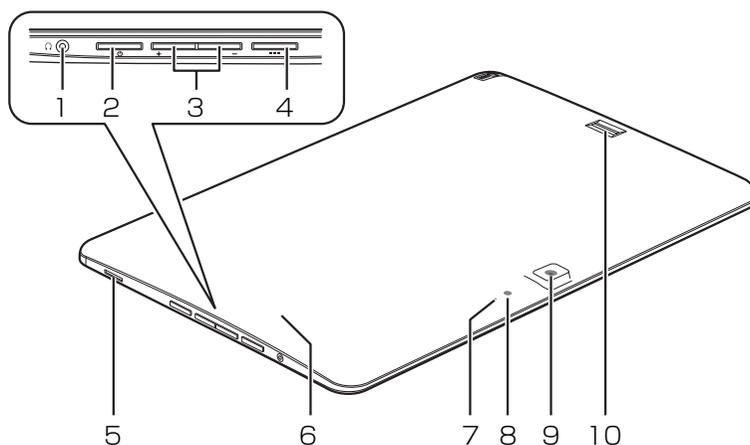
USB 変換ケーブルなど、microUSB 対応の各種変換ケーブル (オプション) を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

17 DC-IN コネクタ (≡)

添付の AC アダプタを接続します。

パソコン本体裏面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子 (防水) (🎧)

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホン・ヘッドセットを接続します。

2 電源ボタン (🔌)

Windows をスタート/終了します (→ P.50)。

3 音量調節ボタン (+/-)

音量を調節します。

4 ショートカットボタン (■)

- ・ ボタンを短く押したとき
「ステータスパネルスイッチ」を起動します (→ P.80)。
- ・ ボタンを長く押したとき
「ワンタッチキャプチャ」を起動します (→ P.82)。

5 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.62)。

6 NFC ポート (📶)

NFC 対応のスマートフォンとのデータ連携、Web サイトでのショッピングやチャージ (入金) などで使用します。

Point

- ▶ NFC をご利用になる場合は、📶 の付近にかざしてください。読み取りにくい場合は 📶 付近で読み取りやすい場所を探してください。また、パソコン本体の裏面だけでなく側面でも読み取りが可能な場合もあります。

7 アウト Web カメラ状態表示 LED

アウト Web カメラが動作しているときに点灯します。

8 カメラライト

静止画撮影時のフラッシュ、動画撮影時のライトとして使用します (Windows の標準機能のカメラで動作します)。

9 アウト Web カメラ

静止画や動画を撮影するときに使用します。
このアウト Web カメラは、次の機能で使用します。
・ Skype (→ P.74)

10 指紋センサー

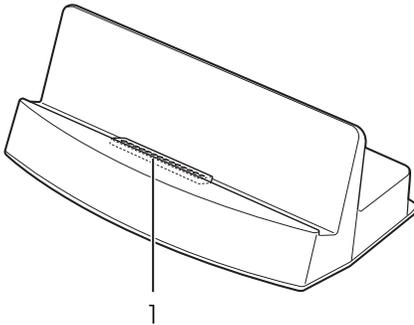
指をスライドさせることで、指紋認証ができます。
詳しくは、「指紋認証」(→ P.75)をご覧ください。

クレードル

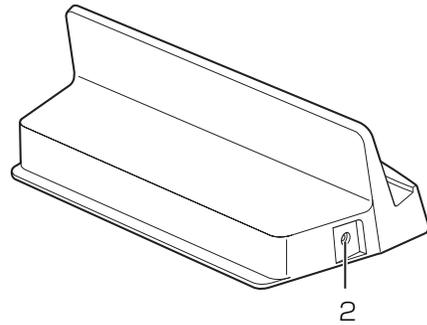
クレードル添付機種のみ

■充電専用クレードル

●前面



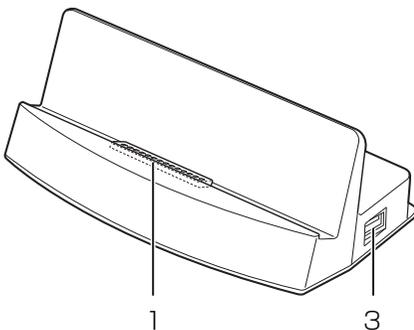
●背面



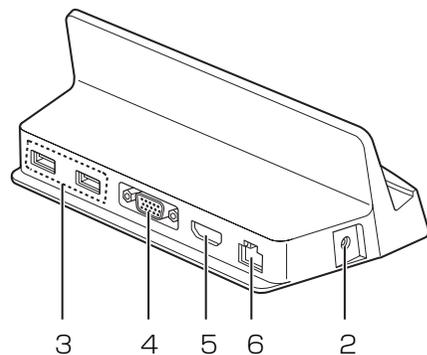
(イラストは機種や状況により異なります)

■拡張クレードル

●前面



●背面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 本体接続コネクタ

パソコン本体を接続します (→ P.66)。

2 DC-IN コネクタ (==)

添付の AC アダプタを接続します。

3 USB2.0 コネクタ (≡)

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

4 外部ディスプレイコネクタ (□)

アナログディスプレイや、外部ディスプレイを接続します。

5 HDMI 出力端子

デジタルテレビや、デジタル接続の外部ディスプレイを接続します。

Point

- ▶ 同時表示やマルチモニター表示、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.126) をご覧ください。
- ▶ 拡張クレードルに接続した場合は、パソコン本体の microUSB コネクタは使用できません。(USB としても、各種変換ケーブルを使用してアナログディスプレイやデジタルテレビなどに映像を出力することもできません。)

- ▶ 拡張クレードルの外部ディスプレイコネクタ、HDMI出力端子に同時に接続した場合は、HDMI出力端子からの映像だけが出力されます。
- ▶ 外部ディスプレイへの映像出力は最大 1920×1080 になります。

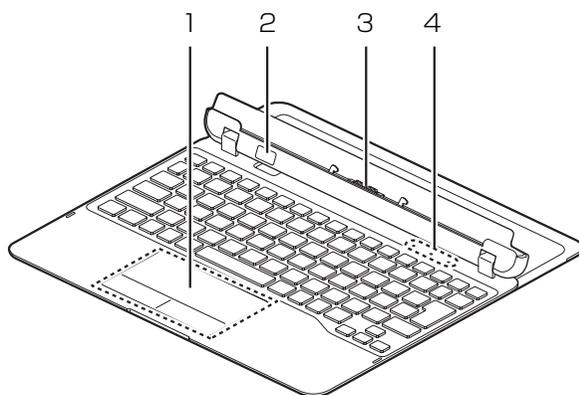
6 LAN コネクタ (LAN)

LAN ケーブルを接続します。

スリムキーボード

スリムキーボード添付機種のみ

■上面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 フラットポイント

マウスポインター (☞) を操作します (→ P.55)。

2 取り外しボタン

スリムキーボードをパソコン本体から取り外す場合に押します (→ P.24)。

3 ドッキングコネクタ

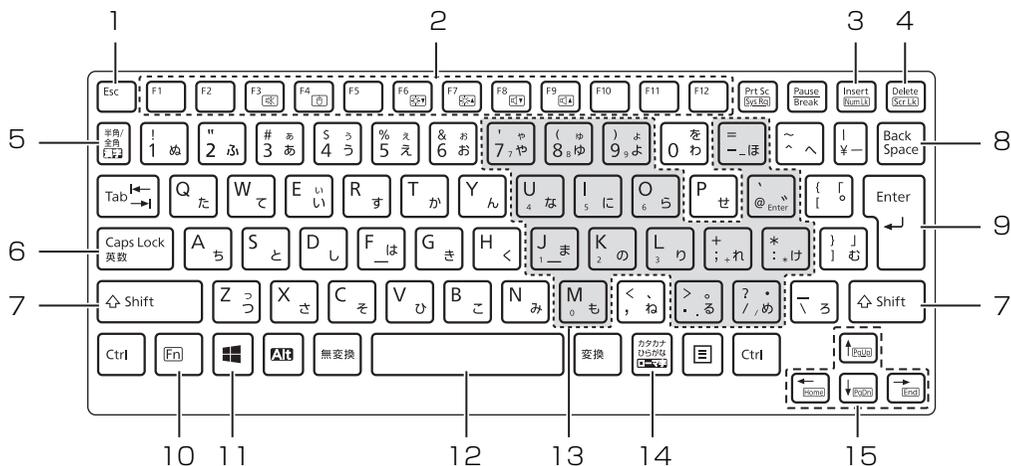
パソコン本体を接続します (→ P.24)。

4 状態表示 LED

キーボードの状態を表示します。

	Num Lock ランプ キーボードがテンキーモード (→ P.49) のときに点灯します。
	Caps Lock ランプ 英大文字固定モード (英字を大文字で入力する状態) のときに点灯します。
	Scroll Lock ランプ (Fn) + (Scr Lk) を押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。 点灯中の動作は、アプリによって異なります。

■キーボード



- 1 **Esc キー**
現在の作業を取り消します。
- 2 **ファンクションキー**
アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。青い刻印の機能は、**(Fn)** を押しながらそのキーを押して使います。
- 3 **Num Lk キー**
(Num Lk) を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。
- 4 **Delete キー**
カーソルの右側にある 1 文字を削除します。
- 5 **半角/全角キー**
キーを押すごとに、半角入力/全角入力を切り替えます。全角入力にすると、日本語を入力できます。
- 6 **Caps Lock キー**
(Shift) を押しながら **(Caps Lock 英数)** を押して、英大文字入力/小文字入力を切り替えます。
- 7 **Shift キー**
(Shift) を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている記号を入力できます。
- 8 **Back Space キー**
カーソルの左側にある 1 文字を削除します。
- 9 **Enter キー**
入力した文字を確定したり、改行したりします。
- 10 **Fn キー**
(Fn) を押しながら青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。
(Fn) + (F3) 音声出力の ON/OFF を切り替えます。
- (Fn) + (F4)** フラットポイントの有効/無効を切り替えます (→ P.123)。
- (Fn) + (F6)** 画面を暗くします。
- (Fn) + (F7)** 画面を明るくします。
- (Fn) + (F8)** 音量を小さくします。
- (Fn) + (F9)** 音量を大きくします。
- (Fn) + (Home)** カーソルを行の最初に移動します。
- (Fn) + (Ctrl) + (Home)** 文章の最初に移動します。
- (Fn) + (Pg Up)** 前の画面に切り替えます。
- (Fn) + (Pg Dn)** 次の画面に切り替えます。
- (Fn) + (End)** カーソルを行の最後に移動します。
- (Fn) + (Ctrl) + (End)** 文章の最後に移動します。
- 11 **Windows キー**
スタート画面を表示したいときに押します。
- 12 **空白 (Space) キー**
文字を入力するときに、空白 (スペース) を入力します。
- 13 **テンキーになるキー**
テンキーモードのときに、テンキーとして使えるキーです。
- 14 **カタカナ/ひらがなキー**
(Alt) を押しながら **(カタカナ/ひらがな)** を押して、ローマ字入力/ひらがな入力を切り替えます。
- 15 **カーソルキー**
カーソルを上下左右に移動します。

Windows をスタートする／終了する

Windows をスタートする

⚠ 注意

- ⊘ ● 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
- ❗ ● AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

重要

- ▶ パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリー切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
- ▶ AC アダプタを取り付けるときは、変形や破損のないことを確認してください。
- ▶ 電源を入れてから Windows がスタートするまでは、画面やキーボードなどで操作しないでください。正常にスタートできない場合があります。

1 電源ボタンを押します。

電源ボタンを 10 秒以上押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。



ロック画面が表示されます。

2 ロック画面を下から上にスライドします。

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 パスワードを入力し、➡ をタップします。

スタート画面が表示されます。

Point

- ▶ 手順 3 で入力するパスワードは、Windows のセットアップのときに入力したパスワードです。パスワードについて、詳しくは「アプリ画面」の「ヘルプとサポート」をタップして Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して「パスワードを変更する」をご覧ください。「アプリ画面」の表示方法は、📖『Windows 8.1 基本操作クイックシート』をご覧ください。

- ▶ Windows がスタートしないときは
 - ・ AC アダプタを接続している場合
ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。
 - ・ バッテリのみで使う場合
バッテリー残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。残量が少ない場合は、AC アダプタを接続してください。それでも Windows がスタートしない場合は、「起動・終了時」(→ P.94) をご覧ください。
- ▶ 「Windows のライセンス認証」の青い画面が表示されたときは「Windows・アプリ関連」(→ P.96) をご覧ください。

Point

- ▶ Windows が終了できないときは、「起動・終了時」(→ P.94) をご覧ください。
- ▶ パソコンは Windows を終了した状態でも少量の電力を消費します。バッテリー残量を減らさないためには、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 長期間パソコンを使用しない場合は、パソコンの電源を切ってから AC アダプタを取り外してください。
 - ・ AC アダプタや電源ケーブルは、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。保管するときは、AC アダプタにケーブル類を巻きつけたりしないでください。

Windows を終了する

重要

- ▶ Windowsを終了する前に、作業中のデータがある場合は保存してください。また、CD/DVD ドライブにディスクが入っている場合は取り出してください。
- ▶ 次のような場合は、「パソコンの電源を完全に切る」(→ P.175) をご覧になり、電源を切ってください。
 - ・ トラブル解決ナビを起動する
 - ・ BIOS セットアップを起動する
- ▶ Windows がスタートして 1 分以上たってから終了するようにしてください。

1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。

 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』

2 「設定」をタップします。

3 「電源」▶「シャットダウン」の順にタップします。

しばらくすると Windows が終了します。

スリープにする／復帰させる

スリープとは、Windows を終了せずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。

スリープにしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。

パソコンをスリープにするときの注意

次の場合は、いったんパソコンの電源を切り、電源を入れ直してください。

- パソコンを長期間使わないとき
- パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったりするとき

Point

- ▶ スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
- ▶ Web カメラを使用するアプリを起動中は、一定時間パソコンを操作しない場合に自動的にスリープになる機能はご使用になれません。

スリープにする

- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 「設定」をタップします。
- 3 「電源」▶「スリープ」の順にタップします。
ディスプレイの表示が消えスリープになります。

Point

- ▶ スリムキーボード（添付機種のみ）を接続し、液晶ディスプレイを閉じることで、スリープにすることもできます。詳しくは、「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.152）をご覧ください。

スリープから復帰する

- 1 電源ボタンを押します。
ロック画面が表示されます。
電源ボタンは 10 秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。
- 2 ロック画面を下から上にスライドします。
パスワードを入力する画面が表示されます。
- 3 パスワードを入力し、 をタップします。
スタート画面が表示されます。

Point

- ▶ スリープにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。
- ▶ 復帰（レジューム）させた後は、必ず 10 秒以上たってから、スリープにするようにしてください。
- ▶  を押すことで、復帰（レジューム）することもできます。
- ▶ スリムキーボード（添付機種のみ）を接続している場合は、液晶ディスプレイを開くことで、復帰（レジューム）することもできます。
- ▶ 電源ボタンを押す以外の方法でスリープからレジュームさせると、Windows の仕様により、画面が表示されない場合があります。
画面が表示されない場合は、画面をタップ、またはキーボードやフラットポイントなどから入力を行うと画面が表示されます。
- ▶ レジューム後、画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープになります。

バッテリー

このパソコンは、バッテリーのみで動作させることができます。

重要

- ▶ バッテリーのみで使用する場合は、バッテリーが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリーが充電されていない場合があるので、ご注意ください。

バッテリーの充電

- AC アダプタを接続すると、バッテリーの充電を開始します。充電が始まると、充電ランプが点灯します。
- バッテリー残量が95%以上の場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。94%以下になると充電を開始します。

充電状態や残量の確認

■充電状態の確認

バッテリーの充電状態は、充電ランプで確認できます。

- AC アダプタ接続時

充電ランプの表示	状態
赤色点灯	充電中

- AC アダプタ未接続時は、充電ランプは消灯します。
- バッテリー残量が少なくなると、バッテリーの残り時間とバッテリー残量の不足を案内するポップアップや、「省電源移行バッテリーレベル」ウィンドウが表示されます。表示された場合は、AC アダプタを接続してください。

■残量の確認

バッテリーの残量やサイクル数は、次の手順で確認できます。

- 1 スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「バッテリーの情報」をタップします。

マウス

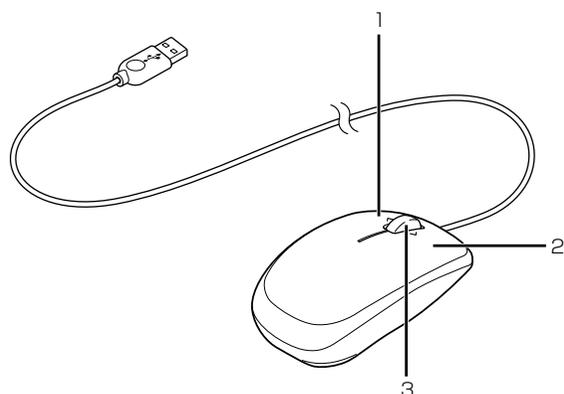
マウス添付機種のみ

USB レーザーマウスは、底面からの光により照らし出されている陰影を検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使うことができます。

マウスをお使いになるうえでの注意

- マウス底面から眼に見えないレーザー光を発しています。直接眼に向けると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 発光部分を他の用途に使わないでください。
- USB レーザーマウスは、次のようなものの表面では正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- このマウスは非接触でマウスの動きを検知しているため特にマウスパッドを必要としませんが、マウス本体は接触しているため、傷が付きやすい机やテーブルの上では、傷防止のためにマウスパッドなどを使うことをお勧めします。

各部の名称と働き



(イラストは機種や状況により異なります)

1 左ボタン

クリックするとき押します。

2 右ボタン

右クリックするとき押します。

3 スクロールホイール

- ・ホイールを回すと、画面を上下にスクロールできます。スタート画面の場合は、左右にスクロールします。
- ・ホイールを左右に倒すと、「エクスプローラー」や Web ブラウザーの「戻る」、「進む」と同じ動作をします。

マウスの使い方

ここでは、ご購入時に添付されているマウスの使い方について説明します。

Point

▶ マウスの設定について

マウスの設定は次の手順で表示する設定画面で変更できます。ただし、設定項目によっては設定が反映されない場合があります。

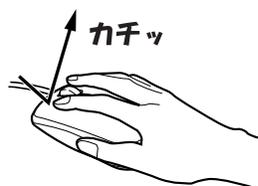
1. スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
2. 「デバイスとプリンター」の「マウス」をタップします。

▶ スクロールホイールを押したときの動作はお使いの状況により異なります。

▶ スクロール機能や戻る・進む機能は、使用するアプリによって動作が異なる場合があります。

■クリック

左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。



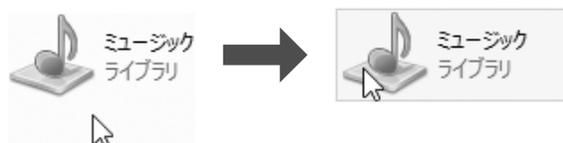
■ダブルクリック

左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。



■ポイント

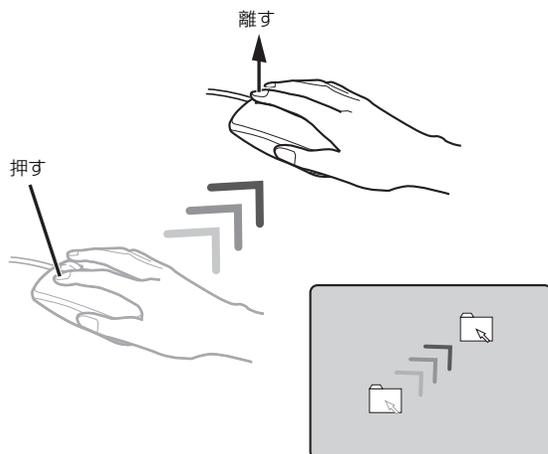
マウスポインター (☞) をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



■ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインター（) でつかむようにして移動させることです。

マウスポインター（) を任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置までマウスを移動し、指を離します。



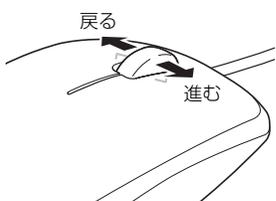
■スクロール

スクロールホイールを回して、画面の表示を動かすことです。



■戻る・進む

スクロールホイールを左右に倒すと、「エクスプローラー」や Web ブラウザーの「戻る」、「進む」と同じ動作をします。



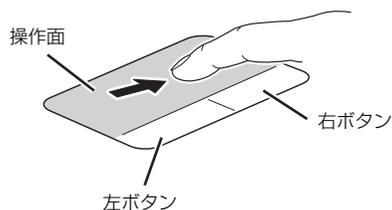
フラットポイント

スリムキーボード添付機種のみ

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かしたり、画面やウィンドウの表示を切り替えたりすることができるポインティングデバイスです。

操作面を指先でなぞることで、画面上のマウスポインターを移動させることができます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリにより異なります。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

フラットポイントをお使いになるうえでの注意

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントの操作面で操作するときは、指の先が接触するようにしてください。指の腹を押さえるように操作すると、マウスポインターが常に動作しないことがあります。

Point

- ▶ フラットポイントの詳しい設定方法については、「使いこなすために」－「フラットポイント」(→ P.121) をご覧ください。

フラットポイントの基本的な使い方

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。

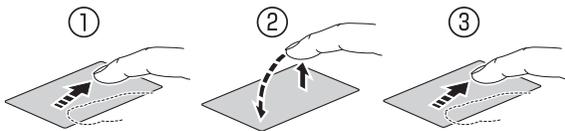
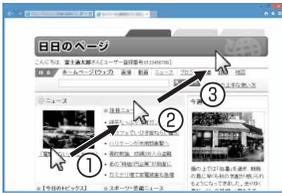
Point

- ▶ ここで説明している使い方は、使用するアプリや、アプリの状態によって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

■マウスポインター (☞) を移動させる

操作面を指先でなぞります。

指が操作面の端まできたら、いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離してもマウスポインター (☞) は動きません。



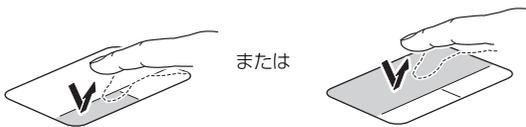
指を離している間はマウスポインターは動きません。

Point

- ▶ ボタン部分を指先でなぞることでマウスポインターを移動させることもできます。

■クリック

左ボタンを 1 回押してすぐに離すか、操作面を 1 回軽くたたく (タップする) ことです。



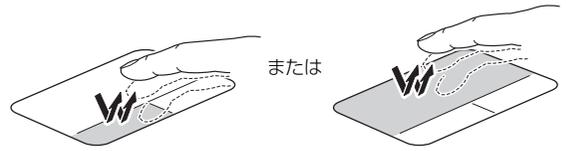
■右クリック

右ボタンを 1 回押してすぐに離すか、操作面を 2 本指で 1 回軽くたたく (タップする) ことを「右クリック」といいます。



■ダブルクリック

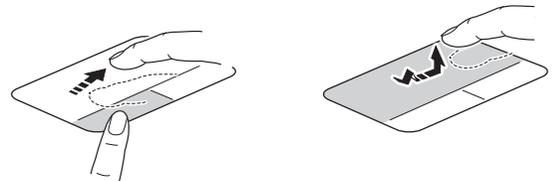
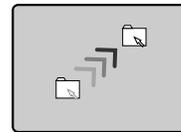
左ボタンを 2 回連続して押すか、操作面を 2 回連続して軽くたたく (タップする) ことです。



■ドラッグ

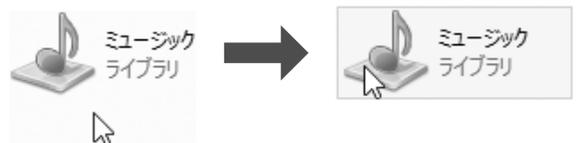
アイコンやウィンドウを、マウスポインター (☞) で掴むようにして移動させることです。

左ボタンを押したまま操作面をなぞり、希望の位置で指を離します。または、操作面を素早く 2 回タップし、2 回目のタップのときに指を操作面上から離さずになぞり、希望の位置で指を離します。



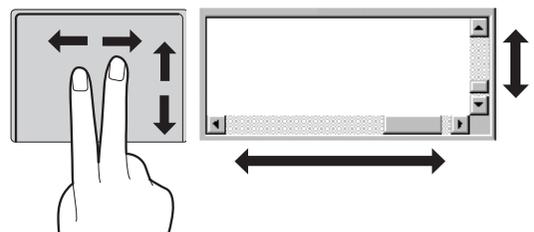
■ポイント

マウスポインター (☞) をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



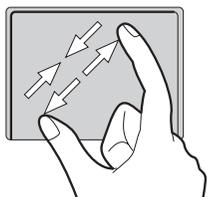
■画面を動かす

操作面を 2 本指で上下になぞることで画面が縦に動き、左右になぞることで横に動きます。



■拡大／縮小

操作面で、2本の指でつまんだりひらいたりします。つまむと画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらくと拡大表示されます。

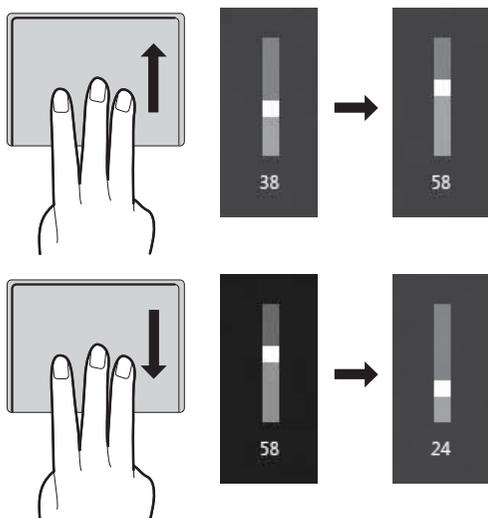


■音量を調節する

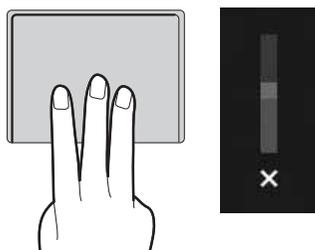
操作面を3本指で上下になぞることで音量を調節できます。

上へ動かす：音量を上げる

下へ動かす：音量を下げる



操作面を3本指で1回押すことで、消音（ミュート）になります。もう一度操作すると、音が出るようになります。

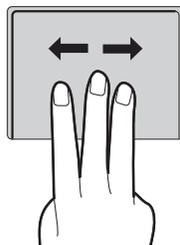


■ブラウザなどのページを戻す／進める

操作面を3本指で左になぞるとページが1ページ戻り、右になぞると1ページ進みます。

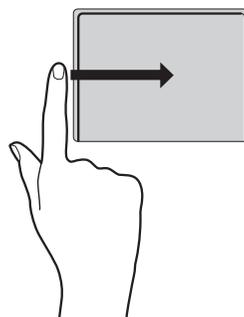
左へ動かす：戻す

右へ動かす：進める



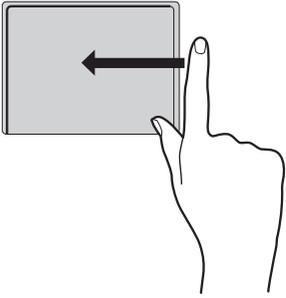
■アプリを切り替える

1本指を左端の枠の外から中へスワイプすると起動中のアプリが切り替わります。



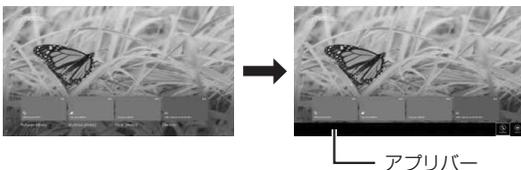
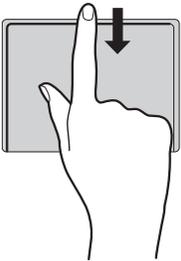
■「チャーム」を表示する

1 本指を右端の枠の外から中へスワイプすると「チャーム」が表示されます。



■「アプリバー」を表示する

1 本指を上端の枠の外から中へスワイプすると「アプリバー」が表示されます。



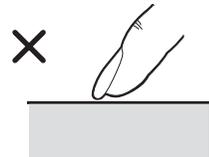
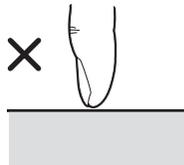
フラットポイントの設定を変更する方法など、詳しくは「使いこなすために」－「フラットポイント」(→ P.121) をご覧ください。

タッチ機能

このパソコンは、液晶ディスプレイ（タッチパネル）を直接指先でタッチしたり、ペンを画面に近づけたりして操作できるタッチ機能を搭載しています。画面を指でタッチしたり、ペンを画面に近づけたりするだけで、マウスポインターを操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

タッチ機能をお使いになる上での注意事項

- 液晶ディスプレイを強く押さないでください。
- 液晶ディスプレイ表面をひっかいたり、金属製のものや固いもので突いたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪かったり、タッチ機能に対応していない場合があります。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。

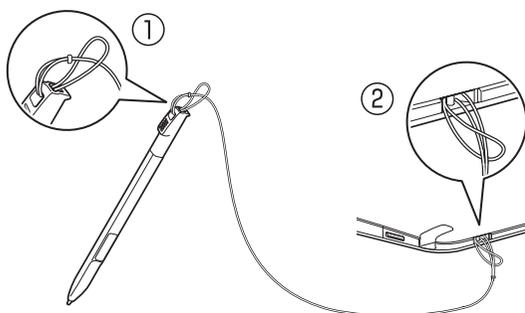


(イラストは機種や状況により異なります)

- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。液晶ディスプレイは、ときどき清掃してください(→ P.71)。

●ペンで操作するときは、次のような点に注意してください。

- ・力を入れて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- ・必ず添付のペンで操作してください。
- ・「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合、一時的にペンが使えなくなることがあります。この場合は、いったんペンを画面から放すと、その後は使えるようになります。
- ・ペンの紛失を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとパソコン本体をつないでください。ペンひもは、必ず①ペン側 ②パソコン本体側の順に取り付けてください。



- ・ペンを破損したり紛失したりしたときは、本パソコンに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、次の内容をご覧ください。

商品名（商品番号）：

- ・スタイラスペン TAB2（0635197）
本パソコンに添付のペンと同等です。
- ・スタイラスペン LB-PN4（0635195）
2つのボタンを搭載したペンです。

お問い合わせ先：

富士通コワーコ株式会社 お客様総合センター
電話：0120-505-279

※携帯電話・PHS からの場合：03-5520-5820
（通話料金お客様負担）

受付時間：月～金 9：00～17：30

（土・日・祝祭日・指定休業日を除く）

URL：<http://jp.fujitsu.com/group/coworco/>

Point

- ▶ 「タブレット PC 設定」ウィンドウの「画面」タブにある「調整」▶「タッチ入力」をタップして表示される画面で、タッチする位置を調整しないでください。調整してしまった場合は、ご購入時の設定に戻してください。ご購入時の設定に戻す方法は、次のとおりです。
 1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップします。
 2. 表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
 3. 「ハードウェアとサウンド」▶「タブレット PC 設定」の順にタップします。「タブレット PC 設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 「画面」タブで、「リセット」をタップします。ご購入時の設定に戻ります。
- ▶ このパソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。
- ▶ ペンをお使いのとき、画面を見る角度によって入力位置にずれを感じる場合があります。このずれが気になる場合は、次の手順でタッチする位置を調整してください。
 1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップします。
 2. 表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
 3. 「ハードウェアとサウンド」▶「タブレット PC 設定」の順にタップします。「タブレット PC 設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 「画面」タブの「調整」をタップします。
 5. 「ペン入力」をタップします。
 6. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をタップします。

7. 画面の「+」マークの交点を正確にペンでタップします。

「+」マークが次の調整ポイントに移動します。

8. 同様に「+」マークを順番にタップします。合計4ヶ所をタップします。

9. 「はい」をタップします。

なお、ペンの場合、「画面」タブの「リセット」は無効になります。

▶ 2 ボタン搭載のペン（オプション）をお使いの場合、次のように設定すると、2 ボタン用の設定画面を表示できます。

1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップします。

2. 表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。

3. 「ハードウェアとサウンド」▶「ペンタブレットのプロパティ」の順にタップします。

4. 「2サイドスイッチペンを使う」の を にし、「OK」をタップします。

タッチ機能を使う

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）をする場合は、指またはペン先で操作します。

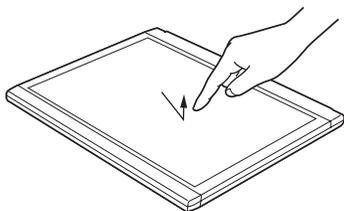
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

タッチ機能を使った主な操作は次のとおりです。

■タップ

●指の操作

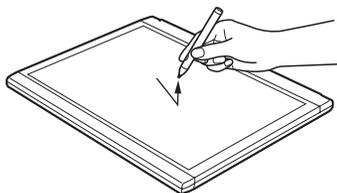
画面を1回素早くたたきます。



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

●ペンの操作

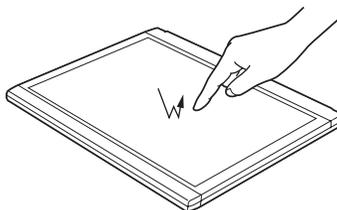
画面を1回押して離します。



■ダブルタップ

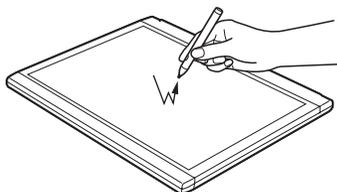
●指の操作

画面を素早く2回連続して軽くたたきます。



●ペンの操作

画面を素早く2回連続で押して離します。



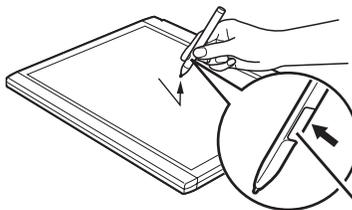
■右タップ

●指の操作

1本指で画面を触れた状態でしばらく待ち、四角い枠が表示されたら画面から指を離します。

●ペンの操作

ペンボタンを押しながら画面を押して離します。



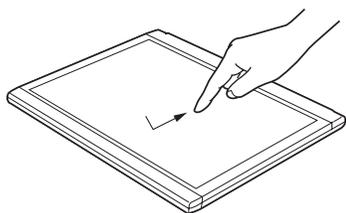
ペンボタン

画面を長押ししてから離しても、右タップになります。

■ドラッグ

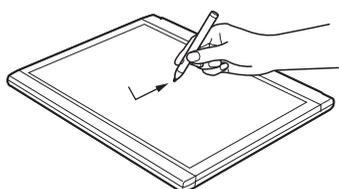
●指の操作

画面に指を軽く押しつけながらなぞります。



●ペンの操作

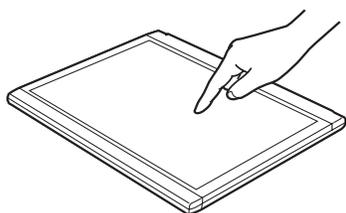
画面に軽く押しつけながらなぞります。



■ポイント

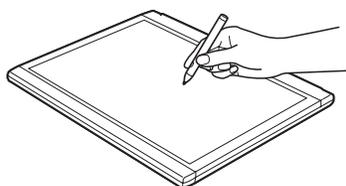
●指の操作

画面に軽く触れます。



●ペンの操作

画面に近づけるか軽く触れます。

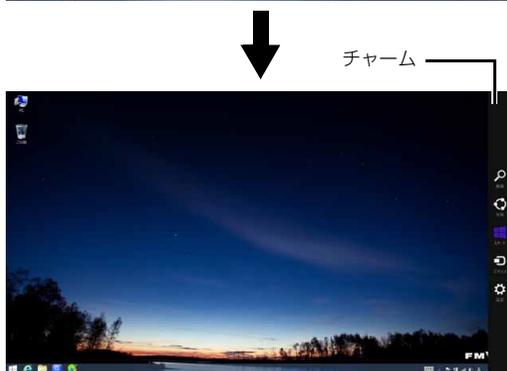
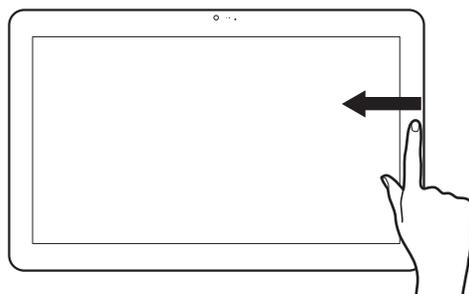


■拡大／縮小

2本指を画面に軽く押しつけながら指をつまんだりひらいたりします。つまむと画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらくと拡大表示されます。

■「チャーム」を表示する

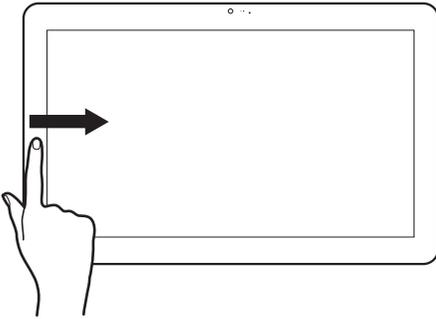
1本指を右端の枠の外から中へスワイプすると「チャーム」が表示されます。



チャーム

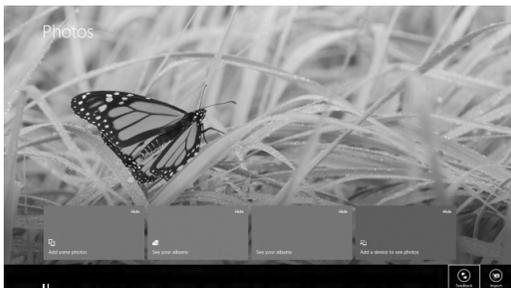
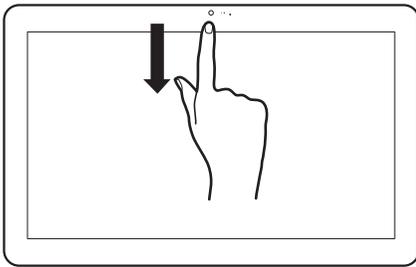
■アプリを切り替える

1 本指を左端の枠の外から中へスワイプすると起動中のアプリが切り替わります。



■「アプリバー」を表示する

1 本指を上端または下端の枠の外から中へスワイプすると、「アプリバー」が表示されます。



アプリバー

音量

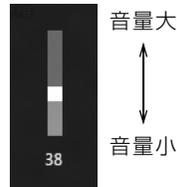
パソコン本体、またはスリムキーボード（添付機種のみ）で調節できます。

重要

- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調節してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。
- ▶ 「ステータスパネルスイッチ」の設定で、スピーカーを「ミュート」に設定している場合、省電力モードに移行すると音声の再生や録音ができなくなります。設定の変更については、「ステータスパネルスイッチ」（→ P.80）をご覧ください。

●音量を調節する

パソコン本体の音量調節ボタンの「-」を押すと小さく、「+」を押すと大きくなります。



（イラストは機種や状況により異なります）

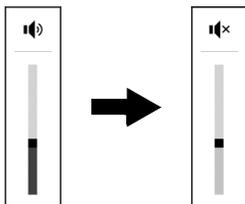
スリムキーボード（添付機種のみ）で操作する場合は、**[Fn]**を押しながら**[F9]**を押して大きく、**[F8]**を押して小さくします。

●音を消す

- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。

 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』

- 2  (設定) をタップします。
- 3  をタップします。
- 4 スライダーの上にある  をタップします。



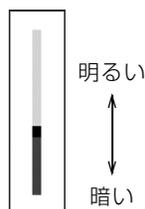
(イラストは機種や状況により異なります)

もう一度タップすると音が出るようになります。
スリムキーボード (添付機種のみ) で操作する場合は、**[Fn]** を押しながら **[F3]** を押します。
音量はデスクトップ画面右下の通知領域にある  でも調節できます。

画面の明るさ

パソコン本体、またはスリムキーボード (添付機種のみ) で調節できます。

- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2  (設定) をタップします。
- 3 「設定チャーム」で「ディスプレイ」をタップします。
- 4 スライダーを上下に動かします。



(イラストは機種や状況により異なります)

スリムキーボード (添付機種のみ) で操作する場合は、**[Fn]** を押しながら **[F7]** を押して明るく、**[F6]** を押して暗くします。

Point

▶ 明るさの設定について

- ・パソコンを再起動したり、スリープから復帰（レジューム）したり、ACアダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。
- ・ご購入時は、ACアダプタを接続している場合は明るく、バッテリーで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。
- ・明るさは、ACアダプタを接続している場合と、バッテリーで使っている場合とで別々に設定できます。設定を変更する場合は、次の手順で操作してください。

1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップします。
2. 表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
3. 「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にタップします。
4. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
5. 明るさを変更し、「変更の保存」をタップします。

▶ 「明るさセンサー」で画面の明るさを自動的に調節する

「明るさセンサー」機能を有効にすると、センサーが周囲の明るさを検知して、画面を最適な明るさに自動的に調節します。

「明るさセンサー」の設定は、次の手順で変更することができます。

1. ショートカットボタンを押します。
ショートカットボタンの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.46) をご覧ください。
2. 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウの「自動画面輝度調整」をタップし、「ON」に切り替えます。

メモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

お使いになるうえでの注意

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- WindowsのReadyBoostには対応していません。
- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードと、その最大容量は次のとおりです。

ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

	・ microSD カード (2GB)
	・ microSDHC カード (32GB)
[注]	・ microSDXC カード (64GB)

注：・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

- ・SDIO カードには対応していません。
- ・著作権保護機能 (CPRM [シーピーアールエム]) に対応していません。

メモリーカードを差し込む／取り出す

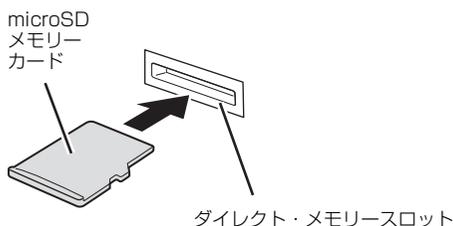
■メモリーカードを差し込む

⚠ 注意



- メモリーカードを差し込む場合は、ダイレクト・メモリスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

1 メモリーカードをダイレクト・メモリスロットに差し込みます。



※ 製品名のある面を上側にして、まっすぐに差し込みます。

(イラストは機種や状況により異なります)

■メモリーカードを取り出す

⚠ 注意



- メモリーカードを取り出す場合は、ダイレクト・メモリスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

▶ ダイレクト・メモリスロットからメモリーカードを取り出す場合は、次のことに注意してください。

- メモリーカードを強く押さないでください。指を離れたときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりするおそれがあります。
- メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ダイレクト・メモリスロットを人に向けたたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出して、思わぬけがをすることがあります。
- 必ずメモリーカードを一度押して、少し飛び出した状態にしてから引き抜くようにしてください。そのまま引き抜くと誤動作の原因になります。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある  をタップし、表示された  (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す) をタップします。メモリーカードによっては、 (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す) が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

2 「nnn の取り出し」をタップします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

周辺機器の取り扱い

周辺機器とは、USB マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレーヤーなどのパソコン本体に接続する装置の総称です。

警告



- 周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行うときに、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行わなければならない場合があります。必ず添付のマニュアルでご確認ください。感電の原因となります。



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器の取り扱い上の注意

- 周辺機器の接続は、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください

- 弊社純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせいただくか、富士通ショッピングサイト「WEB MART」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。

他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われずおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けと動作確認が完了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください

クレードル

クレードル添付機種のみ



▶ 拡張クレードルの場合

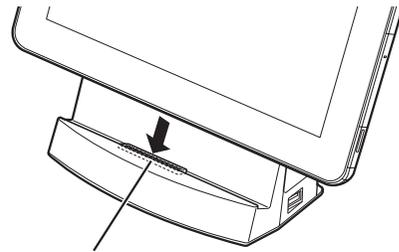
パソコン本体にクレードルを取り付けると、クレードルに搭載されているコネクタを使用できるようになります。

クレードルをお使いになるうえでの注意

- クレードルを取り付けた状態では、本パソコンを持ち運ばないでください。パソコン本体およびクレードルのコネクタの破損の原因となります。
- クレードルをお使いになる場合は、必ずクレードルの DC-IN コネクタ (→ P.47) に、パソコン本体に添付の AC アダプタを接続してください。

クレードルを取り付ける

- 1 拡張クレードルの場合は、パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します。
- 2 本体接続コネクタの位置を合わせてパソコン本体をクレードルに沿って下ろし、しっかりと取り付けます。



本体接続コネクタ

(イラストは機種や状況により異なります)

クレードルを取り外す

- 1 拡張クレードルの場合は、クレードルのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。
- 2 パソコン本体をクレードルから取り外します。
クレードルを押さえながら、クレードルに沿ってパソコン本体を持ち上げます。

スリムキーボード

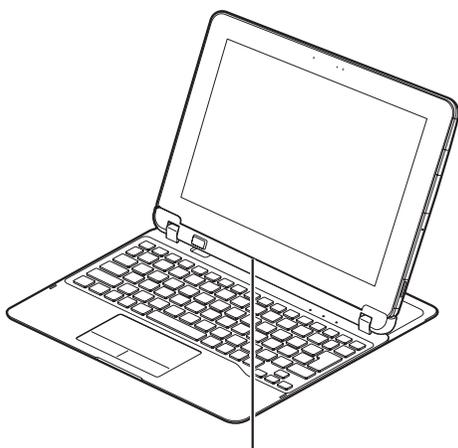
スリムキーボード添付機種のみ

パソコン本体とスリムキーボードを接続することで、ノートパソコンのようにキーボードとフラットポインントで操作することができます。

■スリムキーボードをお使いになるうえでの注意

●パソコン本体をスリムキーボードに取り付けるときは、ドッキングコネクタの位置を合わせ、パソコン本体上部を持ってしっかりと取り付けてください。また、取り付けた後、パソコン本体とスリムキーボードの間に、すき間があいていないかなど、十分確認してください。

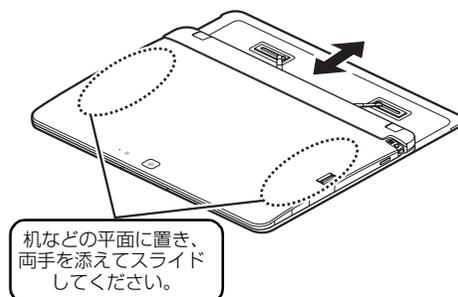
正しく取り付けられていないと、持ち運ぶときに外れてパソコン本体やスリムキーボードが落下するおそれや、スリムキーボードが認識しないことがあります。



パソコン本体とスリムキーボードの間に、すき間があいているときは、正しく取り付けられていない場合があります。すき間があいているときは、パソコン本体上部を持ってしっかりと取り付けてください。

(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

- 次の図の矢印の方向にスリムキーボードをスライドするときには、次の点に注意してください。
 - ・手や指などをはさまないように注意してください。
 - また、クリップなどの異物が入らないように注意してください。
 - ・必ず机などの平らな場所に置き、図の点線部に両手を添えて矢印の方向に動かしてください。平らな場所に置かずにスリムキーボードをスライドすると、スライド部の破損の原因となります。



- スリムキーボード接続時は、文字を入力できる部分をタッチしてもタッチキーボードが表示されません。スリムキーボードを使って入力してください。
 - スライド部を開いたまま、持ち運ばないでください。破損の原因となります。
- スリムキーボードを取り付ける／取り外す
「スリムキーボードを取り付ける／取り外す」(→ P.40) をご覧ください。

防水性能

端子キャップとスロットキャップをしっかりと閉じた状態で、IPX5、IPX7、IPX8 の防水性能を有しています。また、本パソコンに添付のペンは IPX2 の防滴性能を有しています。

- ・ IPX5 とは、内径 6.3mm の注水ノズルを使用し、約 3m の距離から 12.5L / 分の水を最低 3 分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、パソコンとしての機能を有することを意味します。
- ・ IPX7 とは、常温で水道水、かつ静水の水深 1.0m のところに本パソコンを静かに沈め、約 30 分間放置後に取り出したときにパソコンとしての機能を有することを意味します。
- ・ IPX8 とは、常温で水道水、かつ静水の水深 1.5m のところに本パソコンを静かに沈め、約 30 分間放置後に取り出したときにパソコンとしての機能を有することを意味します。
- ・ IPX2 とは、鉛直から 15 度の範囲で落ちてくる水滴による有害な影響を受けないことを意味します。ペンは防水ではありませんので、しぶきのかかる場所、水没の可能性のある場所でのペン操作はできません。

防水性能でできること

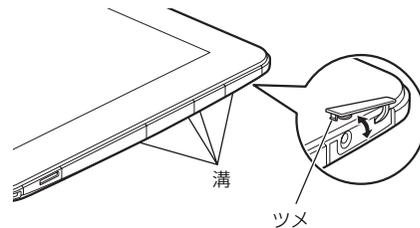
- 1 時間の雨量が 20mm 程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。
 - ・ 手が濡れているときやパソコンに水滴がついているときには、端子キャップやスロットキャップの開閉はしないでください。
- 水深 1.5m のプールの中に沈めることができます。
 - ・ 水中で操作しないでください。
 - ・ プールの水につけるときは、30 分以内としてください。
 - ・ プールの水がかかったり、プールの水に浸けたりした場合は、洗い流して水抜きしてください (→ P.69)。
- お風呂場で使用できます。
 - ・ 湯船にはつけないでください。また、お湯の中で使用しないでください。故障の原因となります。万が一、湯船に落としてしまった場合には、すぐに拾って水抜きしてください (→ P.69)。

- ・ 温泉や石けん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対につけないでください。万が一、水道水以外が付着してしまった場合は、ただちに洗い流して水抜きしてください (→ P.69)。
- ・ お風呂場では、温度は 10℃～35℃、湿度は 20%～80%、使用時間は 2 時間以内の範囲でご使用ください。
- ・ 急激な温度変化は結露の原因となります。寒い所から暖かいお風呂などに本パソコンを持ち込むときは、本パソコンが常温になるまで待ってください。
- ・ 蛇口やシャワーから水やお湯などをかけないでください。
- 洗面器などに張った静水につけて、ゆすりながら汚れを洗い流すことができます。
 - ・ 洗うときは、端子キャップとスロットキャップが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず洗ってください。

防水性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、つけたりしないでください。
- microSD カードの取り付け/取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示す溝に指を掛けてキャップを開け、矢印のように回してください。また、microSD カードの取り付け/取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように回してキャップを閉じ、ツメを押し込んでキャップの浮きがないことを確認してください。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 端子キャップとスロットキャップはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ (髪の毛 1 本、砂粒 1 つ、微細な繊維など) が挟まると、浸水の原因となります。
- スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。

- 落下させないでください。傷の発生などにより防水性能の劣化を招くことがあります。
- 端子キャップ、スロットキャップのゴムパッキンは防水性能を維持する上で重要な役割を担っています。ゴムパッキンをはがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。

Point

- ▶ 防水性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。部品の交換はパソコンをお預かりして有料にて承ります。「修理や故障に関する受付窓口」までお問い合わせください。

防水性能をお使いになるうえでの注意

次のような行為は行わないでください。

- 石けん、洗剤、または入浴剤をつける
- ブラシやスポンジで洗う
- 洗濯機で洗う
- 強すぎる水流を当てる
- 海水につける
- 温泉で使う
- 砂や泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

- 付属品は防水性能を有していません。クレードルやスリムキーボード（添付機種のみ）にパソコンを差し込んだ状態で動画再生などをする場合、ACアダプタを接続していない状態でも、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。
- 防水性能以上の強い水流（例えば、蛇口やシャワーから肌に当てて痛みを感じるほどの強さの水流）を直接当てないでください。本パソコンはIPX5の防水性能を有していますが、内部に水が入り、感電や電池の腐食などの原因となります。
- 熱湯につけたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 本パソコンを水中で移動させたり、水面に叩きつけたりしないでください。
- 水道水やプールの水につけるときは、30分以内としてください。

- プールで使用するときは、その施設の規則を守って、使用してください。
- 本パソコンは水に浮きません。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。電源端子がショートしたり、寒冷地では凍結したりして、故障の原因となります。
- スピーカーに水滴を残さないでください。動作不良となるおそれがあります。
- 端子キャップやスロットキャップが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、「修理や故障に関する受付窓口」までお問い合わせください。
- 端子キャップやスロットキャップのゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、「修理や故障に関する受付窓口」までお問い合わせください。

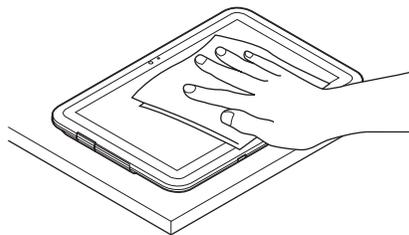
Point

- ▶ 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

水抜き

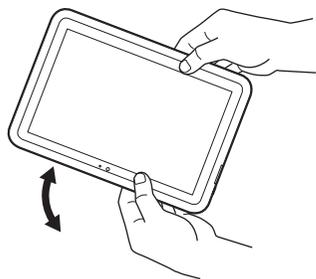
本パソコンを水に濡らすと、拭き取れなかった水が後からもれてくることがありますので、下記の手順で水抜きを行ってください。

- 1 本パソコンを安定した台などに置き、表面、裏面を乾いた清潔な布などでよく拭き取ってください。

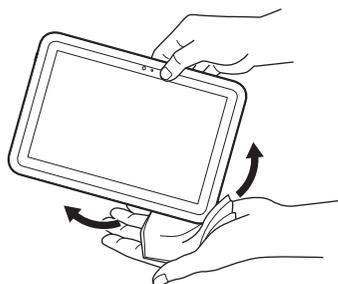


（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

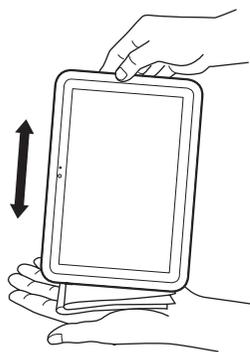
- 2** 本パソコンのディスプレイ面を下にして、長い辺を両手でしっかりと持ち、10 回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。その後、180 度持ち替えて同様に 10 回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。



- 3** 外周部の隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本パソコンの四隅を各 10 回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



- 4** スピーカーなどの隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本パソコンを 10 回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



- 5** 本パソコンから出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取り、自然乾燥させてください。
- ・水を拭き取った後に本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。
 - ・隙間にたまった水を綿棒などで直接拭き取らないでください。

充電のときの注意

充電時および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本パソコンが濡れていないか確認してください。本パソコンが濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品は防水性能を有していません。
- 本パソコンが濡れている場合や水に濡れた後に充電する場合は、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで水を拭き取ってから、クレードルやスリムキーボード（添付機種のみ）に差し込んだり、端子キャップを開いたりしてください。
- 端子キャップを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとキャップを閉じてください。なお、外部接続端子からの浸水を防ぐため、クレードル（添付機種のみ）を使用して充電することをお勧めします。
- AC アダプタ、クレードルやスリムキーボード（添付機種のみ）は、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りや水のかかる場所で使用しないでください。
火災や感電の原因となります。
- 濡れた手で AC アダプタ、クレードルやスリムキーボード（添付機種のみ）に触れないでください。
感電の原因となります。

お手入れ

このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明します。

警告

-  感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・ パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・ プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
-  清掃するときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体のお手入れ

- パソコン本体の汚れを取る場合
 - ・ 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
 - ・ OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
 - ・ 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取り、中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布で拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。
 - ・ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
 - ・ ドッキングコネクタにたまったほこりやゴミは、乾いた布で拭き取ってください。

- スリムキーボード（添付機種のみ）をお使いのときに、キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合
 - ・ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
 - ・ ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。そのとき、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

液晶ディスプレイのお手入れ

- クレドールやスリムキーボード（添付機種のみ）に接続している場合は、液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れるおそれがあります。
- OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。
- 市販のクリーナーや化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・ アルカリ性成分を含んだもの
 - ・ 界面活性剤を含んだもの
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・ 研磨剤を含むもの
- 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しついたりしないでください。破損するおそれがあります。

このパソコンには、次の機能が搭載されています。

これらの機能を使うと、パソコンをもっと便利に活用することができます。

- 「My Cloud」(→ P.72)
- 「F-LINK (ケータイ連携機能)」(→ P.73)
- 「Skype」(→ P.74)
- 「搭載されているアプリを使う(@メニュー)」(→ P.75)
- 「指紋認証」(→ P.75)
- 「ステータスパネルスイッチ」(→ P.80)
- 「表示中の画面をメモする (ワンタッチキャプチャ)」(→ P.82)

My Cloud

My Cloud [マイクラウド] は、パソコンを使って日常生活をもっと楽しく便利にする、富士通の新しい機能とサービスのご提案です。

スタート画面の「My Cloud」(My Cloud ホーム) のタイルをタップすると、My Cloud の活用方法などをご紹介するチュートリアルが始まります。



My Cloudで使える機能には次のようなものがあります。各機能は、スタート画面でまっすぐ上にスライドして表示されるアプリ画面から起動することができます。

■My Cloud スタート

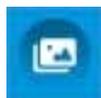
パソコンに取り込んだ写真、ビデオ、音楽、ドキュメントなどのデータを一元管理することができます。



写真やビデオを選んでアルバムを作ったり、富士通が運営するクラウドサービス「My Cloud ライブラリー」に写真をアップロードしたりすることができます。

■My Cloud フォト

パソコンに取り込んだ写真をイベントごとに分類したり、カレンダー表示したりして見やすく閲覧することができます。



写真を編集して、コラージュ・デコレーションをすることができます。

※ ご利用いただくには最新版へのアップデートが必要です。

■My Cloud ビデオ 2

ご家庭のパソコンやレコーダーに保存した動画やテレビ番組をまとめて管理し、ネットワーク経由で再生することができます。



■My Cloud ミュージック

パソコンに保存した音楽データやご家庭のネットワーク上にある機器の音楽データを再生することができます。



また、インターネット・ラジオ・サービス「Aupeol (オーペオ)」で音楽を楽しむことができます。

■My Cloud エコ DX

スマートフォンやタブレット端末を使って、外出先から ECHONET Lite 対応家電製品の運転をオン/オフしたり、使用電力を確認したりすることができます。



※ ご利用いただくには最新版へのアップデートが必要です。

■My Cloud モバイルアクセス

スマートフォンやタブレット端末で撮影された写真などのデータを外出先からパソコンへ送信したり、パソコンに保存されている写真などのデータをスマートフォンやタブレット端末で閲覧したりすることができます。



Point

- ▶ 一部の機能は Windows ストアでアップデートすることができます。スタート画面で「ストア」をタップし、更新可能なプログラムがある場合は「更新プログラム」をタップして表示される画面に従ってアップデートを行ってください。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>)でQ&Aナンバー「0810-2711」を検索してご覧ください。

F-LINK (ケータイ連携機能)

F-LINK は、ネットワークを使ってパソコンやスマートフォン／タブレット端末／携帯電話間でデータのやり取りができる富士通独自の技術です。ケーブルを接続したり、媒体を用意したりする必要がなく、ワイヤレスで手軽にデータの転送ができます。

※ この機能で「ケータイ」と表記する場合、スマートフォン／タブレット端末を含みます。



F-LINK を使うと、次のようなことができます。

- 携帯機器内の写真、動画などのデータや、歩数・活動量を自分のパソコンに自動で取り込みます。
- 無線 LAN 搭載 SDHC メモリーカードから、写真、動画などのデータがワイヤレスで取り込めます。
- F-LINK 対応機器同士で個別にデータのやり取りをします。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>)でQ&Aナンバー「6009-8007」を検索してご覧ください。

F-LINK をお使いになるうえでの注意

■携帯機器の対応機種について

F-LINK に対応した携帯機器については、ホームページ (<http://azby.fmworld.net/support/soft/flink/>) をご覧ください。

■注意事項

- このパソコンにあらかじめインストールされているもの以外のセキュリティ対策アプリをインストールしている場合、次のプログラムからネットワークの接続の要求があったときは、接続を許可するように設定してください。
 - ・ F-LINK.exe
- 送受信したデータを利用するには、送信側／受信側ともにデータを利用できる環境が必要です（例：受信側に送信側と同様のアプリが搭載されていない場合、データは閲覧できません）。
なお、携帯機器によっては扱えるファイル形式やファイルサイズが異なります。携帯機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ルーターで機器間の通信を遮断する設定が行われていた場合、ルーター経由で F-LINK の機能が動作しません。ルーターを経由する場合は、機器間の通信を許可する設定をしてください。設定の方法は、ルーターのマニュアルをご覧ください。

Skype

Skype [スカイプ] ではさまざまな方法で世界中のお友達、ご家族、同僚と連絡を取り合うことができます。Skype を起動する場合は、スタート画面で「Skype」をタップします。



Skype でできること

■ユーザー同士の通話

Skype のユーザー同士なら無料で通話ができます。海外の友人と無料で通話したり、複数人で同時に通話したりできます。

■ビデオ通話

お互いの顔を見ながら通話するなど、1対1のビデオ通話を無料で楽しむことができます。
なお、Web カメラを使用している間は、パソコンが一定時間後に自動的にスリープになる機能はご使用になれません。

■インスタントメッセージやファイル送信

リアルタイムにメッセージを送受信することで、複数人と文字で会話をすることができます。また、通話中やメッセージの送受信中に必要となったファイルを転送することができます。

詳しい使い方については…

「サポートページ」 (<http://azby.fmworld.net/support/>) で Q&A ナンバー「2009-7938」を検索してご覧ください。

搭載されているアプリを使う (@メニュー)

このパソコンには、搭載されているデスクトップアプリを簡単に探すための、「@メニュー」が搭載されています。

やりたいことがあるけれど、どのアプリを使えば良いかわからないときは、「@メニュー」で探すことができます。

「@メニュー」の使い方

- 1 スタート画面で「@メニュー」をタップします。
- 2 次の画面の操作をします。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ やりたいことを選択します。
「名前でさがす」をタップすると、アプリの名称から探すことができます。
- ④ 「実行する」をタップして、アプリを起動します。

Point

- ▶ アプリを起動する方法は他にもあります。詳しくは、『Windows 8.1 基本操作クイックシート』をご覧ください。
- ▶ このパソコンに搭載されているアプリの一覧は、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/fmv/>) に掲載されています。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>) で Q&A ナンバー「8107-4567」を検索してご覧ください。

指紋認証

指紋認証とは、指紋センサーで指の指紋を読み取って行う認証のことです。

指紋認証でできること

指紋情報を登録しておくことで、指紋センサーに指をスライドさせるだけで次のようなことができます。

- ID (ユーザー名) やパスワードを必要とするホームページへログインする
- パスワードが設定されたスクリーンセーバーを解除する
- Windows のユーザーを切り替える
- Windows のパスワードを設定している場合、Windows へサインインする

指紋センサーをお使いになるうえでの注意

- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。
- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
 - ・ 指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
 - ・ 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
 - ・ 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
 - ・ 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 次のような場合は、指紋の読み取りが困難になったり、認証率が低下したりすることがあります。指紋センサー表面の清掃を行ってください。現象が改善されることがあります。
 - ・ 指紋センサー表面がほこりや皮脂などで汚れている
 - ・ 指紋センサー表面に汗などの水分が付着している
 - ・ 指紋センサー表面が結露している
- パソコンの電源を入れたり、復帰 (レジューム) させたりするときに、指紋センサーに指を置いたままにしないでください。

- 指紋センサーを清掃するときは、メガネ拭きなどの乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。
- 長期間使用することにより、センサー周辺にゴミがたまることがあります。先のとがったもので取り除かないようにしてください。
- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。

指紋認証をお使いになるうえでの注意

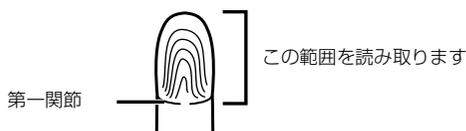
- 指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保障するものではありません。
当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本機能は画像に含まれる指紋の特徴を基に照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録ができない場合があります。
- 指紋の登録には同一の指で最低3回の読み取りが必要です。異なる指で登録を行うと、認証できない場合があります。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証率（正しく指をスライドさせたときに指紋が認証される割合）が低下することがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態にあわせて対処することで、認証時の状況が改善されることがあります。
 - ・お風呂上がりなどで指がふやけている場合
 - ・指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
 - ・手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
 - ・手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
 - ・指が泥や油などで汚れている場合
 - ・太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
 - ・磨耗して指紋が薄くなった場合
 - ・指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
 - ・濡れたり、汗をかいたりしている場合
- 本パソコンでは、Windows 標準機能の指紋認証は利用できません。

指のスライドのさせ方

指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

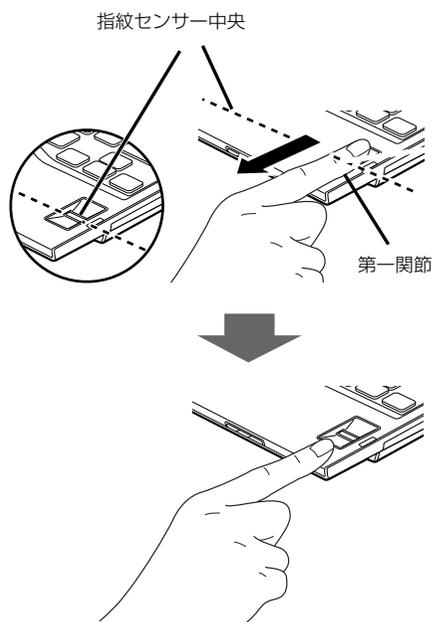
- 1 操作する指の第一関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。

第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。



- 2 指をまっすぐ伸ばして第一関節を指紋センサーに軽く当てます。

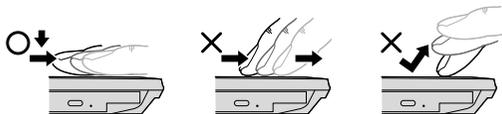
センサー部が完全に見えるまで水平にスライドさせます。



(イラストは機種や状況により異なります)

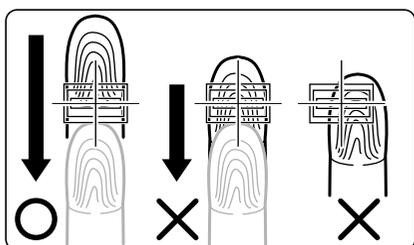
■指をスライドさせるときの注意

- 指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。



（イラストは機種や状況により異なります）

- 指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにしてください。
- 指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにしてください。
- 指紋の入力画面が表示されていることを確認し、入力が可能な状態になってから操作してください。
- 1秒程度で通過するくらいの速さで、途中で止めずに指を動かしてください。



なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。そのときは、中心を通過させやすい指を登録してください。

指紋を登録する

- 1 スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 「Softex」の「OmniPass コントロールセンター」をタップします。
- 3 「新規ユーザーの登録」をタップします。

- 4 Windowsにサインインするときと同じパスワードを入力し、「次へ」をタップします。「ユーザー名」がWindowsのアカウント名と同じことを確認してください。



Point

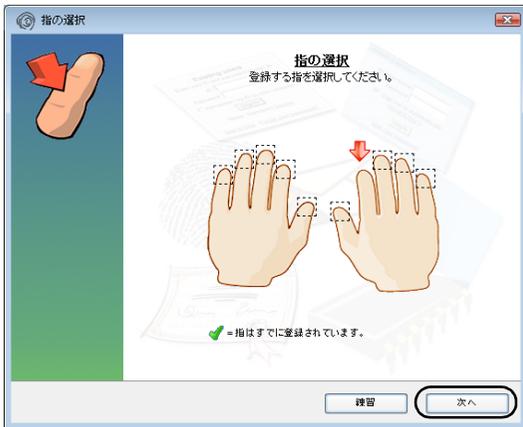
- ▶ Windowsにサインインするときのパスワードを設定していない場合は、「パスワード」の欄には何も入力しないでください。

- 5 「認証方法の選択」画面で「WBF 準拠の指紋認証デバイス」を選択して「次へ」をタップします。



「次へ」をタップすると、「指の選択」画面が表示されます。

- 6 認証で使用する指をイラストで選択し、「次へ」をタップします。



Point

- ▶ 「指の選択」画面で「練習」をタップすると、指紋登録の練習をすることができます。「指の選択」画面に戻るには、練習モードを最後まで実行するか、←をタップします。

- 7 指紋センサーに指をスライドさせ、指紋情報の取得と確認を行います。

指紋を認証できなくなった場合に備え、登録時は2本分の指紋を登録します。画面の表示に従って指紋の読み取りを行ってください。

指紋の登録は、スライドしやすい指で、次の条件を満たすように行ってください。

- ・できるだけ広い範囲の指紋が読み取られている
- ・指紋の渦が画像の中に含まれている

「OmniPass は新しいユーザーの作成を完了しました。」というメッセージが表示されたら、指紋の登録は完了です。

Point

- ▶ 指紋認証の画面が選択されていないと、指紋の読み取りができません。指をスライドさせても反応がない場合は、指紋認証のウィンドウをタップしてから、もう一度指をスライドさせてください。

指紋認証を使う

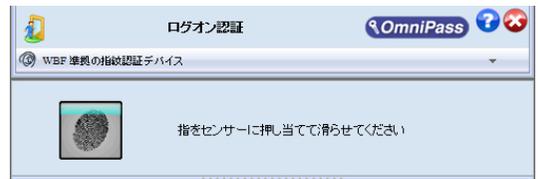
■指紋認証を使って Windows にサインインする
指紋認証を使うと、Windows のパスワードを入力する代わりに、指紋センサーに指をスライドさせるだけで Windows にサインインできるようになります。また、複数のユーザーでパソコンを使用している場合には、ユーザーの選択も省略することができます。

Point

- ▶ Windowsのパスワードについて、詳しくはアプリ画面の「ヘルプとサポート」をタップして Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して「パスワードを変更する」をご覧ください。

- 1 パソコンの電源を入れます。

しばらくすると「ログオン認証」ウィンドウが表示されます。



- 2 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。

認証画面が表示されていない場合は、「ログオン認証」ウィンドウ下部の ▾ をタップして表示されるメニューから「指紋センサー」を選択して、認証画面を表示させてください。

指紋の認証に成功すると、Windows にサインインします。

Point

- ▶ 指紋の読み取りがうまくいかない場合
 - ・指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。
 - ・指を繰り返しスライドしても指紋認証に失敗する場合は、Windows のパスワードを使ってサインインしてください。

■指紋認証でホームページにログインする

セキュリティが設定されたホームページにログインするために、ID（ユーザー名）やパスワードなどのログイン情報を入力しなければならない場合があります。指紋認証を使うと、特定のホームページに対してあらかじめログイン情報を記憶させておくことにより、指紋センサーに指をスライドさせるだけでホームページにログインすることができます。ただし、ホームページによっては、指紋認証機能がパスワードを検出できないことがあります。

- 1 登録したいホームページのログイン情報入力画面で、ログイン情報を入力します。
- 2 画面右下の通知領域にある  をタップし、表示された OmniPass アイコン  を右タップし、表示されるメニューから「パスワードの記憶」をタップします。
- 3 ブラウザ内の、ログインボタンやサインインボタン以外の場所をタップします。
- 4 「OmniPass - 覚えやすい名前」ウィンドウで、ログイン情報の名前を入力します。
- 5 「完了」をタップします。

次回以降、ログイン情報を登録したホームページにログインする場合は、指紋認証を使ってログインすることができます。

重要

- ▶ 銀行など重要な情報を扱うサイトでは本機能を使用しないでください。
- ▶ スタート画面から「Internet Explorer」を起動した場合はご利用になれません。

Point

- ▶ 指紋認証の画面が選択されていないと、指紋の読み取りができません。指をスライドさせても反応がない場合は、指紋認証のウィンドウをタップしてから、もう一度指をスライドさせてください。
- ▶ ホームページにログインする場合、指紋センサーで指をスライドさせる認証方法以外に、「数字」、「色」、「動物」の4つのキーの組み合わせを入力する「Web かんたんログイン」を選択することもできます。



「Web かんたんログイン」を使う場合は、「指紋認証が使えなくなったら」の手順 7（→ P.80）で「Web かんたんログイン」を選択し、画面の指示に従って登録を行ってください。

指紋認証が使えなくなったら

指紋での認証ができない場合は、次の手順で指紋を登録し直してください。

- 1 スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 「Softex」の「OmniPass コントロールセンター」をタップします。
- 3 「ユーザー管理ウィザードの実行」をタップします。
- 4 「ユーザーの認証デバイスの登録変更」をタップします。
「認証デバイスの登録変更の認証」が表示されます。
- 5 認証バーの  をタップして表示されるメニューで「マスターパスワードの認証」をタップします。
「マスターパスワードの認証」ウィンドウが表示されます。
- 6 「パスワード」に Windows にサインインするときのパスワードを入力して「OK」をタップします。
「認証方法の選択」ウィンドウが表示されます。

Point

- ▶ Windows にサインインするときのパスワードを設定していない場合は、「パスワード」の欄には何も入力しないで「OK」をタップします。
- 7 「WBF 準拠の指紋認証デバイス」をタップして、「次へ」をタップします。
 - 8 「指紋を登録する」の手順 6 (→ P.78) をご覧になり、指紋を登録し直してください。

Point

- ▶ 指紋を登録し直した後に指紋認証を行おうとすると、「マスターパスワードの認証」が表示される場合があります。表示された場合は、認証バーの  をタップして表示されるメニューで「指紋センサー」をタップしてください。

ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチは、画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、パソコンを使用する状況に適したモードに変更することができる機能です。

ステータスパネルスイッチをお使いになるうえでの注意

- CPUを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
 - ・低パフォーマンス
 - ・中間パフォーマンスこのような場合には、CPU パフォーマンスを次の設定にしてください。
 - ・高パフォーマンス
 - ・「モード切り替え設定」で、CPU パフォーマンスの を にする
- 複数のユーザーアカウントでパソコンを使用している場合、各モードでの設定は、パソコン 1 台に対して 1 つの設定です。例えば、省電力モード中に他のユーザーアカウントでサインインし直しても、省電力の状態は変化しません。
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの利用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。
また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをパソコンに装着してください。
- Windows へサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。
各デバイスの状態の切り替えは、Windows へサインインした後、しばらくしてから実行してください。

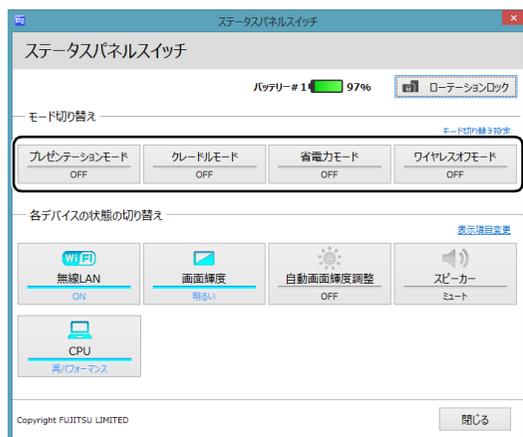
ステータスパネルスイッチの使い方

1 ショートカットボタンを押します。

ショートカットボタンの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.45) をご覧ください。

2 「モード切り替え」から、使用したいモードのボタンをタップします。

選択したモードに切り替わります。



・省電力モード

画面の明るさや CPU のパフォーマンスを下げることによって、パソコンの消費電力を抑えることができるモードです。

・ワイヤレスオフモード

無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

・クレードルモード

本体をクレードルに取り付けて使用するときのモードです。

ご購入時の設定では、クレードルに本体を取り付けると自動的にクレードルモードが「ON」になり、クレードルから本体を取り外すと自動的にクレードルモードが「OFF」になります。

・プレゼンモード

パソコンを使ってプレゼンテーションなどを行うのに適したモードです。

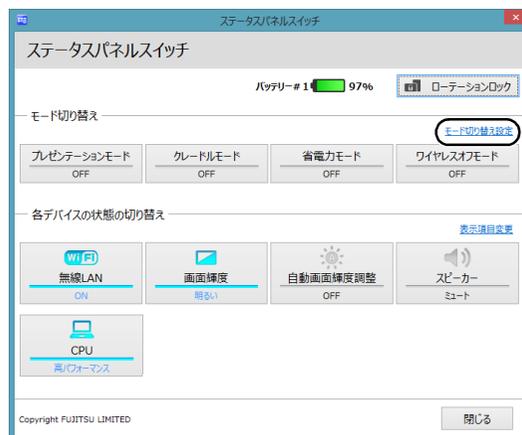
Point

- ▶ 「各デバイスの状態の切り替え」で、それぞれの機能のボタンをタップすると、個別に状態を変更することができます。
また、「表示項目変更」をタップすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更することができます。
- ▶ 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。

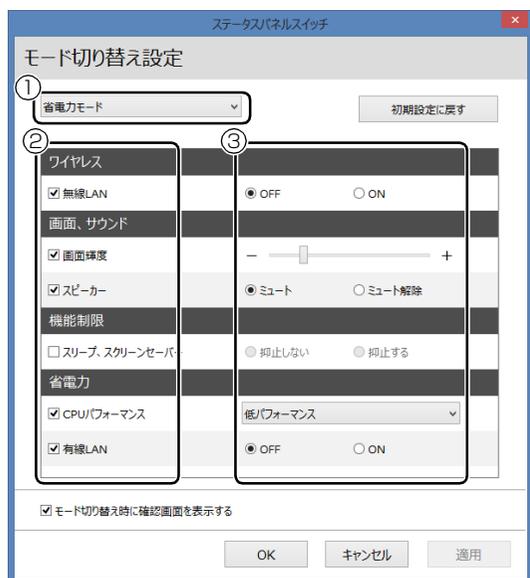
各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスを選択したり、各デバイスの状態を個別に変更したりすることができます。

1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をタップします。



2 設定を変更します。



- ① モードを選択します。
- ② 制御するデバイスを選択します。
- ③ デバイスの状態や値を設定します。

3 「適用」をタップします。

4 「OK」をタップします。

表示中の画面をメモする (ワンタッチキャプチャ)

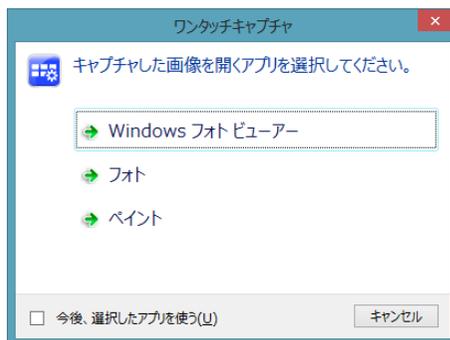
ワンタッチキャプチャは、本体のショートカットボタンを長押しするだけで、表示している画面をキャプチャして保存できる機能です。

ワンタッチキャプチャをお使いになるうえでの注意

- ワンタッチキャプチャ機能は、Windows にサインインしている間のみ実行できます。
- ワンタッチキャプチャ機能は、使用中のアプリやディスプレイの設定によっては、画面を正常に画像として保存できないことがあります。
- キャプチャ後の動作で選択したアプリによっては、保存した画面の画像を正常に開けないことがあります。

ワンタッチキャプチャを使う

- 1 キャプチャしたい画面を表示中に、ショートカットボタンを長押しします。
ショートカットボタンの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.45) をご覧ください。
- 2 アプリを選択する画面が表示されたら、キャプチャした画像を開きたいアプリをタップします。



(画面は機種や状況により異なります)

選択したアプリで、キャプチャした画像が開きます。必要に応じて画像の加工、保存を行ってください。

Point

- ▶ 「今後、選択したアプリを使う」の を にしてからアプリを選択すると、次回以降ワンタッチキャプチャを行ったときは、選択したアプリが自動的に起動します。

バックアップナビ

Windows が起動しなくなった場合や、データを誤って紛失してしまった場合に備え、大切なデータのコピーを保存しておくことを「バックアップ」といいます。バックアップは大変重要ですので、忘れずに行うようにしてください。

このパソコンは「バックアップナビ」というバックアップツールを搭載しています。

バックアップナビの機能

2種類のバックアップ方法を組み合わせて効率的にバックアップをとります。

■日々作成するデータをバックアップ

デジタルカメラで撮った写真や、作成した文書などは定期的にバックアップしましょう。

「バックアップナビ」では、マイドキュメントやマイピクチャなどのそれぞれのユーザーが持っているフォルダーのデータを「マイデータ」と呼んでいます。「バックアップナビ」では「マイデータ」をまとめて簡単にバックアップできます。

詳しくは「マイデータ」(→ P.84) をご覧ください。

自動バックアップ

「マイデータ」を定期的にバックアップするよう設定できます。「毎日」または「週に1回」など設定しておく、忘れずにバックアップできて便利です。

「バックアップする」タブにある「マイデータの自動バックアップ」の「設定」ボタンをタップすると設定を変更できます。

「バックアップナビ」の起動方法は「「パソコンの状態」をバックアップする」(→ P.86) をご覧ください。

●ご利用になるうえでの注意

「自動バックアップの設定」のステップ2の画面に表示される「注意事項」の内容をよく読んでから設定してください。

■Cドライブをまるごとバックアップ

トラブルに備えて、パソコンが快適に使用できている状態をまるごとバックアップしましょう。

「バックアップナビ」ではCドライブをまるごとバックアップできます。パソコンのセットアップが完了した後、およびインターネットやメールなどパソコンの設定を変更した後にバックアップすることをお勧めします。詳しくは「パソコンの状態」(→ P.85) をご覧ください。

バックアップナビをお使いになるうえでの注意事項

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

すべてのデータの保存／復元を保証するものではありません。また著作権保護された映像(デジタル放送の録画番組など)や音楽などは保存／復元できない場合があります。

■管理者アカウントでWindowsにサインインしていることを確認してください

セットアップ時に作成したアカウントは管理者アカウントです。

標準アカウントでサインインしている場合は、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウで管理者アカウントのパスワードを入力してバックアップしてください。

■「バックアップナビ」以外のアプリはすべて終了させてください

■DドライブにバックアップしたデータはDVDなどのディスク(マイデータのみ)や外付けハードディスクなどにコピーしてください

(ARROWS Tab WQ2/Mで256GBのSSDを選択した場合のみ)

パソコンが故障したときは、Dドライブにバックアップしたデータも含め、SSDのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

■「トラブル解決ナビ」以外で領域を変更した場合は、「バックアップナビ」はお使いになれません
市販のアプリなどで SSD の領域設定を行った場合は「バックアップナビ」はお使いになれません。
「バックアップナビ」を使える状態にするには、「リカバリ領域を復元する」(→ P.159) をご覧になり、「ハードディスク全体をリカバリ」を実行してください。

■このパソコンにバックアップした場合、他のパソコンには復元できません
バックアップしたデータを復元できるのは、このパソコンの C ドライブのみです。

■スリープや休止状態にしないでください
バックアップ/復元や、バックアップデータをディスクにコピー中にスリープや休止状態などの省電力状態にすると、データが正常に書き込まれなくなります。パソコンを省電力状態にする操作はしないでください。

マイデータ

バックアップ/復元できる項目

- ユーザーのデータ
ライブラリに登録されているフォルダーのデータがバックアップされます。
 - ・マイドキュメント
 - ・マイビデオ
 - ・マイピクチャ
 - ・マイミュージック
- 自分で指定したフォルダー

「マイデータ」の注意事項

■必ず AC アダプタを接続してください

■次のデータは、バックアップできません

- 著作権保護された音楽データ、映像データ
デジタル放送の録画番組、インターネット上の音楽配信サイトからダウンロードしたファイルなど、著作権保護された映像データや音楽データなどはバックアップ/復元できない場合があります。
著作権保護された音楽データ、映像データのバックアップ/復元については、お使いのアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。
- テレビ番組を録画したデータ
容量が大きいため、個別に DVD などのディスクにバックアップすることをお勧めします。

「マイデータ」のバックアップ/コピー/復元方法

バックアップ/コピー/復元方法については、サポートページから次の Q&A ナンバーを検索してご覧ください。

サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます (→ P.107)。

- マイデータをバックアップする方法「3309-7979」
- マイデータをコピーする方法「4309-7982」
- マイデータを復元する方法「0609-7981」

パソコンの状態

SSDのCドライブをまるごとバックアップします。パソコンにトラブルが発生した場合、Cドライブをまるごとバックアップしたときの状態に戻すことができます。

「パソコンの状態」の注意事項

■ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M ではパソコン本体のみでも専用キーボードを接続してもバックアップ／復元を行うことができます。どちらの場合も必ずACアダプタをパソコン本体に接続してください

■ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では必ずパソコン本体にACアダプタを接続して本体のみでバックアップ／復元を行ってください

■パソコンに不具合が起きているときは、「パソコンの状態」をバックアップしないでください
「パソコンの状態」をバックアップすると、パソコンのCドライブをそのままの状態に保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。

■保存先の容量を確認してください

「パソコンの状態」のバックアップデータは、前回のバックアップデータを上書きすることなく、バックアップするごとに新規で作成されます。Cドライブで使用している容量より保存先の容量が少ない場合は、「パソコンの状態」のバックアップはできません。不要になったバックアップデータは削除してください (→ P.90)。

重要

- ▶ 「パソコンの状態」をバックアップ、および復元する場合、「バックアップナビ」起動時に外付けハードディスクやUSBメモリを接続しないでください。
 - ・外付けハードディスクやUSBメモリを接続したまま「パソコンの状態」のバックアップ、および復元を開始すると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
 - ・外付けハードディスクにバックアップする場合は、「バックアップナビ」起動後に、画面の指示に従って接続してください。

- ▶ メモリーカードなどのその他の外部記憶装置は、必ずパソコンから取り外した状態で操作してください。

「パソコンの状態」をバックアップする場所

「パソコンの状態」は外付けハードディスクにバックアップしてください。

また、作成したバックアップデータは別の外付けハードディスクなどにコピーできます。

■外付けハードディスク

直接「パソコンの状態」をバックアップできます。外付けハードディスクはUSB接続のものを用意してください。USB接続以外の接続方式では正常に動作しない場合があります。

Point

- ▶ ARROWS Tab WQ2/Mで256GBのSSDを選択した場合は、Dドライブに「パソコンの状態」をバックアップできます。外部のドライブなどを接続する手間がなく簡単に「パソコンの状態」のバックアップ／復元できますが、次の場合は、Dドライブのバックアップも含めSSDのすべてのデータが使えなくなります。そのような場合に備え、外付けハードディスクなどにバックアップデータをコピーすることをお勧めします。
 - ・SSDの領域を変更したとき
詳しくは、「CドライブとDドライブの割合を変更する」(→ P.158)
SSD全体のファイルが削除されてしまうため、Dドライブに作成した「パソコンの状態」のバックアップデータも削除されます。領域変更する場合は、あらかじめパソコンのSSD以外にバックアップをコピーしてください。
 - ・このパソコンが故障したとき
パソコンが故障したときは、Dドライブに作成した「パソコンの状態」のバックアップデータも含め、SSDのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

- ▶ ARROWS Tab WQ2/M でキーボード・ドッキングステーションを接続した場合は、ネットワーク上のドライブに直接「パソコンの状態」をバックアップできます。

ネットワークの知識が必要です。別のパソコンの共有フォルダーに、「パソコンの状態」をバックアップしたり、そこから復元したりできます。ネットワーク上のドライブを使う方法は、サポートページから Q&A ナンバー「7209-7934」を検索してご覧ください。サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます (→ P.107)。

「パソコンの状態」をバックアップする

- 1 スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 「バックアップナビ」をタップします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。
 「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい]をタップしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をタップします。
- 4 「バックアップナビ」の概要を説明するウィンドウが表示されたら、「次へ」をタップします。
- 5 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

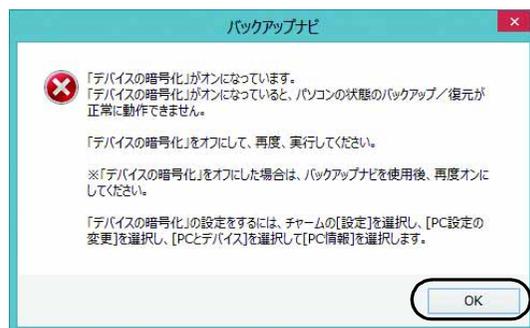
- ① 「バックアップする」タブをタップします。
- ② 「パソコン状態のバックアップ」をタップします。

- ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M の場合
手順 6 に進んでください。

- ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M の場合
手順 7 に進んでください。

Point

- ▶ ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では次のような画面が表示されることがあります。



安全性を高めるため、ご購入時の状態では「デバイスの暗号化」をオンにしています。「デバイスの暗号化」がオンの場合、「パソコンの状態」をバックアップできません。次の手順で「デバイスの暗号化」をオフにしてから、再度「パソコンの状態のバックアップ」をタップして、バックアップしてください。

1. 「OK」をタップしてメッセージを閉じます。
2. 画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。
 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
3. 「設定チャーム」から「PC設定の変更」▶「PCとデバイス」▶「PC情報」の順にタップします。
4. 「デバイスの暗号化」の「オフにする」をタップします。

「パソコンの状態」のバックアップが完了したら、「デバイスの暗号化」をオンに戻すことをお勧めします。

6 次の画面の操作をします。



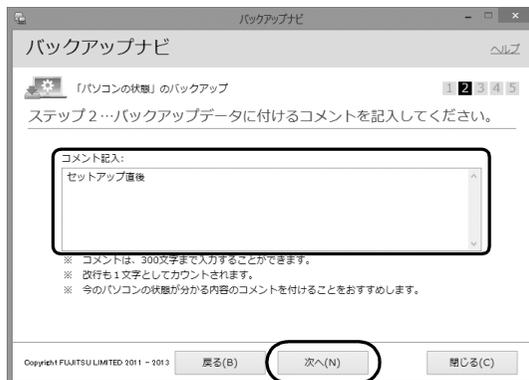
- ① 外付けハードディスクなどにバックアップする場合は「その他のドライブ」を選択します。バックアップ先の外付けハードディスクなどは後で接続します。ARROWS Tab WQ2/Mで256GBのSSDを選択した場合のみ、Dドライブを選択できません。

Point

- ▶ 128GBのSSD搭載モデルではDドライブを選択しないでください。「パソコンの状態」のバックアップをするには容量が不足しています。
- ② Dドライブを選択した場合に表示されます。「パソコンの電源を切る」または「パソコンを再起動する」を選択します。
- ③ 「次へ」をタップします。この後は手順7に進んでください。

7 コメント入力域に、いつの時点の「パソコンの状態」かわかるようなコメントを入力し、「次へ」をタップします。

- 例) ・セットアップ直後
・インターネット設定変更



8 内容を確認して「次へ」をタップします。

9 「OK」をタップします。

- その他のドライブにバックアップする場合
手順10に進んでください。
- Dドライブにバックアップする場合
(ARROWS Tab WQ2/Mで256GBのSSDを選択した場合のみ)
再起動して、「パソコンの状態」をバックアップします。その後、パソコンは「バックアップ完了後の動作」で選択した動作をします。これで、バックアップは完了です。

Point

- ▶ バックアップ先にDドライブを選択した場合、バックアップ後初めてWindowsを起動したときに、デスクトップ画面で「バックアップナビ」が起動し、パソコンのバックアップが完了したというメッセージが表示されます。「閉じる」をタップして、画面を閉じてください。

- 10 「パソコンの状態」のバックアップ」という画面が表示されたら、次の操作をします。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① パソコンの USB コネクタに外付けハードディスクを接続し、認識されるまで 10 秒ほど待つてから、「一覧を更新」をタップします。
- ② 「ドライブ一覧」に接続したドライブが表示されたら、保存先のドライブを選択します。
- ③ 「次へ」をタップします。

- 11 内容を確認し、「開始する」をタップします。

「パソコンの状態」のバックアップが始まります。しばらくお待ちください。終了までの時間表示が増えることがあります。これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。

完了すると「バックアップを終了しました。結果をご確認ください。」と表示されます。

- 12 「閉じる」をタップします。

パソコンが再起動します。

これで、指定したドライブに「パソコンの状態」がバックアップされました。

「パソコンの状態」のバックアップデータをコピーする

「パソコンの状態」のバックアップデータは他の外付けハードディスクなどにコピーできます。

コピー方法については、サポートページから Q&A ナンバー「6909-7980」を検索してご覧ください。サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます (→ P.107)。

「パソコンの状態」を復元する

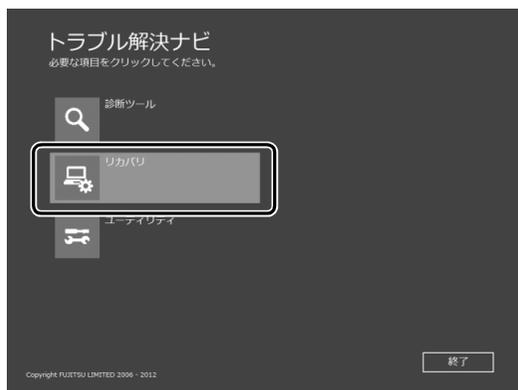
C ドライブをまるごと、「パソコンの状態」のバックアップ時点に戻します。

C ドライブの現在のデータは失われてしまいます。D ドライブまたは DVD などのディスクや別の媒体などにバックアップしてください。

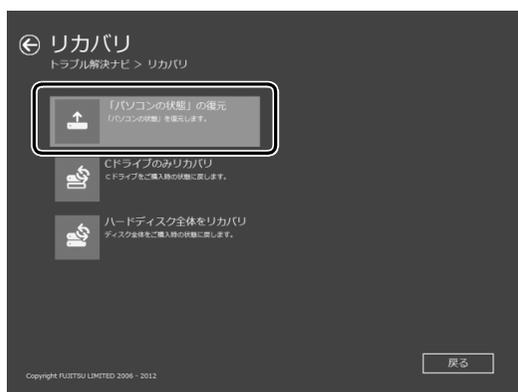
- 1 「トラブル解決ナビ」を起動します。

起動方法は「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.108) をご覧ください。

- 2 「リカバリ」をタップします。

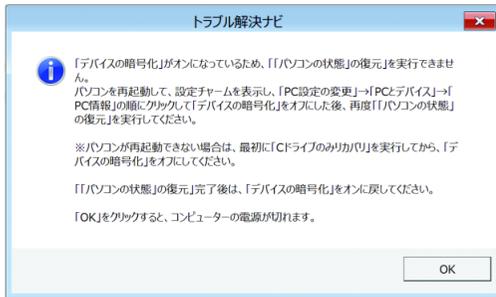


- 3 「「パソコンの状態」の復元」をタップします。





- ▶ ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では次のような画面が表示されることがあります。



「デバイスの暗号化」がオンの場合、「パソコンの状態」を復元できません。次の手順で「デバイスの暗号化」をオフにしてから、手順 1 からやり直してください。

1. 「OK」をタップします。
パソコンの電源が切れます。
2. パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。
3. 画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。
 『Windows 8.1基本操作クイックシート』
4. 「設定チャーム」から「PC設定の変更」▶「PCとデバイス」▶「PC情報」の順にタップします。
5. 「デバイスの暗号化」の「オフにする」をタップします。
6. パソコンの電源を切ります (→P.175)。

- ・ Windows を起動できない場合は、「ご購入時の状態に戻す」(→ P.117) をご覧になり、「C ドライブのみリカバリ」を行って Windows を起動できるようにしてから、「デバイスの暗号化」をオフにしてください。
- ・ 「パソコンの状態」のバックアップが完了したら、「デバイスの暗号化」をオンに戻すことをお勧めします。

4 画面の内容を確認し、次の操作をします。



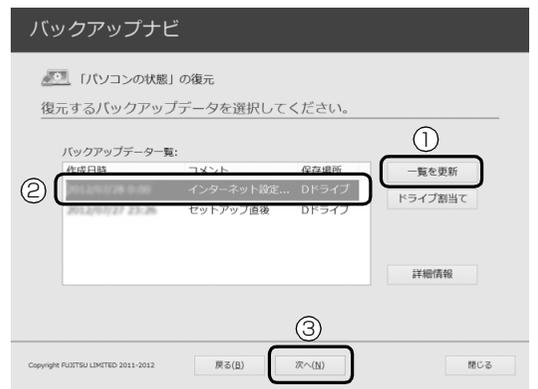
①「ご使用上の注意」を下までスクロールして確認します。

「同意する」が選択できるようになります。

②「同意する」をタップして●にします。

③「次へ」をタップします。

5 復元したい「パソコンの状態」のバックアップデータを選択します。



① Dドライブ以外に保存したバックアップデータを復元する場合、外付けハードディスクを接続した後、「一覧を更新」をタップします。「バックアップデータ一覧」に「パソコンの状態」のバックアップデータが表示されます。

② 復元する「パソコンの状態」のバックアップデータをタップして選択します。

③「次へ」をタップします。

Point

- ▶ Dドライブに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータが表示されない場合（ARROWS Tab WQ2/Mで256GBのSSDを選択した場合のみ）

削除してしまっている可能性があります。SSDの領域設定を変更した場合、CドライブのデータもDドライブのデータやバックアップデータも削除されます。

6 「復元開始」をタップします。



「パソコンの状態」のバックアップデータを使ってCドライブの復元が始まり、復元の進行状況を示す画面が表示されます。

7 そのまましばらくお待ちください。

終了までの残り時間は正確に表示されない場合や増える場合があります。これは途中で終了時間を計算し直しているためです。

しばらくすると、「復元が正常に終了しました。」と表示されます。

8 「閉じる」をタップします。

パソコンが再起動します。

これで、「パソコンの状態」のバックアップデータを使った復元が完了しました。

「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する

「バックアップナビ」の「管理」タブで、保存した「パソコンの状態」のバックアップデータを削除できます。画面の指示に従って操作してください。

Point

- ▶ 外付けハードディスクに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する場合は、「バックアップナビ」を起動する前に接続してください。

メールや Office で困ったときは

「Outlook」（メールアプリ）や「Word」、「Excel」などの Office の製品については、アプリ提供元の日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

<p> <small>マイクロソフト オフィス ホーム</small> Microsoft Office Home and Business 2013 <small>マイクロソフト オフィス パーソナル</small> Microsoft Office Personal 2013 <small>マイクロソフト エクセル</small> ・ Microsoft Excel 2013 <small>マイクロソフト ワンノート</small> ・ Microsoft OneNote 2013 <small>マイクロソフト アウトLOOK</small> ・ Microsoft Outlook 2013 <small>マイクロソフト パワーポイント</small> ・ Microsoft PowerPoint 2013 <small>マイクロソフト ワード</small> ・ Microsoft Word 2013 <small>マイクロソフト パワーポイント</small> ・ Microsoft PowerPoint 2013 楽しむもうフォトウィザード </p>	<p> 日本マイクロソフト株式会社 技術サポート窓口 電話：0120-54-2244 受付時間：月～金 / 9:30～12:00、13:00～19:00、 土 / 10:00～17:00（日・祝祭日および指定休業日を除く） URL：http://support.microsoft.com/contactus/ サポート関連情報：マイクロソフト サポート オンライン URL：http://support.microsoft.com/ ・基本操作に関するお問い合わせについては、お客様が初めてお問い合わせいただいた日から起算して90日間が有効期間です（サポート ライフサイクル期間内）。 </p>
--	---

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

ウイルス対策アプリなどで困ったときは

マカフィー マルチアクセスのお問い合わせ先

マカフィー® マルチアクセス	マカフィー株式会社 URL : http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/ ①マカフィー・テクニカルサポートセンター 電話 : 0570-060-033 (携帯電話からの場合 : 03-5428-2279) 受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (年中無休) お問い合わせフォーム : http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_tswebform.asp ②マカフィー・カスタマーサービスセンター 電話 : 0570-030-088 (携帯電話からの場合 : 03-5428-1792) 受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) お問い合わせフォーム : http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_cswebform.asp 90 日間の試用期間中、サポートいたします。
----------------	---

その他のアプリのお問い合わせ先

か 行	学研パーソナル英和辞典 学研パーソナル和英辞典 学研パーソナル現代国語辞典 学研パーソナル版漢字辞典	株式会社学研教育出版 デジタルコンテンツ事業室 電話 : 03-3493-3286 (辞書データについてのお問い合わせ先) 受付時間 : 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.113) へお問い合わせください。
	現代用語の基礎知識 2013 年版	株式会社自由国民社 辞典編集部 電話 : 03-6233-0788 (辞書データについてのお問い合わせ先) 受付時間 : 9:30 ~ 12:00、13:30 ~ 17:30 (土・日・祝祭日を除く) 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.113)
	広辞苑第六版	株式会社岩波書店 電子出版編集部 電話 : 03-5210-4082 (辞書データについてのお問い合わせ先) 受付時間 : 13:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.113) へお問い合わせください。
さ 行	新和英中辞典第 5 版 リーダーズ英和辞典第 3 版	株式会社研究社 電子出版室 電話 : 03-3288-7711 (辞書データについてのお問い合わせ先) 受付時間 : 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.113) へお問い合わせください。

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

アプリのお問い合わせ先の確認方法

本書に記載されていないアプリのお問い合わせ先は、「@メニュー」で確認できます。

- 1 スタート画面で「@メニュー」をタップします。
- 2 アプリを探し、お問い合わせ先を表示します。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ 「目的でさがす」をタップし、やりたいことを選択します。
- ④ 「お問い合わせ先」をタップします。

よくあるトラブルと解決方法

起動・終了時

症状	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されていない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されているか確認してください (→ P.24)。
	バッテリー残量が少ない	AC アダプタを接続し、バッテリーを充電してください。
	上記の対処で解決しない	AC アダプタをいったん取り外し、2～3分放置後、再び取り付けてください。
画面に何も表示されない	外部ディスプレイのみに表示する設定になっている	外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください (→ P.129)。
	画面が暗すぎる	次の手順で画面の明るさを調節してください。 1. 「チャーム」を表示し、  (設定) をタップする。  『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「設定チャーム」で「ディスプレイ」をタップする。 3. スライダーを上下に動かす。
	ディスプレイのバックライトが消灯している	画面をタップしてください。
	スリープになっている	電源ボタンを押してください。
	上記の対処で解決しない	電源ボタンを 10 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。 なお、SSD に保存されていない作業中のデータは失われます。
	Windows が起動しない	周辺機器が正しく取り付けられていない
	上記の対処で解決しない	ハードウェアの診断を行ってください(→ P.107)。

症状	考えられる原因	対処方法
電源が切れない	Windowsが正しく動いていない	<p>次の手順で Windows を終了させてください。SSD が動作しているときに電源を切ると、ファイルが失われたり、SSD が壊れたりする可能性がありますので、ご注意ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.  を押しながら電源ボタンを押す。または、スリムキーボード（添付機種のみ）をお使いの場合は、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] を押す。 2. 画面右下の  をタップして表示されるメニューで「シャットダウン」を選択する。
	フラットポイントやマウスが使えない	<p>スリムキーボード（添付機種のみ）をお使いの場合は、次の手順で、Windows を終了させてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.  + [C] を押す。 2. カーソルキーで「設定」を選択して [Enter] を押す。 3. カーソルキーで  を選択して [Enter] を押す。 4. カーソルキーで「シャットダウン」を選択して [Enter] を押す。
	上記の対処で解決しない	<p>電源ボタンを 10 秒以上押して、電源を切ってください。</p> <p>なお、SSD に保存されていない作業中のデータは失われます。</p>

症状	考えられる原因	対処方法
アプリがうまく動かない	同時に複数のアプリを起動している	使用していないアプリを終了させてください。 📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
	SSD の空き容量が少ない	不要なファイルを削除したり、ごみ箱を空にしたりして、空き容量を増やしてください。
	アプリの設定が間違っている	アプリのマニュアルやヘルプをもう一度ご覧になり、正しく設定されているか、注意事項や制限事項はないか確認してください。
	アクセス許可が「オフ」になっている。	一部のアプリは、アクセス許可を「オン」にしないと正しく動作しない場合があります。次の手順で設定を変更してください。 1. 設定を変更したいアプリを起動した状態で、画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示する。 📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「設定」をタップする。 3. 「アクセス許可」をタップする。 4. 設定を「オン」に変更する。
	ファイアウォール機能が動作を制限している	お使いの環境に応じてファイアウォール機能の設定を変更してください。
	上記の対処で解決しない	アプリを一度終了し、再度起動してください。 📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 または、次の手順で Windows を再起動してください。 1. 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示する。 📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「設定」をタップする。 3. 「電源」▶「再起動」の順にタップする。
「Windows のライセンス認証」という青い画面が表示された	インターネットに接続されていないため、Windows のライセンス認証が行われていない	「PC の設定を開く」をタップし、インターネットまたは電話で、Windows のライセンス認証を行ってください。
アプリが見つからない	—	どのアプリを使えば良いかわからないときは、「@メニュー」で探すことができます (→ P.75)。

症状	考えられる原因	対処方法
アプリが動かなくなった	—	次の手順でアプリを終了させてください。 なお、アプリを強制終了した場合、アプリの作業内容を保存することはできませんので、ご注意ください。 1. スタート画面でまっすぐ上にスライドし、「タスクマネージャー」をタップする。 または、スリムキーボード（添付機種のみ）をお使いの場合は、 [Ctrl] + [Shift] + [Esc] を押す。 2. 動かなくなったアプリを選択し、「タスクの終了」をタップする。
アプリのインストールが正常に行われない	セキュリティ対策アプリの影響を受けている	セキュリティ対策アプリをいったん終了してから、インストールしてください。
	上記の対処で解決しない	各アプリのサポート窓口にお問い合わせください（→ P.91、→ P.92）。
ユーザーアカウント制御画面が表示される	—	サインインしているユーザーアカウントの種類によって、対処が異なります。 ■管理者の場合 「はい」をタップする。 ■標準ユーザーの場合 管理者アカウントのパスワードを入力する。
デスクトップ画面右下の通知領域にアプリのアイコンが表示されない	アプリが起動していない	1. スタート画面でまっすぐ上にスライドする。  『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 表示された画面から、起動するアプリを選択する。
	アイコンが隠れている	通知領域にある  をタップしてください。
Windows Update についての通知が表示される	インストールが必要なWindowsの更新プログラムがある	「サポートページ」（→ P.107）で Q&A ナンバー「6109-7931」を検索してご覧ください。
「コンピューターの電源を切らないでください。」と表示される	Windows Update の更新プログラムをインストールしている	
「Adobe Flash Playerのアップデートを利用できません。」というメッセージが表示される	「Adobe Flash Player」のアップデートが提供されている	「サポートページ」（→ P.107）で Q&A ナンバー「8407-9633」を検索してご覧ください。

バッテリー

症状	考えられる原因	対処方法
バッテリー充電ランプが消灯している	ACアダプタが正しく接続されていない	ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。
バッテリー駆動時間が極端に短い	バッテリーパックが寿命に達している	「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に内蔵バッテリーパックの交換を依頼してください (→P.113)。
バッテリーが充電されない	ACアダプタが正しく接続されていない	ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。

ポインティングデバイス

スリムキーボードまたはマウス添付機種のみ

症状	考えられる原因	対処方法
マウスポインターの動きがおかしい、または動かない	マウスが正しく動作しづらい場所を使っている (マウス添付機種のみ)	次のようなものの表面を避けて使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・光を反射しやすいもの ・光沢があるもの ・濃淡のはっきりした柄のあるもの ・同じパターンが連続しているもの
	マウスのスクロールホイールを押している (マウス添付機種のみ)	スクロールホイールから指を離し、マウスの左右どちらかのボタンを押してください。
	フラットポイントが無効になっている	(Fn) + (F4) を押して、有効にしてください (→P.123)。
	フラットポイントの操作面が汚れている	電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
		次の手順で「マウスのプロパティ」を表示し、設定を変更してください (→P.121)。 <ol style="list-style-type: none"> 1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップする。 2. 表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップする。 3. 「ハードウェアとサウンド」をタップする。 4. 「デバイスとプリンター」の「マウス」をタップする。
フラットポイントが使えない	フラットポイントが無効になっている	(Fn) + (F4) を押して、有効にしてください (→P.123)。
	マウスが接続されている	パソコンにマウスが接続されているとフラットポイントが無効になる設定になっています。マウスを取り外すか、 (Fn) + (F4) を押してフラットポイントを有効にしてください。
ペンが使えない	ペンの先が画面に十分に付いていない	画面に十分に付けて操作をしてください。

症状	考えられる原因	対処方法
ペンの操作でタッチが使えない	パソコンをお使いになる環境が適切でない	大きな電力を必要とする機器の近くなど電源ノイズの多い場所でお使いになる場合や、タコ足配線をしている場合など、お使いになる環境によっては操作が正しく認識されないことがあります。
ペンの入力位置がずれる	—	ペンをお使いのとき、画面を見る角度によって入力位置にずれを感じる場合があります。このずれが気になる場合は、「タッチ機能をお使いになる上での注意事項」(→ P.58) をご覧になり、タッチする位置を調整してください。

キーボード

スリムキーボード添付機種のみ

症状	考えられる原因	対処方法
押したキーと違う文字が入力される	Num Lockが有効になっている	[Fn] + [Num Lk] を押してください。
	Caps Lockが有効になっている	[Caps Lock] を押してください (→ P.48)。
	文字の入力方法が変更されている	[Alt] + [2927/0696] (カタカナ／ひらがな) を押してください (→ P.48)。
キーボードに液体をこぼしてしまった	—	<ol style="list-style-type: none"> 1. すぐにパソコンの電源を切り(→ P.175)、ACアダプタを取り外す。 2. キーボードを水平にしたまま、乾いた柔らかい布で液体を拭き取る。 3. 「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に点検を依頼する (→ P.113)。

文字入力

症状	考えられる原因	対処方法
入力した文字が上書きされる	上書き入力モードになっている (スリムキーボード(添付機種のみ)をお使いの場合のみ)	[Insert] を押してください。
文字が正しく入力できない	入力モードが変更されている	言語バーの入力モードを変更してください。
	テンキーモードになっている (スリムキーボード(添付機種のみ)をお使いの場合のみ)	[Num Lk] を押してください (→ P.48)。
	「ローマ字入力／かな入力」が変更されている (スリムキーボード(添付機種のみ)をお使いの場合のみ)	[Alt] + [2927/0696] (カタカナ／ひらがな) を押してください (→ P.48)。
旧字体など入力したい文字が変換候補に表示されない	文字が Microsoft IME の辞書に登録されていない	登録されていない文字を外字エディタで作成することができます。 「サポートページ」(→ P.107) で Q&A ナンバー「0909-7935」を検索してご覧ください。

サウンド

症状	考えられる原因	対処方法
スピーカーから音が出ない	消音（ミュート）になっている	「音量」（→ P.62）をご覧ください、スピーカーをONにしてください。
	音量が小さい	音量調節ボタン（+）を押して、適切な音量にしてください（→ P.62）。
	ヘッドホンを接続している	ヘッドホンを取り外すか、ヘッドホンを接続したときの設定を変更してください（→ P.134）。
音が割れる	音量が大きすぎる	音量調節ボタン（-）を押して、適切な音量にしてください（→ P.62）。
マイクからうまく録音ができない	録音の設定が適切でない	録音の設定を確認してください（→ P.134）。

ディスプレイ

症状	考えられる原因	対処方法
画面に何も表示されない	「起動・終了時」の「画面に何も表示されない」の項目をご覧ください（→ P.94）。	
画面が急に表示されなくなった	パソコンが磁気に反応し、スリープになった	磁気の発生するものを遠ざけ、電源ボタンを押してください。
画面の表示が見にくい	画面の明るさが合っていない	画面の明るさを調節してください（→ P.63）。
	画質が合っていない	次の手順で画質を調節してください。 1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップする。 2. 表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップする。 3. 「ハードウェアとサウンド」▶「ディスプレイ」の順にタップする。 4. 「ディスプレイ」ウィンドウ左の「色の調整」をタップする。 5. 画面の指示に従って操作する。
画面の明るさを調節できない	再起動、レジューム、ACアダプタの接続や取り外しを行った直後に明るさを調節した	しばらく待ってから調節してください。
バッテリー運用時に画面の色や明るさが変わった	省電力機能の「ディスプレイ省電テクノロジー」が動作している	「ディスプレイ省電テクノロジー」の設定を変更してください。ただし、バッテリー駆動時間が短くなる場合があります。 1. デスクトップ画面の何もないところで右タップし、「グラフィックス・プロパティ」をタップする。 2. 「電源」をタップする。 3. 「バッテリー駆動」をタップする。 4. 「ディスプレイ省電テクノロジー」を「オフ」に設定するか、「最高画質」に設定する。

症状	考えられる原因	対処方法
画面の表示が乱れる	ゲームアプリなどをインストールしたときに、ディスプレイドライバーが置き換えられた	ディスプレイドライバーを再インストールしてください。 ディスプレイドライバーの再インストールについては、サポートページの「Q&A」をご覧ください(→P.107)。
	解像度の設定が変更されている	解像度を変更してください。
アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった	—	ウィンドウを一度最小化し、再度表示してください。
外部ディスプレイに画面が表示されない	外部ディスプレイケーブルが正しく接続されていない	ケーブルを接続し直してください。
	外部ディスプレイでサポートされていない解像度で表示しようとしている	お使いの外部ディスプレイのマニュアルで、サポートされている解像度を確認してください。

症状	考えられる原因	対処方法
ネットワークに接続できない	電波が発信されていない	次の手順で設定を変更してください。 1. 「チャーム」を表示し、  (設定) をタップする。  『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「設定チャーム」で「PC 設定の変更」▶「ネットワーク」▶「機内モード」の順にタップする。 3. 「機内モード」を「オフ」、「ワイヤレスデバイス」を「オン」に設定する。
	「ステータスパネルスイッチ」の設定を変更している	「ステータスパネルスイッチ」の設定を確認してください。 「ステータスパネルスイッチ」は、ショートカットボタン(→P.22)を押すと起動できます(→P.80)。
	ネットワーク機器の電源が入っていない	ネットワーク機器のマニュアルをご覧ください、電源を入れてください。
	ネットワーク機器が正常に動作していない	ネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。
	パソコンとネットワーク機器の設置場所が適切でない	パソコンとネットワーク機器の距離が遠かったり、間に障害物があったりすると、電波が届きにくくなります。 設置場所を変えることで、改善できる場合があります。
	無線 LAN と有線 LAN の設定を同じにしている	「インターネットに接続する」(→ P.42) をご覧になり、設定を確認してください。
	無線 LAN のプロファイルが正しくない	
	スリープからレジュームした	ネットワークに接続中は、スリープにしないことをお勧めします。
	上記の対処で解決しない	次の手順でネットワークの状態を診断してください。 1. スタート画面でまっすぐ上にスライドする。  『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「Plugfree NETWORK」の「ネットワーク診断」をタップする。

有線 LAN

拡張クレードル添付機種のみ

症状	考えられる原因	対処方法
ネットワークに接続できない	LAN ケーブルが外れている	LAN ケーブルを接続してください。
	LAN ケーブルや、ケーブルのコネクタに損傷がある	LAN ケーブルを交換してください。
	ネットワーク機器の電源が入っていない	ネットワーク機器のマニュアルをご覧ください、電源を入れてください。
	ネットワーク機器が正常に動作していない	ネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。
	無線 LAN と有線 LAN の設定を同じにしている	「インターネットに接続する」(→ P.42) をご覧になり、設定を確認してください。
	スリープからレジュームした	ネットワークに接続中は、スリープにしないことをお勧めします。
	上記の対処で解決しない	次の手順でネットワークの状態を診断してください。 1. スタート画面でまっすぐ上にスライドする。  『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「Plugfree NETWORK」の「ネットワーク診断」をタップする。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

症状	考えられる原因	対処方法
Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器に接続できない	電波が発信されていない	次の手順で設定を変更してください。 1. 「チャーム」を表示し、  (設定) をタップする。  『Windows 8.1 基本操作クイックシート』 2. 「設定チャーム」で「PC 設定の変更」▶「ネットワーク」▶「機内モード」の順にタップする。 3. 「機内モード」を「オフ」、「ワイヤレスデバイス」を「オン」に設定する。

USB 機器

症状	考えられる原因	対処方法
USB 機器が使えない	ケーブルが正しく接続されていない	ケーブルを正しく接続してください。
	ドライバーに問題がある	USB 機器のマニュアルをご覧になり、必要なドライバーをインストールしてください。
	上記の対処で解決しない	パソコンを再起動して、USB 機器を接続し直してください。

SSD

症状	考えられる原因	対処方法
頻繁にフリーズするなど、動作が不安定になる	C ドライブの空き容量が少ない	不要なファイルを削除したり、ごみ箱を空にしたりして、空き容量を増やしてください。また、万が一に備えてバックアップをとっておくことをお勧めします (→ P.83)。

メール

症状	考えられる原因	対処方法
受信したメールが文字化けしている	機種依存文字が使用されている	送信者に機種依存文字を使わずにメールを送るよう依頼してください。
メールを送受信できない	インターネットに接続していない	「インターネットに接続する」(→ P.42) をご覧になり、接続してください。
	メールアドレスが間違っている	メールアドレスを確認してください。
	メールアプリの設定が間違っている	プロバイダーのマニュアルをご覧になり、メールアプリの設定を確認してください。
	上記の対処で解決しない	時間を置いてから送受信してください。それでも改善されない場合は、プロバイダーにお問い合わせください。

その他

症状	考えられる原因	対処方法
「ジー」や「キーン」という音がする	—	静かな場所では、「ジー」や「キーン」という音が聞こえる場合があります。 パソコン本体内部の電子回路の動作音であり、故障ではありませんので、そのままお使いください。
画面がくもったり、水滴がつく	急激な温度／湿度変化で結露が発生した。	結露が発生した場合は電源を切断し、風通りの良い場所に設置し、結露が乾いたのちご使用ください。
動画の再生時にコマ落ちが発生することがある	「ステータスパネルスイッチ」の設定を変更している (CPUのパフォーマンスを下げる設定をしている)	「ステータスパネルスイッチ」の設定を確認してください。 「ステータスパネルスイッチ」は、ショートカットボタン (→ P.22) を押すと起動できます。

トラブル発生時の基本的な対処

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時は次の手順に沿って、対応してください。

- 1 落ち着いて状況を確認する (→ P.106)
- 2 マニュアルで調べる (→ P.107)
- 3 インターネットで調べる (→ P.107)
- 4 「富士通ハードウェア診断ツール」を使う (→ P.107)

落ち着いて状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■表示されたメッセージはメモをしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■パソコンや周辺機器の状況を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず次の点を確認してください。

- パソコンや周辺機器の電源など、使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（ハブなど）の接続や電源も確認してください。
- ケーブル類は正しいコネクタに接続されていますか？また、ゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- スリムキーボード（添付機種のみ）をお使いの場合、キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押されていると、パソコンが正常に動作しないことがあります。

このほか、「起動・終了時」(→ P.94)の「電源が切れない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

■直前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやアプリのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん直前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- アプリをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

■BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

Windows が起動しないときなど、BIOS セットアップを起動し、BIOS の設定を戻すと問題が解決できることがあります。

Point

- ▶ BIOS パスワードを設定していた場合、BIOS をご購入の状態に戻してもパスワードは解除されません。

- 1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります (→ P.175)。
- 3 音量調節ボタン (–) を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。
- 4 BIOS の画面が表示されたら、ボタンから指を離します。

Point

- ▶ Windows が起動してしまった場合は、パソコンの電源を切って、操作をやり直してください。
- ▶ BIOS の画面が表示されず、Windows も起動しない場合は、電源ボタンを 10 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから、再度電源を入れて操作をやり直してください。

- 5 「終了」または「Exit」メニュー▶「標準設定値を読み込む」または「Load Setup Defaults」の順にタップします。

- 6 「はい」 または 「Yes」 をタップします。
- 7 「変更を保存して終了する」 または 「Exit Saving Changes」 をタップします。
- 8 「はい」 または 「Yes」 をタップします。

マニュアルで調べる

このマニュアルの「よくあるトラブルと解決方法」(→ P.94) をご覧になり、発生したトラブルの解決方法がないかご確認ください。

インターネットで調べる

富士通のホームページ「サポートページ」では「Q&A」「ネットで故障診断」などのサポート情報や、「パソコン活用」「ビギナーガイド」などの活用情報、およびこのパソコンに関連したドライバーを提供しています。ドライバーをアップデートしたりインストールし直したりすることで、トラブルが解決できる場合がありますので、最新のドライバーについても、あわせてご確認ください。

■「サポートページ」

<http://azby.fmworld.net/support/>



(画面は状況により異なります)

「サポートページ」では、次のような情報を提供しています。

- Q&A、パソコン活用情報
数多くの Q&A 事例や、便利なパソコンの使い方を紹介しています。キーワードから検索したり、困っていることから調べたりすることができます。
- ウィルス・セキュリティ情報
- よくあるお問い合わせ
- 最新のドライバーやマニュアルのダウンロード

Point

- ▶ サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます。次のように操作します。
 1. を押して、スタート画面を表示します。
 2. 「富士通アドバイザー」をタップします。
富士通アドバイザーのご利用について表示された場合は、内容をよくお読みになり、「同意する」をタップします。
また、「富士通アドバイザーをバックグラウンドで実行しますか?」と表示された場合は、「許可」をタップします。
 3. 「富士通アドバイザー」の「サポート&サービス情報」から「サポートページで調べる」を選択します。
- ▶ 「Q&A」で解決しなかった場合は、専用の受付フォームからお問い合わせいただく、メールサポートもご利用いただけます。ご利用には、ユーザー登録が必要です (→ P.110)。
- ▶ 「ネットで故障診断」で無料で故障診断や、修理の申し込みができます。詳しくは、「修理の申し込み」(→ P.115) をご覧ください。

「富士通ハードウェア診断ツール」を使う

Windows が起動しなくなったときに、このパソコンのハードウェア (CPU、メモリ、ディスプレイ、SSD、CD/DVD ドライブ) に問題がないか診断します。

- 「トラブル解決ナビ」から起動できます。
- パソコン本体の電源を切り、あらかじめ周辺機器を取り外しておいてください。
- 診断したいハードウェアを選択できます。
- 診断時間は 5 ~ 20 分程度です。

■「富士通ハードウェア診断ツール」で診断する

- 1 「トラブル解決ナビ」を起動し (→ P.108)、「診断ツール」▶「富士通ハードウェア診断ツール」の順にタップします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「情報」ウィンドウが表示されます。
- 2 表示された注意事項をよく読み、「OK」をタップします。
「情報」ウィンドウが閉じます。

3 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をタップします。

ハードウェア診断が始まります。

診断時間は通常 5 ~ 20 分程度ですが、お使いのパソコンの環境によっては、長時間かかる場合があります。

Point

▶ 診断を取りやめる場合は「スキップ」をタップしてください。

4 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作を行ってください。エラーコードが表示された場合には、メモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。

5 「診断結果」ウィンドウの「閉じる」をタップします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

6 「終了」をタップします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

7 「はい」をタップします。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウに戻ります。

8 「終了」▶「シャットダウン」の順にタップします。

パソコンの電源が切れます。

Point

▶ Windows が起動しなくなったときは、起動メニューから起動できる「診断プログラム」を使用してもハードウェアの障害箇所を診断できます。診断時間は通常 5 ~ 20 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

1. BIOS の設定をご購入時の状態に戻します (→ P.106)。
2. パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
3. パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります (→ P.175)。
4. ショートカットボタンを押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。
5. 起動メニューが表示されたら、ボタンから指を離します。

6. 画面右下にある「Tab」をタップし、「アプリケーションメニュー」または「ApplicationMenu」に切り替えます。

7. メニューが表示されたら、「診断プログラム」または「Diagnostic Program」をタップします。

8. 「診断プログラムを実行しますか？」または「Do you want to run Diagnostic Program?」と表示されたら、「実行」または「Run」をタップしてハードウェア診断を開始します。

ハードウェア診断が終了すると、診断結果が表示されます (お使いの機種によっては、いったんパソコンが再起動した後で診断結果が表示されます)。

- ・ 診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、サポートの窓口に伝えてください。
- ・ トラブルが検出されなかった場合「再起動」または「Reboot」をタップしてください。
- ・ トラブルが検出された場合画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。その後、「電源オフ」または「Power OFF」をタップしてパソコンの電源を切ってください。

「トラブル解決ナビ」を起動する

■SSD から起動する

- 1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります (→ P.175)。
- 3 ショートカットボタンを押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。
- 4 起動メニューが表示されたら、ボタンから指を離します。

Point

▶ Windowsが起動してしまった場合は、パソコンの電源を切って操作をやり直してください。

5 画面右下にある「Tab」をタップし、「アプリケーションメニュー」または「ApplicationMenu」に切り替えます。

6 メニューが表示されたら、「トラブル解決ナビ」または「Recovery and Utility」をタップします。「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

■「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」から起動する

◎「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」から「トラブル解決ナビ」を起動する方法です。パソコンを廃棄するときやリカバリ領域の削除／復元をするときなど、特別な操作をするときだけ行います。

重要

- ▶ この操作を行う場合は、ポータブルCD/DVDドライブを用意してください。
 - ・ポータブルCD/DVDドライブは、「スーパーマルチドライブユニット（FMV-NSM54）」をお勧めします。
 - ・パソコンの電源を入れる前に、あらかじめ接続してください。

1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります（→ P.175）。

3 ショートカットボタンを押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。

4 起動メニューが表示されたら、ボタンから指を離します。

「アプリケーションメニュー」または「Application Menu」が表示された場合は、画面右下にある「Tab」をタップし、「起動メニュー」または「Boot Menu」に切り替えます。

5 ◎「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」をセットします。

認識されるまで 30 秒ほど待ってから、次の手順に進んでください。

6 「CD/DVD」や「CD/DVD Drive」などをタップします。

7 そのまましばらくお待ちください。

この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずに、そのままお待ちください。

8 「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

■「トラブル解決ナビ」が起動しない場合の解決方法

「トラブル解決ナビ」が表示されない場合は、次のように対処してください。

- BIOS の設定をご購入時の状態に戻すと解決する場合があります（→ P.106）。
- 市販のアプリや、Windows の「ディスクの管理」で領域設定を変更している場合は、「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を実行してください。詳しくは、「SSD の領域について」（→ P.158）をご覧ください。

富士通の窓口にご相談する

ユーザー登録のご案内

■ユーザー登録とは

ご購入されたパソコンとお客様の情報を、富士通に登録していただくことです（入会費・年会費無料）。

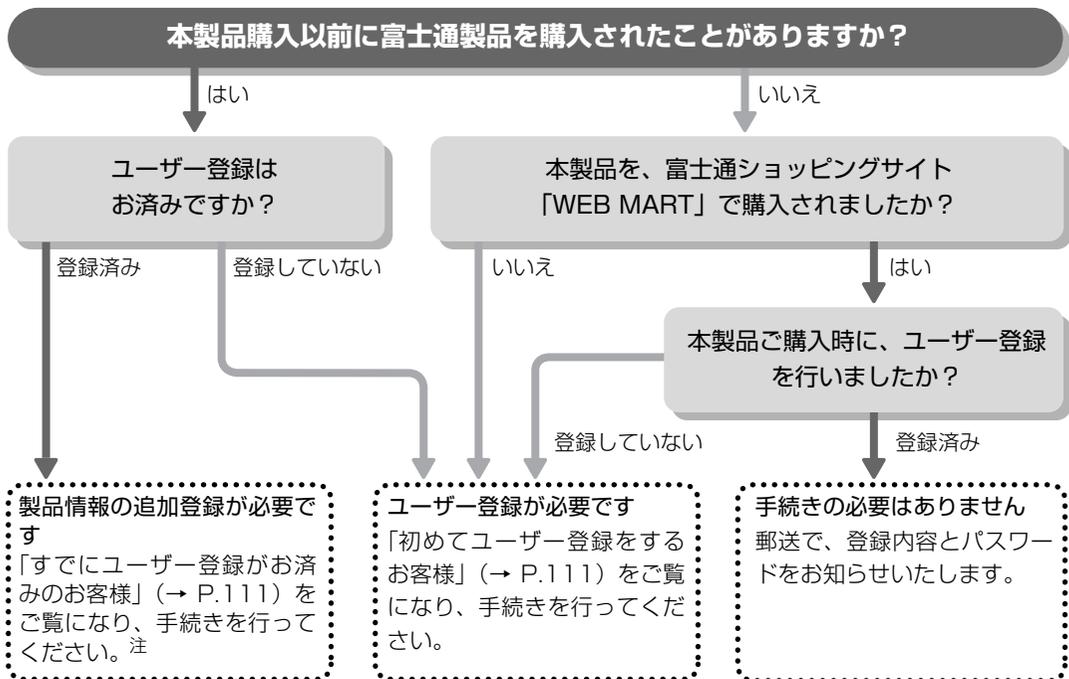
ユーザー登録をすると、1年間の無料電話相談などの手厚いサポートや専用の充実したサービスをご利用いただけます。

重要

▶ ご登録いただける住所は、日本国内のみとなります。

■ユーザー登録をする前に

次の図でユーザー登録が必要か、ご確認ください。



注：本製品を、富士通ショッピングサイト「WEB MART」でご購入のお客様は、製品情報の追加登録は不要です。

■ユーザー登録をする

ここではインターネットでユーザー登録する方法を説明します。操作できない場合など、ユーザー登録に関するお問い合わせは、「お問い合わせ窓口のご紹介」(→P.113)の「電話で相談する」をご覧ください。

□必要なものを用意してください

●保証書

製品の情報を確認するときに必要になります。
登録後も大切に保管してください。



保証開始日

Point

- ▶ 保証開始日に初めて電源を入れた日を記入してください。

保証開始日は「@メニュー」から確認できます。詳しくは、「@メニュー」の使い方(→P.75)をご覧ください。

「サポートをさがす」▶「お問い合わせをする」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にタップし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をタップしてください。

●筆記用具

ユーザー登録時に発行されるユーザー登録番号などを本マニュアルに控えていただくときに必要になります。

□初めてユーザー登録をするお客様

インターネットのユーザー登録専用ホームページからユーザー登録してください。インターネットに接続している場合のみ、専用ページに進むことができます。

- 1 スタート画面で「富士通パソコンユーザー登録」をタップします。



(画面は状況により異なります)

Point

- ▶ ユーザー登録には、メールアドレスが必要です。

- 2 画面上の説明をお読みにになり、手続きを行ってください。

ユーザー登録時に発行されるユーザー登録番号などを、次の欄に記入して、大切に保管してください。記入後は第三者に漏れないよう注意してください。

ユーザー登録番号	
パスワード	

□すでにユーザー登録がお済みのお客様

ユーザー登録専用ホームページから、画面の表示に従って、今回ご購入いただいたパソコンの情報を追加登録してください。

□ユーザー登録番号やパスワードを忘れた場合

ユーザー登録専用ホームページから、手続きを行います。画面の表示に従って、ユーザー登録番号の確認やパスワードの再発行をしてください。

サポート&サービス紹介

富士通のパソコンをより楽しく快適に利用いただくために、インターネット上のサポートページやサービスをご用意しております。

■サポートページ

<http://azby.fmworld.net/support/>



(画面は状況により異なります)

富士通パソコンユーザーのためのサポートページです。過去に電話窓口などにお問い合わせいただいたときの履歴をご確認いただくことができます。富士通からの重要なお知らせなど、役立つ内容があります。

□サポートコーナー新着

すぐに使えるパソコンテクニクや、富士通パソコンユーザー向けのサービス情報などが毎週更新されます。

サポートコーナー新着情報



便利なショートカット

エクセルでの入力作業がより速くなる！
便利な操作テクニック
Excelには便利なテクニックがたくさんあります。知っているのと作業が効率的に行えて、大幅に時間短縮ができます。今回はExcelの入力や編集をするときに、知っている便利なテクニックをご紹介します。

- ・ パワーポイント2013 基礎 募集開始！ -【メールセミナー】
- ・ がんばれ新人君タイピング -【実践！タッチタイピング】
- ・ NVIDIA社ディスプレイライバーの脆弱性に関するお知らせとアップデートのお願い(年 月 日)
- ・ 【新着Q&A】月 日更新！ -【マカフィー マルチアクセス】初期設定の方法を教えてください。...

バックナンバーへ >>

■会員専用サポート

マニュアルや、サポートページなどで確認しても、問題が解決できない場合、電話やメールで技術相談を受けられます。

詳しくは、「お問い合わせ窓口のご紹介」(→ P.113)をご覧ください。

■お問い合わせ窓口のご紹介

富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口

お客様に合わせた様々な方法でお問い合わせができます。

メール Twitter ネットで故障診断 電話予約 電話 が、ご利用できます。

技術相談も、修理相談もワンストップで解決！ より便利に簡単にご利用できる窓口になりました。

富士通FMVサポートページ <http://azby.fmworld.net/support/> ※最新の情報はホームページをご覧ください。



“メール”で相談する

メール

ホームページ上の専用の質問フォームから送信いただいたFMVに関するお問い合わせを受け付け、Eメールで回答いたします。Q&A・パソコン活用情報を検索後にお問い合わせいただけます。

- 1 Q&Aで調べる
- 2 質問フォームに入力する
- 3 メールで回答

各Q&Aページの下の方に質問フォームを表示するボタンがあります。

Q&Aで問題が解決しないときは、下記の方法もお試ください。



*ユーザー登録が必要となります。

パソコン スマートフォン



“Twitter”でアドバイスを受ける

Twitter

TwitterのFMV公式アカウントを、ぜひフォローしてください。お役立ちQ&Aをご紹介します。お困り内容をつぶやくと、担当者からアドバイスが届くことも！（「富士通」「FMV」「My Cloud」などの言葉を交えてツイートしてみましょう）

FMV公式アカウント：@Fujitsu_FMV_QA

- *お問い合わせにはTwitterへのログインが必要となります。
- *お客様に沿った案内が必要な場合は、メールでの相談をご案内する場合がございます。
- *お問い合わせいただいたすべてのご質問にお答えできない場合もございます。
- *Twitterの特性を最大限に生かすため、お客様とのやりとりはみなさまに見える状態でツイートいたします。

パソコン スマートフォン



“インターネットで故障を診断”する

ネットで故障診断

画面にしたがって状況を確認したり設定を変更したりするだけでトラブルを診断し、解決方法をアドバイスします。故障と診断された場合は、その場で修理申し込みができます。

<http://azby.fmworld.net/webprepair/>

パソコン スマートフォン

電話予約

電話

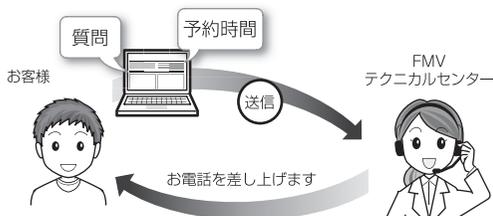
“電話”で相談する

*ご利用料金に関しては、次ページの「ご利用料金とお支払いについて」をご覧ください。

電話相談の“予約”をする

お客様がホームページよりご予約された時間帯に、FMVテクニカルセンターのサポート担当者からお電話を差し上げ、ご予約の際に入力されたご質問にお答えします。

<https://azby.fmworld.net/callback/>



- *ユーザー登録が必要となります。
- *富士通からお電話をかける連絡先は、日本国内に限らせていただきます。また日本語対応のみとなります。

パソコン スマートフォン

お困りごとのご相談はこちら

通話料無料 **0120-950-222** 受付時間：9:00～19:00(注)

携帯電話、PHS、IP電話、海外からはこちら **045-514-2255**
(通話料金お客様負担) 受付時間：9:00～17:00

修理受付はこちら

通話料無料 **0120-926-220** 受付時間：9:00～19:00(注)

携帯電話、PHS、IP電話、海外からはこちら **045-514-2260**
(通話料金お客様負担) 受付時間：9:00～17:00

- 注：受付時間は窓口によって異なります。ガイダンスに従ってご利用ください。
- *電話番号はお間違えないように、十分ご確認のうえおかけください。
- *システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。
- *音声ガイダンス内容・操作方法・受付時間は、予告なく変更させていただく場合があります。
- *ユーザー登録されている電話番号をお客様の発信番号が一致した場合には、ユーザー登録番号の入力が省略できます。
- 非通知設定による発信や、ユーザー登録されている番号と異なる発信番号等、一部ユーザー登録情報の確認ができない場合は、音声ガイダンスの指示に従ってユーザー登録番号を入力してください。

□ご利用料金とお支払いについて

●ご利用料金

- ・パソコン本体に初めて電源を入れた日（保証開始日）から、**1年間無料**でご利用いただけます。[注]

注：Refreshed PCに関する電話による技術サポートに関しては、1年目もお問い合わせ1件あたり2,000円（税込）となります。

また、受付時間は月～金曜日（祝日を除く）9時～17時となります。

- ・2年目以降

お問い合わせ1件あたり2,000円（税込）

※ My CloudカードまたはAzbyClubカードでお支払いの場合は、1,500円/件（税込）でご利用いただけます。My CloudカードおよびAzbyClubカードについて詳しくは、(<http://azby.fmworld.net/members/mycloudcard/>) をご覧ください。

※ プレミアムサービスに利用登録されているお客様のご利用料金につきましては、プレミアムサービスの専用ホームページにてご案内いたします。



- ▶ お問い合わせ1件は、お電話の回数ではなく、技術相談1項目ごとに1件と扱います。同じご相談内容であれば次回お問い合わせいただく際、料金は加算いたしません。（ただし14日以内に限りです）

●お支払い方法

お支払い方法は、音声ガイダンスに従って、次のいずれかを選択してください。

クレジット カード支払い	音声ガイダンスで、クレジット カード番号、有効期限の入力をお 願います。
コンビニ振込	コンビニ振込をご利用の場合は、 手数料が別途200円かかります。

□お問い合わせ前に確認してください

- 「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>) で解決方法を確認しましたか？
知りたい情報やトラブル解決方法をお調べいただけます。詳しくは「インターネットで調べる」(→ P.107) をご覧ください。
- ユーザー登録はしましたか？
電話サポートの利用にはユーザー登録が必要です。ユーザー登録方法は「ユーザー登録のご案内」(→ P.110) をご覧ください。

- アプリのお問い合わせ先を確認しましたか？
各アプリ提供会社のお問い合わせ先は、「メールやOffice で困ったときは」(→ P.91) および「ウイルス対策アプリなどで困ったときは」(→ P.92) をご覧ください。

- お使いのパソコンをお手元に用意いただいていますか？
お電話中に操作を行っていただく場合がございますので、お手元にご用意ください。

- データのバックアップはしましたか？
大切なデータの予備を保存しておく、安心です。バックアップ方法については、「バックアップ」(→ P.83) をご覧ください。

□電話相談サポートの活用方法について

- 電話窓口の混雑状況
<http://azby.fmworld.net/konzatsu/>
つながりやすさの状況をホームページで公開しています。「つながりやすい時間帯」を参考におかけください。

■修理を申し込む前の準備

- 故障かどうかをもう一度ご確認ください
パソコンのトラブルは、設定の誤りなど、故障以外が原因のこともあります。実際に「故障や修理に関する受付窓口」へのお電話の半数以上は、パソコンの故障ではなく、設定を変更することで問題が解決しています。
「ネットで故障診断」(<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>) で、本当にパソコンが故障しているか確認してください。
- 修理規定をご確認ください
お申し込み前に必ず「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」(→ P.176) を確認のうえ、同意をお願いします。
- 修理料金の目安を確認できます
ホームページで概算修理料金をご覧ください。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syuribin/charge.html>
- 保証書をお手元にご用意ください
保証期間は、初めてパソコン本体の電源を入れた日（保証開始日）から1年間となります。保証期間内は無料で修理させていただきます。
ただし、保証期間内でも有料となる場合があります。詳しくは、保証書裏面「無料修理規定」を確認してください。

Point

- ▶ 保証開始日は「@メニュー」から確認できます。詳しくは、「@メニュー」の使い方(→P.75)をご覧ください。
「サポートをさがす」▶「お問い合わせをする」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にタップし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をタップしてください。

●故障品をお手元にご用意ください

お申し込み時に操作いただく場合があるため、お手元に故障品をご用意ください。

●データのバックアップをおとりください

修理前の診断作業および修理の結果、記憶装置(SSDなど)内に記録されたお客様データが消失する場合があります。弊社ではいかなる作業においても、お客様のデータの保証はいたしかねるため、大切なデータは必ずお客様自身でDVDなどのディスクや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

バックアップの方法については、「バックアップ」(→P.83)をご覧ください。

また、パソコンの故障などによりお客様がバックアップできない場合には、「PCデータ復旧サービス」(有料)もご利用いただけます。

PCデータ復旧サービス(有料)

<http://azby.fmworld.net/datarescue/>

■修理の申し込み

パソコンの修理は、ホームページまたは電話でお申し込みください。

□ホームページで申し込む(ネットで故障診断)

「ネットで故障診断」では、パソコンが故障しているかどうかを調べることができます。

故障と診断された場合は、ホームページから修理を申し込むことができます。

ネットで故障診断

<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>

□電話で申し込む

「お問い合わせ窓口のご紹介」(→P.113)の「修理受付はこちら」をご覧ください。

重要

- ▶ 修理のために交換した故障部品は返却しません。あらかじめご了承ください。
- ▶ 修理のお申し込みの際は、お客様の名前や電話番号をお伺いいたします。お客様の個人情報の取り扱いについては「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」(→P.176)の第13条(個人情報の取り扱い)をご覧ください。

■お引き取りとお届け(パソコン修理便)

弊社指定の宅配業者がご自宅へパソコンを引き取りに伺います。

引き取りから修理・お届けまで約7日間です(土・日・祝日を含む)。[注]

注：修理の内容によっては、日数を要する場合があります。また、離島の場合は船便のための日数がかかります。

□お引き取り日時について

お引き取りは、修理受付の翌日以降、弊社設定の時間帯(9:00～21:00[注])で指定できます。

注：地域により異なります。お申し込み時にご確認ください。また、交通事情などにより指定日時にお伺いできない場合があります。

□お引き取りについて

宅配業者が指定日時にご自宅へ伺います。

梱包は宅配業者が行いますので、故障品は梱包せずに玄関先にご準備ください。

重要

- ▶ 次の各種パスワードは事前に解除してください。確認のために修理作業が中断し、修理に時間がかかる場合があります。
 - ・ BIOS パスワード

- 保証書を用意してください(保証期間中の場合)。宅配業者が故障品といっしょに梱包いたします。
- 宅配業者がお渡しする「お預かり伝票」を大切に保管してください。
- 引き取り後のキャンセルについては、診断料を申し受けます。あらかじめご了承ください。

●「修理状況確認サービス」

(<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>)
で携帯電話やパソコンのメールアドレスをご登録
ください。故障品の当社への到着、お見積り発行
時の連絡、修理完了品の発送、お届け予定日などを
メールでお知らせします。

□お届けとお支払いについて

修理完了品を玄関先までお届けします。有料の場合は
代金引換払いとなりますので、宅配業者に現金でお支
払いください。

●修理料金について

- ・保証期間内（保証開始日より1年間）：無料（保
証書記載の「無料修理規定」による）
- ・保証期間外：有料（修理にかかる部品代、技術料等）

※ 交通事情などにより、ご指定の日時にお伺いできない場合
があります。

■修理状況の確認

ホームページや電話で、修理状況を確認できます。

□ホームページで確認する（修理状況確認サービス）

パソコン、スマートフォン、携帯電話（iモード、
Ezweb、Yahoo! ケータイ）で「お預かり伝票」の
「修理お問合せ番号」（8桁の番号）を入力して、修理
状況を確認できます。

修理状況確認サービス

パソコン・スマートフォン・携帯電話から
<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>

携帯電話から

バーコード読み取り機能付
きの携帯電話では、右のバ
ーコードからアクセスいた
だけます。



※ 携帯電話、スマートフォンの操作方法については、お使い
の機種メーカーにお問い合わせください。

□電話で確認する

音声ガイダンスに従ってダイヤルを押してください。
「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）
と、修理お申し込み時にご登録されたお電話番号を入
力してください。

富士通修理お問い合わせダイヤル

キューニーロク ニーニーマル
0120-926-220

▶▶ダイヤル **3** をプッシュ



通話料無料 / 受付時間：24時間365日

携帯電話、PHS、海外からはこちら

ゴーイチヨン ニーニーロクマル
045-514-2260

（通話料金お客様負担）

受付時間：9：00～17：00

※ システムメンテナンスのため、サポートを休止させていた
だく場合があります。

■訪問修理サービス（有料）

弊社指定の修理サービス会社をご自宅に伺い、その場
で修理を行う有料サービスです。
ご利用料金は、修理作業完了後に、修理担当者に現金
でお支払いください。

●訪問修理の料金体系

	訪問料金	修理料金
保証期間内 （保証開始日より 1年間）	有料	無料 （保証書記載の「無料修 理規定」による）
保証期間外	有料	有料

※ 離島の場合は、訪問料金とは別に、訪問に要する実費（フェ
リー代、宿泊代等）をご負担いただく場合があります。
訪問修理サービスの詳細は、「お問い合わせ窓口のご紹
介」（→ P.113）の「修理受付はこちら」にお問い合わせ
ください。

■PC引取点検サービス（有料）

パソコンを安心して長く使っていただくために、ハー
ドウェア・アプリの点検や、パソコン内部の清掃を行
う有料サービスです。

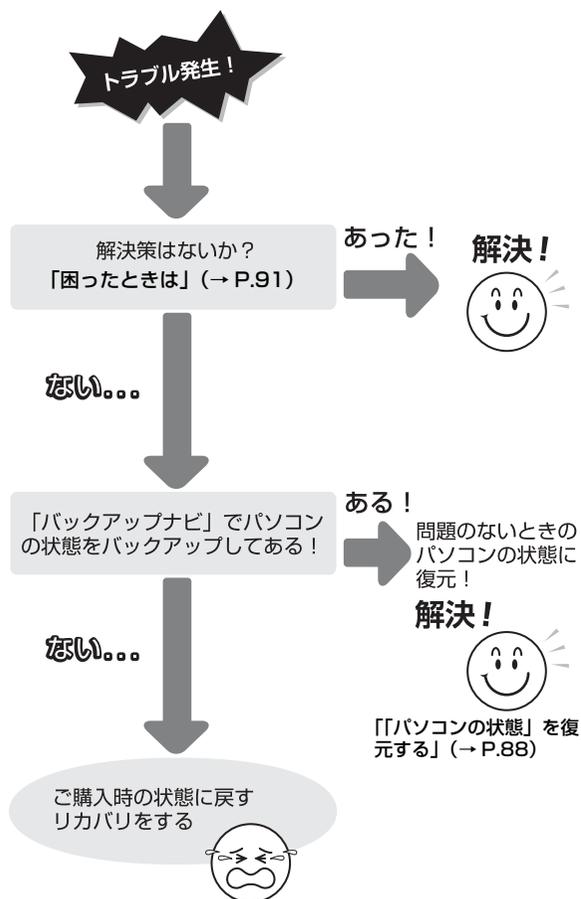
PC引取点検サービス

<http://azby.fmworld.net/support/repair/tenken>

ご購入時の状態に戻す必要があるか再確認

Cドライブをご購入時の状態に戻すリカバリをすると、今まで作成したCドライブ内のデータや設定がすべて削除されてしまいます。そのためリカバリ後には、セットアップを行ったり、必要に応じてアプリをインストールしたり、現在お使いの状態に戻すには大変手間がかかります。

通常はご購入時の状態に戻すリカバリを行う必要はほとんどありません。本当にご購入時の状態に戻す必要があるか、下の図でもう一度確認してください。



ご購入時の状態に戻すリカバリの準備

Cドライブをご購入時の状態に戻すリカバリは、SSDの「リカバリ領域」という場所に保存されているデータを使用します。

Point

- ▶ リカバリ領域を削除している場合やリカバリ領域が破損してしまった場合にのみ、「リカバリディスクセット」を使用してリカバリします。
- ▶ 「リカバリディスクセット」はSSD全体をリカバリする場合などにも使用します。詳しくは「SSDの領域について」(→ P.158)をご覧ください。

バックアップをする

リカバリを行うと、Cドライブのデータはすべて削除されます。

必要なデータはバックアップしてください。

バックアップ方法については、「バックアップ」(→ P.83)をご覧ください。

ご購入時の状態に戻すリカバリの注意

■ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mではパソコン本体のみでも専用キーボードを接続してもリカバリを行うことができます。どちらの場合も必ずACアダプタをパソコン本体に接続してください

■ARROWS Tab QH55/M、WQ1/Mでは必ずパソコン本体にACアダプタを接続して本体のみでリカバリを行ってください

■外付けハードディスクやUSBメモリは必ず取り外してください

リカバリを行う前に必ず取り外してください。接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

■周辺機器（クレードル、プリンター、デジタルカメラ、スキャナーなどの装置、HDMI入力／出力端子、USB コネクタに接続しているすべての周辺機器）は取り外してください

LAN ケーブルなどもすべて抜いてください。接続したままだとマニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

ARROWS Tab WQ1/M ではスリムキーボードも取り外してください（添付機種のみ）。

■メモリーカードは取り出してください

メモリーカードをセットしていると、マニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

■ファイルコピー中は他の操作をしないでください

むやみにタップせず、しばらくお待ちください。他の操作をすると、リカバリが正常に終了しない場合があります。

■時間に余裕をもって作業しましょう

リカバリ実行からアプリのインストール終了まで、早く終了する機種でも2～3時間はかかります。

半日以上は時間をとり、じっくりと作業することをお勧めします。

作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法

■画面が真っ暗になった

パソコンが再起動して画面が暗くなる場合は、手順に記載しています。

手順に記載がないのに、画面が真っ暗になった場合は、省電力機能が働いた可能性があります。

Windows ボタンを押すか、専用キーボード（添付機種のみ）を接続している場合はフラットポイントの操作面に触れるか、キーボードの     や **[Shift]** を押してください。

それでも復帰しない場合は、電源ボタンをポチッと押してください。

■電源が切れない

電源ボタンを ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M では4秒以上、ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では10秒以上押して電源を切ってください。

ディスクが必要な場合

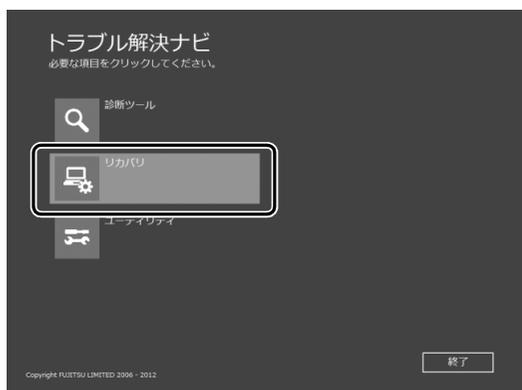
- リカバリ領域を削除している場合、リカバリ領域が破損してしまった場合は、「リカバリディスクセット」が必要です
- ディスクがない場合や破損してしまった場合、弊社のホームページから購入できます
「リカバリディスク有償サービス」
<http://azby.fmworld.net/support/attachdisk/>
ただし、Webカスタムメイドモデルの「リカバリディスクセット」は電話で申し込んで購入してください。
「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
0120-950-222（通話料無料）
- ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
 - ・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
 - ・リカバリを開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。

ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する

準備ができたならリカバリを実行します。SSDのCドライブの内容がいったんすべて消去され、リカバリ領域(または「リカバリディスクセット」)からWindowsやアプリがインストールされてご購入時の状態に戻ります。

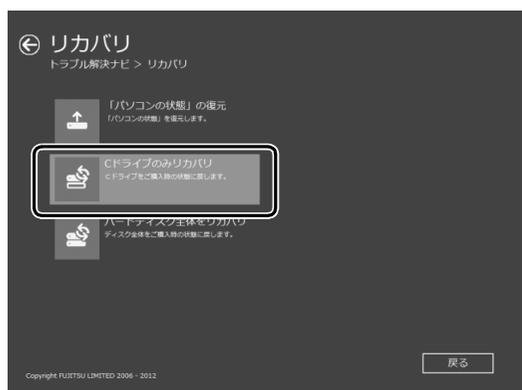
Cドライブを初期状態に戻す

- 1 「トラブル解決ナビ」を起動します。
「トラブル解決ナビ」を起動する(→ P.108)をご覧ください。
- 2 「リカバリ」をタップします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

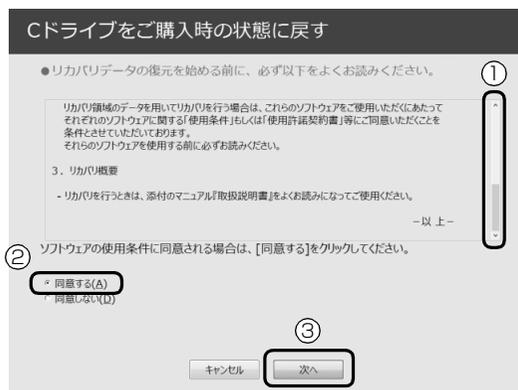
- 3 「Cドライブのみリカバリ」をタップします。



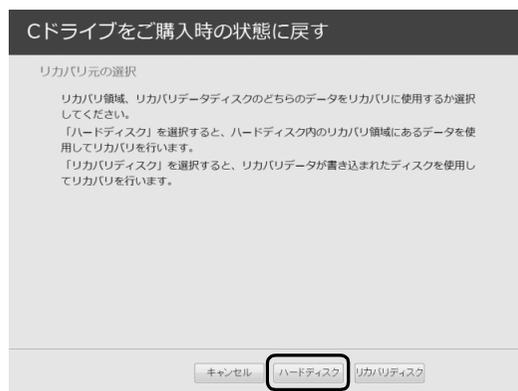
- 4 「次へ」をタップします。



- 5 「ご使用上の注意」の内容を確認し、次の画面の操作をします。



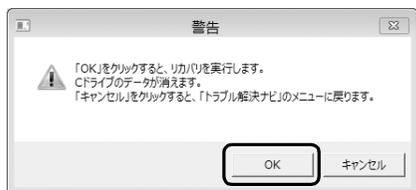
- ① 「ご使用上の注意」を下までスクロールして確認します。
「同意する」が選択できるようになります。
 - ② 「同意する」をタップして☑にします。
 - ③ 「次へ」をタップします。
- 6 「ハードディスク」をタップします。



Point

- ▶ SSD にリカバリデータがない場合など、リカバリディスクセットを使用してリカバリする場合、「リカバリディスク」をタップしてください。ディスクを用意し、画面の指示に従って操作してください。

7 警告画面で、「OK」をタップします。



復元の進行状況を示す画面が表示され、ご購入時の状態に戻すリカバリが始まります。

リカバリ途中で計算し直しているため、終了までのパーセンテージは正確に表示されない場合や増える場合があります。

8 そのまましばらくお待ちください。

しばらくすると、「ディスクの復元が完了しました。」と表示されます。

9 「完了」をタップします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

Windows のセットアップをする

これで Windows がご購入時の状態に戻りました。この後、ご購入後初めて電源を入れたときと同じように、Windows のセットアップが必要です。「セットアップする」(→ P.23) をご覧になり、セットアップしてください。

なお、電源は 30 秒以上待ってから入れてください。

Point

- ▶ 「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、「地域と言語」の画面が表示されるまで 30 分以上かかることがあります。ご了承ください。

■ セットアップ時の注意事項

- ユーザー登録は再度行う必要はありません。
- すでに Microsoft アカウントを取得されているため、「Windows のセットアップをする」の手順 11 では Microsoft アカウントを入力し、「次へ」をタップしてください。その後は画面の指示に従って操作してください。

Point

- ▶ Office搭載機種で、「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、Office がインストールされた状態にリカバリされません。

セットアップ後に、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。

インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

フラットポイント

専用キーボード添付機種のみ

フラットポイントの設定を変更する

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。フラットポイントの基本操作については、「取り扱い」－「フラットポイント」(→ P.55)をご覧ください。

■フラットポイントでできること

「コントロールパネル」の「マウス」でサポート機能のON/OFFができます。

□複数の指によるジェスチャー

フラットポイントの操作面で、次のような操作を行うことができます。

●2本指でのスクロール

フラットポイントの操作面の任意の位置に2本の指を置き、上下や左右になぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。



●つまみズーム

フラットポイントの操作面で、2本の指でつまんだりひらいたりする動作をします。つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらく操作をすると拡大表示されます。



●回転

・TwistRotate (ツイストローテイト)

フラットポイントの操作面に2本の指を置き、時計回り、または反時計回りに弧を描くようになぞると、なぞった方向に画像などを回転させることができます。

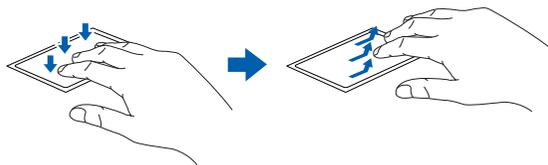


●3本指で弾く

フラットポイントの操作面に3本の指を置き、すばやくはらいます。

ブラウザーなどを表示しているときに、右にはらうと「進む」と同様の動きをします。左にはらうと「戻る」と同様の動きをします。

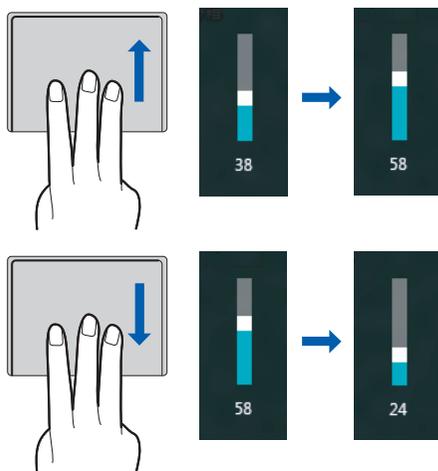
うまく反応しない場合は、3本の指を少し離して操作してください。



●音量を調節する

フラットポイントの操作面に3本の指を置いて、上下になぞることによって音量を調節できます。

操作面を3本指で1回押すことで、消音(ミュート)になります。もう一度操作すると、音が出るようになります。



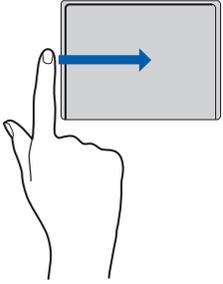
□タップ

フラットポイントの操作面を指で軽く押すとタップできます。何本の指で押すかによって、操作を設定することもできます。

□エッジスワイプ

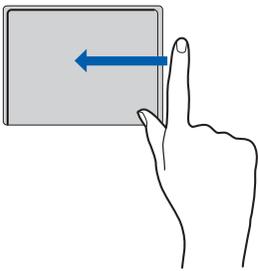
●アプリを切り替える

1 本指を左端の枠の外から中へスライドすると起動中のアプリが切り替わります。



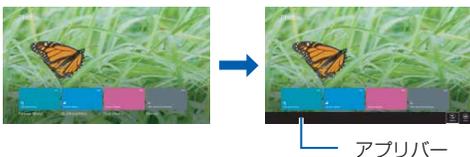
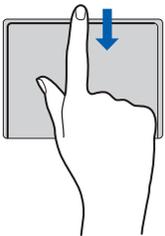
●「チャーム」を表示する

1 本指を右端の枠の外から中へスライドすると「チャーム」が表示されます。



●「アプリバー」を表示する

1 本指を上端の枠の外から中へスライドすると「アプリバー」が表示されます。



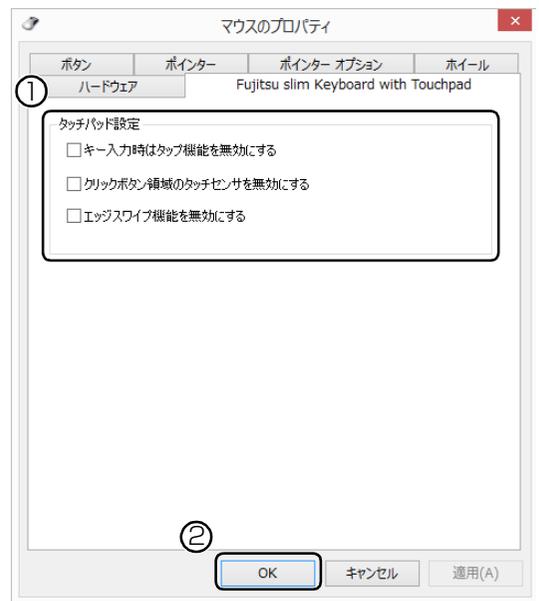
□各機能を使えるように設定する

各機能の設定は、「コントロールパネル」の「マウス」で行います。

Point

▶ アプリによっては、各機能が使えない場合があります。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にタップします。「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「Fujitsu Slim Keyboard with Touchpad」タブで、①無効にしたい機能の を にし、②「OK」をタップします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

■その他の設定

□左きき用に設定する

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」をタップすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ボタン」タブの設定画面から変更することができます。

□シングルタップとダブルタップの設定を変更する

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」▶「フォルダーオプション」の順にタップし、「全般」タブの「クリック方法」で設定を変更することができます。

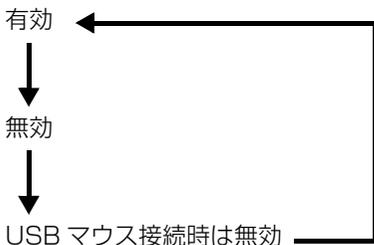
フラットポイントの有効／無効の切り替え

ここでは、フラットポイントの有効／無効の切り替え方法について説明します。

■キーボードで切り替える

(専用キーボード添付機種のみ)

 +  を押すと、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。



なお、この設定はシャットダウンや再起動を行っても維持されます。

ディスプレイ

解像度と発色数についての注意

パソコンの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの他に、次のディスプレイやテレビにも表示することができます。

■接続できるディスプレイ

□ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M

- ターボモード用拡張クレードル接続時（添付機種）
 - ・HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ
 - ・外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ
- キーボード・ドッキングステーション接続時（選択した場合）
 - ・HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ
 - ・外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ

□ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M

- 拡張クレードル接続時（選択した場合）
 - ・HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ
 - ・外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ

Point

- ▶ 別売の HDMI 変換ケーブルを使うと、パソコン本体にデジタルテレビを接続できます。
- ▶ 別売の VGA 変換ケーブルを使うと、パソコン本体にアナログディスプレイを接続できます。
- ▶ クレードルおよびキーボード・ドッキングステーションの接続時は、パソコン本体の microUSB コネクタは使えません。HDMI / VGA の映像出力もできません。
- ▶ クレードルおよびキーボード・ドッキングステーションの HDMI 出力端子、外部ディスプレイコネクタに同時に接続した場合、HDMI 出力端子からのみ映像が出力されます。

■注意事項

ディスプレイにパソコンの画面を表示するときは、次の点に注意してください。

- アプリによっては、解像度の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリの動作環境を確認し、解像度を変更してください。
- 外部ディスプレイやデジタルテレビで表示できる解像度は、ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイに対応している外部ディスプレイやデジタルテレビの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイまたは接続したディスプレイの、どちらかの最大解像度の小さい方に設定されます。
- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面は、液晶ディスプレイの画面と同一の解像度になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.126)の表の組み合わせ以外には設定しないでください。
- 画面の解像度、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のアプリや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。
- HDMI 出力端子で出力した場合、出力先のデジタルテレビでは画面の端が一部欠けることがあります。このような場合は、外部ディスプレイやデジタルテレビ側で設定を「ドットバイドット表示」などに変更してください。
詳しくは、お使いのデジタルテレビや外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- パソコン本体の microUSB コネクタに、別売の HDMI 変換ケーブルおよび VGA 変換ケーブルを接続する場合は、次の方法で接続/取り外しをしてください。
 - ・変換ケーブル (HDMI および VGA 側) にご使用になる機器を接続した状態で、microUSB コネクタへの接続/取り外しを行う。上記の方法で接続/取り外しを行わないと、その他の USB 対応周辺機器の認識ができなくなります。USB 対応周辺機器の認識ができない場合は、本パソコンの電源を切り (→ P.175)、もう一度電源を入れてください。

液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数は、次のとおりです。

●ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M

発色数 ^[注]	解像度 (ピクセル)
約 1677 万色	1024 × 768
	1280 × 800
	1440 × 900
	1680 × 1050
	1920 × 1080

注 擬似的に色を表示するデザイナー機能を利用

●ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M

発色数 ^[注]	解像度 (ピクセル)
約 1677 万色	1024 × 768
	1280 × 800
	1440 × 900
	1680 × 1050
	1920 × 1200
	2560 × 1600

注 擬似的に色を表示するデザイナー機能を利用

外部ディスプレイやデジタルテレビの接続

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することができること

パソコン本体に外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2つのディスプレイに同時に表示する。
- 2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する (マルチモニター機能)。
- 接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力する。

ここでは、外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する手順について説明しています。

重要

- ▶ HDMI 出力端子、別売の HDMI 変換ケーブルに接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力するには、設定が必要な場合があります (→ P.134)。

■必要なものを用意する

□外部ディスプレイやデジタルテレビ

外部ディスプレイやデジタルテレビによって接続するコネクタや接続方法が異なります。それぞれ次のコネクタなどに接続します。接続するときは、必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

●外部ディスプレイをアナログ接続する場合

外部ディスプレイコネクタにディスプレイケーブルを使って接続します。

パソコン本体の microUSB コネクタに別売の VGA 変換ケーブルを使って接続することもできます。

●デジタルテレビや液晶ディスプレイで HDMI 対応のものを接続する場合

HDMI 出力端子に HDMI ケーブル を使って接続します。

パソコン本体の microUSB コネクタに別売の HDMI 変換ケーブルを使って接続することもできます。

□外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアル

外部ディスプレイやデジタルテレビにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する

警告



- 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続/取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2 パソコン本体や、クレードル、キーボード・ドッキングステーションにケーブルを接続します。接続するコネクタにより使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、「必要なものを用意する」(→ P.125) をご覧ください。また、コネクタの場所については、「各部の名称と働き」(→ P.45) をご覧ください。
- 3 外部ディスプレイやデジタルテレビにケーブルのもう一方のコネクタを接続します。接続方法は、外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。
- 4 外部ディスプレイやデジタルテレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
- 5 パソコン本体またはクレードルに AC アダプタを取り付け、電源を入れます。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイやデジタルテレビ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

- 外部ディスプレイやデジタルテレビに CD-ROM など必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、添付のマニュアルをご覧ください。必要なファイルをインストールしてください。

Point

- ▶ 外部ディスプレイやデジタルテレビを接続後、接続したディスプレイのみに表示する設定にしても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ▶ 液晶ディスプレイや接続した外部ディスプレイやデジタルテレビに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度については、「解像度と発色数についての注意」(→ P.123) をご覧ください。

外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数

□外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイの場合

接続した外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。

外部ディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いの外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

発色数	解像度 (ピクセル) ^[注]
約 1677 万色	1024 × 768
	1280 × 800
	1280 × 1024
	1360 × 768
	1440 × 900
	1600 × 900
	1600 × 1200
	1680 × 1050
1920 × 1080	

注 外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

□HDMI 出力端子、別売の HDMI 変換ケーブルに接続したデジタルテレビやディスプレイの場合

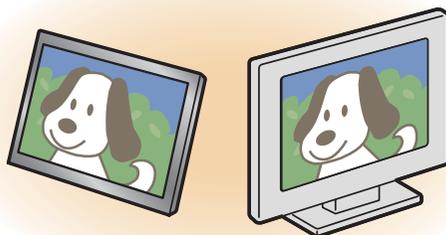
接続したデジタルテレビやディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。

デジタルテレビやディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いのデジタルテレビやディスプレイのマニュアルをご覧ください。

発色数	解像度 (ピクセル) ^[注]
約 1677 万色	1280 × 720 (720p)
	1360 × 768
	1920 × 1080
	(1080i, 1080p)

注 接続したデジタルテレビやディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

□液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の場合



液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

●液晶ディスプレイ

メインディスプレイ (またはプライマリデバイス) : 内蔵ディスプレイ (またはノートブック、Notebook)

●外部ディスプレイ

2 番目のディスプレイ (またはセカンダリデバイス) : PC モニター nnn (または PC モニタ)

nnn には、お使いのディスプレイの型名が表示されます。お使いのパソコンの液晶ディスプレイの解像度は、「液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数」(→ P.124) をご確認ください。

外部ディスプレイの解像度は、外部ディスプレイのマニュアルにてご確認ください。

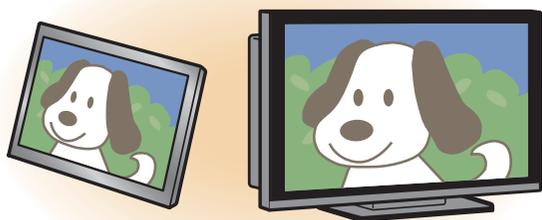
液晶ディスプレイの解像度以下であり、かつ、お使いの外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。

発色数 ^[注 1]	解像度 (ピクセル)
約 1677 万色	1024 × 768
	1280 × 800 ^[注 2]
	1280 × 1024
	1360 × 768 ^[注 2]
	1440 × 900 ^[注 2]
	1600 × 900 ^[注 2]
	1600 × 1200
	1680 × 1050 ^[注 2]
	1920 × 1080 ^[注 2]

注 1 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するデザイン機能を利用

注 2 外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

□液晶ディスプレイとデジタルテレビの同時表示の場合



液晶ディスプレイとデジタルテレビに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

●液晶ディスプレイ

メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：
内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）

●デジタルテレビ

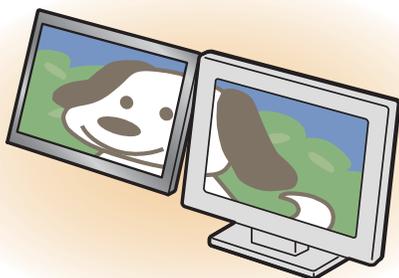
2 番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：
デジタルテレビ

接続したデジタルテレビがサポートしている次の解像度を表示できます。

発色数 ^[注]	解像度（ピクセル）
約 1677 万色	1280 × 720
	1920 × 1080

注 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するデザインリング機能を利用

□マルチモニターの場合



マルチモニター機能をお使いになるときは、表示するディスプレイを次のように設定してください。

●液晶ディスプレイ

メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：
内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）

●外部ディスプレイやデジタルテレビ

2 番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：PC モニター nnn（または PC モニタ、デジタルテレビ）

nnn には、お使いのディスプレイの型名が表示されません。接続したディスプレイに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

ただし、1920 × 1080 より大きい解像度には表示できません。

画面の解像度の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度を変更する方法について説明しています。

重要

▶ 設定変更時の画面表示の乱れについて
解像度を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。

- 1 スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 デスクトップ画面の何も無いところを右タップし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をタップします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

3 解像度を変更します。

「解像度」の▼をタップし、表示される画面で解像度を選択します。



解像度の変更
をドラッグします。

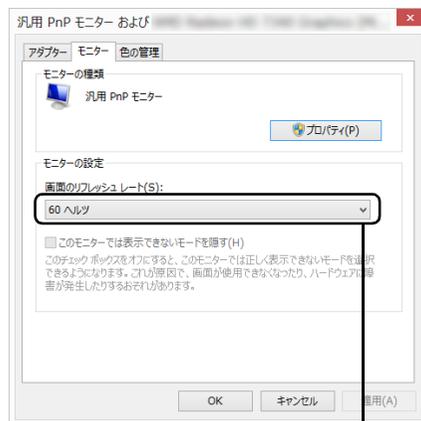
接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、「ディスプレイ表示の変更」でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 「適用」をタップします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をタップします。

■ リフレッシュレートの変更

1. 「画面の解像度」ウィンドウで「詳細設定」をタップし、表示されたウィンドウで「モニター」タブをタップします。
2. リフレッシュレートの▼をタップし、表示されるメニューからリフレッシュレートを変更します。



▼をタップして選びます。

3. 「適用」をタップします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をタップし、「OK」をタップします。

5 「OK」をタップします。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイやデジタルテレビなどを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。

ここでは、切り替え方法について説明しています。



■ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。なお、お使いのパソコンにより搭載されているコネクタが異なります。

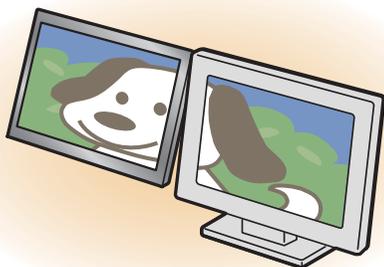
●1つのディスプレイで表示する

- ・ パソコン本体の液晶ディスプレイ
- ・ 接続したアナログディスプレイ
- ・ 接続したデジタルテレビ

●2つのディスプレイで同時に表示する

- ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ
- ・ パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続したデジタルテレビ

●2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する



2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」(→P.131)をご覧ください。

重要

- ▶ 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。

Point

- ▶ HDMI出力端子、別売のHDMI変換ケーブルに接続したデジタルテレビやディスプレイには、BIOSセットアップの画面を表示することはできません。
- ▶ Windowsが起動すると、表示されるディスプレイは、前回Windowsで使用していた状態になります。
ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、液晶ディスプレイのみの表示になります。
- ▶ お使いのテレビによってはテレビの解像度が液晶ディスプレイよりも低い場合、鮮明に表示できない場合があります。

■デスクトップ画面から切り替える

Point

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
 - ・ 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10秒ほどで表示先が液晶ディスプレイに戻ります。
 - ・ 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。

- 1 スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 デスクトップ画面の何も無いところを右タップし、表示されるメニューから「グラフィックス・プロパティ…」をタップします。
「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

3 「ディスプレイ」をタップします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

4 「ディスプレイ」をタップし、「マルチ・ディスプレイ」をタップします。



5 表示するディスプレイを選択します。

■ 1つのディスプレイで表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「シングル」をタップした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の \checkmark をタップし、表示するディスプレイを選択します。



■ 2つのディスプレイで同時に表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「クローン」をタップした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の \checkmark をタップし、表示するディスプレイを選択します。このとき、最上段は「内蔵ディスプレイ」に設定してください。



6 適用をタップします。

「適用」をタップすると、画面にメッセージが表示されることがあります。この場合は画面の指示に従って操作してください。

7 画面右上の \times をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ キーボードで切り替える

(専用キーボード添付機種のみ)

キーボードで表示する画面を切り替えるには、 $\text{Win} + \text{P}$ を押し、カーソルキーで表示方法を選んで、 Enter を押ししてください。

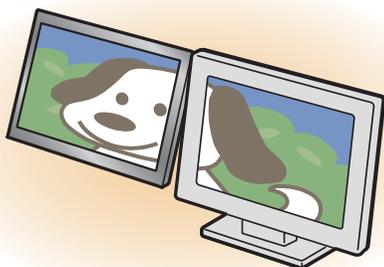


Point

- ▶ プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「デスクトップ画面から切り替える」(→P.129)をご覧ください。
- ▶ キーボードで切り替える場合には、クローンディスプレイのメインディスプレイの変更はできません。メインディスプレイは、自動的に以前に設定したディスプレイになります。

■マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコンの液晶ディスプレイと接続したディスプレイを使用して、2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。



□マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のアプリを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコンの液晶ディスプレイをメインディスプレイ(プライマリデバイス)、接続したディスプレイを2番目のディスプレイ(セカンダリデバイス)に設定してください。
- マルチモニター機能の使用中的ご注意
 - ・マルチモニター機能を使用中は、キーボードでディスプレイの表示を切り替えることはできません。
 - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、表示するディスプレイの設定を変更しないでください。
 - ・2番目のディスプレイ(セカンダリデバイス)のみに表示されているアプリを起動中に、2番目のディスプレイ(セカンダリデバイス)の使用を終了しないでください。アプリおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。

- メインディスプレイ(プライマリデバイス)のみで表示されるもの
 - ・液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・一部のスクリーンセーバー
 - ・動画再生画面の全画面表示
 - ・アクセラレーター機能を使用している動画再生画面

□マルチモニター機能を設定する

- 1 外部ディスプレイをパソコンに接続します。
- 2 スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 3 デスクトップ画面の何も無いところを右タップし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をタップします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。
- 4 「複数のディスプレイ」の▼をタップして「表示画面を拡張する」を選択します。



(画面は機種や状況により異なります)

- 5 「適用」をタップします。
- 6 確認のウィンドウが表示されたら「変更を維持する」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

□アダプターの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプターの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 マルチモニター機能を設定します。
- 2 スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 3 デスクトップ画面の何も無いところを右タップし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をタップします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

■マルチディスプレイ内を左右に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを左右に並べます。



左右に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

■マルチディスプレイ内を上下に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを縦に並べます。



上下に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

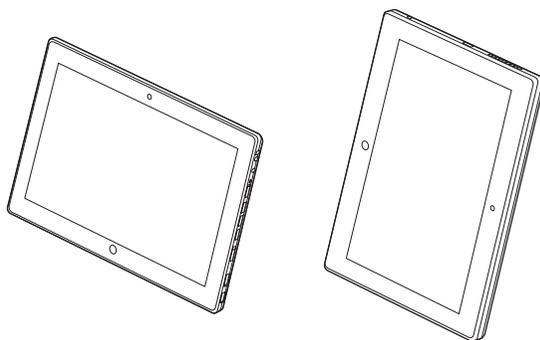
5 「適用」をタップします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

6 確認のウィンドウが表示されたら「変更を維持する」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

画面表示の回転

横向きでも縦向きでもパソコンを操作できます。画面表示の向きは手動で変更したり、パソコン本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます。



■注意事項

画面表示の向きの設定は、Windows が起動している場合にのみ有効です。

■手動で画面表示の向きを変える

パソコン本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

□ホットキーで画面表示の向きを変更する (専用キーボード添付機種のみ)

ご購入時の設定では、カーソルキーの向きが画面表示の上の向きになります。

ホットキー	画面表示の向き
Ctrl + Alt + ↑	0°
Ctrl + Alt + ←	90°
Ctrl + Alt + ↓	180°
Ctrl + Alt + →	270°

□ホットキーの設定を変更する (専用キーボード添付機種のみ)

ホットキーの設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティ」をタップします。
「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 ウィンドウ左のオプションをタップします。
- 3 ホットキーの設定を変更し、「適用」をタップします。

■状態が変わったときの動作を設定する

□ステータスパネルスイッチで設定を変更する

- 1 ショートカットボタンを押します。
ショートカットボタンの場所については、をご覧ください。
- 2 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウの「ローテーションロック」ボタンをタップします。
タップするたびに、デスクトップ画面左上部に「自動回転オフ」「自動回転オン」と表示され、パソコン本体を傾けたときの画面の自動回転のオン／オフが切り替わります。



- ▶ 専用キーボード（添付機種のみ）またはクレードルを接続している場合、自動回転はオフになり、オン／オフは切り替えられません。

ディスプレイ省電テクノロジー設定

このパソコンには、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリー駆動時間を延ばす「ディスプレイ省電テクノロジー」機能があります。

■ディスプレイ省電テクノロジーをお使いになるうえでの注意

- バッテリー駆動時のみ動作します。
- ご購入時は次のように設定されています。
 - ・ディスプレイ省電テクノロジー機能：「オン」
 - ・レベル（ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mの場合）：「最長バッテリー駆動時間」
 - ・レベル（ARROWS Tab QH55/M、WQ1/Mの場合）：右から3番目

- ディスプレイ省電テクノロジー機能が動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。

- ・表示している画像を切り替えたとときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
- ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ディスプレイ省電テクノロジー機能を設定する

- 1 デスクトップ画面の何も無いところで右タップし、表示されるメニューから「グラフィックス・プロパティ…」をタップします。
「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源」をタップします。
- 3 「ディスプレイ省電テクノロジー」を設定します。
 - ・動作させる場合は、「オン」をタップし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリー駆動時間が優先される設定になります。
 - ・動作させない場合は、「オフ」をタップするか、「最高画質」に設定します。
- 4 「適用」をタップします。
「適用」をタップすると、画面にメッセージが表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。
- 5 画面右上の × をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

■アプリごとに音量を調節する

- 1 音量を調節したいアプリを起動します。
- 2 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 3 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にタップし、「システム音量の調整」をタップします。「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。
- 4 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



- ・ミュート
ここをタップして  にすると音が消えます。もう一度タップして  にすると元の音量に戻ります。
- ・音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

(画面は機種や状況により異なります)

- ・デバイス
このパソコンのスピーカーから出る音量です。デスクトップ画面右下の通知領域の「音量つまみ」で設定した音量と同じです。HDMI 出力端子、別売の HDMI 変換ケーブルに接続したテレビから音を出す場合は、「HDMI デバイス」と表示されます。
 - ・アプリケーション
起動しているアプリごとに音量を調節できます。「デバイス」に設定した音量が最大値になります。
 - ・音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。
 - ・ミュート
ここをタップして  にすると音が消えます。もう一度タップして  にすると元の音量に戻ります。
- 5  (閉じる) をタップします。「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

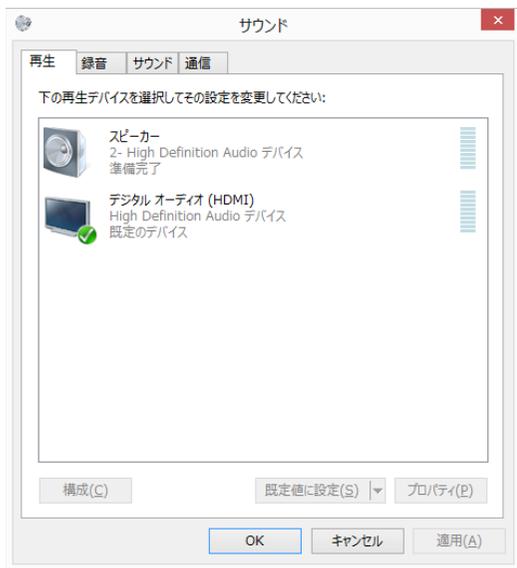
■再生や録音する機器ごとに音量を調節する

□再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするとき、音声の出力先を選択することができます。HDMI 出力端子、別売の HDMI 変換ケーブルに接続したデジタルテレビやディスプレイから音を出したい場合も、次の手順で再生する機器を選択してください。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にタップします。「サウンド」ウィンドウが表示されます。

- 3 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をタップします。



(画面は機種や状況により異なります)

選択した機器にチェックマークが付きます。

- 4 「OK」をタップします。

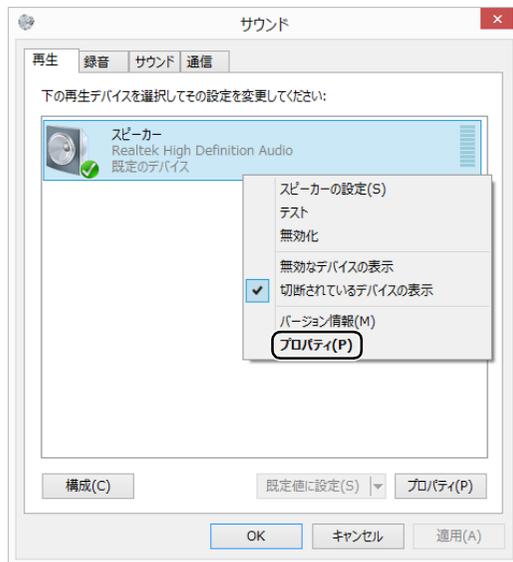
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にタップします。
- 「サウンド」ウィンドウが表示されます。

- 3 「再生」タブの「スピーカー」を右タップし、表示されるメニューから「プロパティ」をタップします。

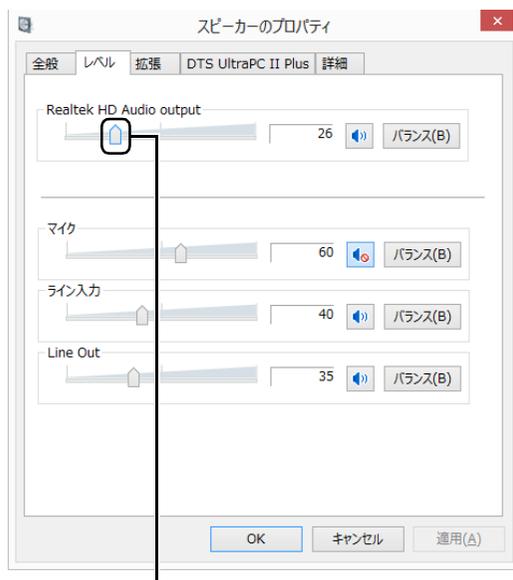


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをタップします。

- 5 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

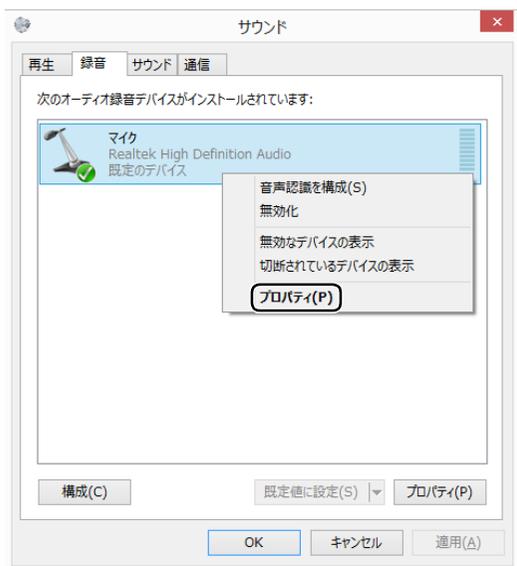
-  : スピーカーから音が聞こえます。
-  : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- 「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

- 6 「OK」をタップします。
「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 7 「OK」をタップします。
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にタップします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3 「録音」タブの「マイク」を右タップし、表示されるメニューから「プロパティ」をタップします。

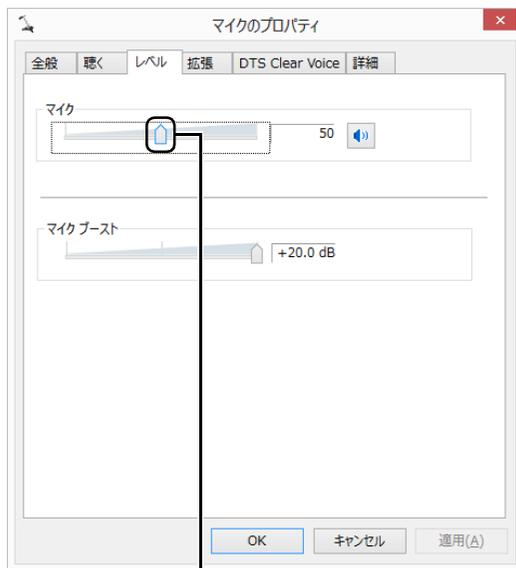


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「マイクのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをタップします。

- 5 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

- ・  : スピーカーから音が聞こえます。
- ・  : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。

- 6 「OK」をタップします。
「マイクのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 7 「OK」をタップします。
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

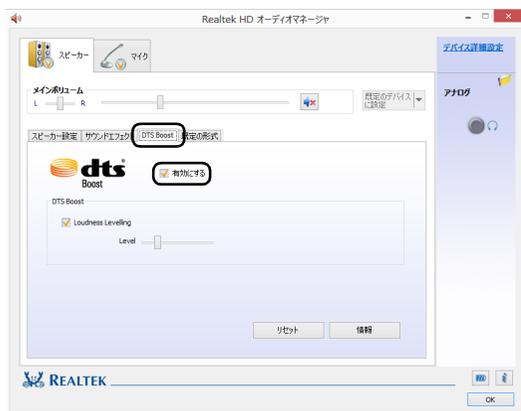
■スピーカーの音圧を調節する (DTS Boost™ 搭載機種)

ARROWS Tab QH77/M、WQ2/MIはDTS Boost™を搭載しており、パソコンに内蔵されているスピーカーの音圧を、より詳細に調節することで迫力のある豊かな音を実現します。

重要

- ▶ DTS Boost™の音圧レベルの調節は、内蔵スピーカーのみ対象となります。
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子(防水)およびHDMI出力端子、別売のHDMI変換ケーブルに接続した機器の音圧レベルの調節はできません。

- 1 デスクトップ画面左下隅のを右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にタップします。「Realtek HD オーディオマネージャ」が見つからない場合は画面右のスクロールバーの▼をタップして、隠れている画面を表示してください。
- 3 「DTS Boost」タブをタップし、「有効にする」をにします。



(画面は機種や状況により異なります)

- 4 「Loudness Levelling」をにして、つまみを左右にドラッグすると、適切なレベルに調整できます。

通信

有線 LAN

- ・ ARROWS Tab WQ2/M で、キーボード・ドッキングステーション、ターボモード用拡張クレードルを選択した場合
- ・ ARROWS Tab WQ1/M で、拡張クレードルを選択した場合
- ・ 別売の LAN 変換ケーブルをお使いになる場合

ここでは、LAN (有線 LAN) を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」(→ P.141) をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワーク設定時のご注意
TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。
- ▶ セキュリティ対策をしてください
初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。
このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現していたりする可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

■必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

●ネットワーク機器

ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。

- ・ ダイアルアップルーター
- ・ ブロードバンドルーター
- ・ ブロードバンドモデム
- ・ ハブ

●LAN ケーブル

ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。必要なものをご用意ください。

●ネットワーク機器のマニュアル

お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

■LAN ケーブルを接続する

⚠ 警告



- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

⚠ 注意



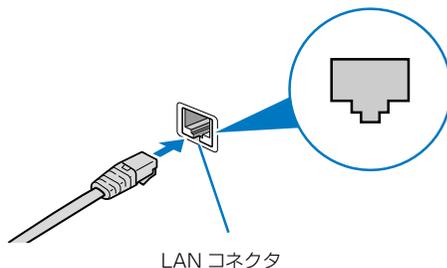
- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 AC アダプタを取り外します。
- 3 パソコン本体に、キーボード・ドッキングステーション、クレードル、または LAN 変換ケーブルを接続します。

- 4 キーボード・ドッキングステーション、クレードル、または LAN 変換ケーブルの LAN コネクタに LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方をお使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



コネクタは  または  の向きです。形を互いに合わせてしっかり差し込みます。

- 5 ネットワーク機器の電源を入れます。

- 6 パソコン本体の電源を入れます。

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。

Point

- ▶ スリープ／休止状態の解除をお勧めします
LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.152）をご覧ください。自動的にスリープにしない設定に変更してください。
（休止状態にできるのは ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみです。）
- ▶ LAN ケーブルを取り外すときは
LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

■ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピュータ名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

■TCP/IP の設定

Point

▶ TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に管理者アカウントでサインインしてください。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
- 2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をタップします。
- 3 「ネットワークと共有センター」ウィンドウ左の「アダプターの設定の変更」をタップします。



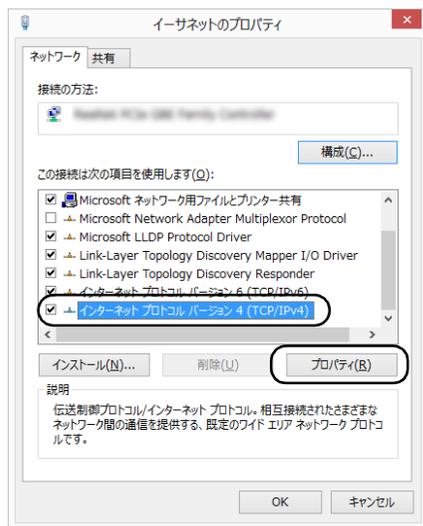
(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

ネットワーク接続の一覧が表示されます。

- 4 一覧から「イーサネット」を右タップし、表示されるメニューから「プロパティ」をタップします。



- 5 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」をタップし、「プロパティ」をタップします。



他のプロトコルのネットワークに接続する場合は、お使いのネットワークにあわせて設定してください。

- 6 IP アドレスの設定をします。



■ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

1. 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が になっていることを確認します。
 になっている場合は、 をタップして にします。

■ ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1. 「次の IP アドレスを使う」の○をタップして●にします。
2. 「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.1
3. 「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。
例：255.255.255.0

Point

- ▶ IP アドレスの重複にご注意ください
パソコン本体の IP アドレスをブロードバンドモデムやルーター、お使いのネットワークにある他のパソコンと重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

7 「OK」をタップします。

8 「OK」をタップします。

9 画面右上の  をタップし、表示されているすべてのウィンドウを閉じます。

続いて、フルコンピュータ名、ワークグループを確認します。

□ フルコンピュータ名とワークグループの確認

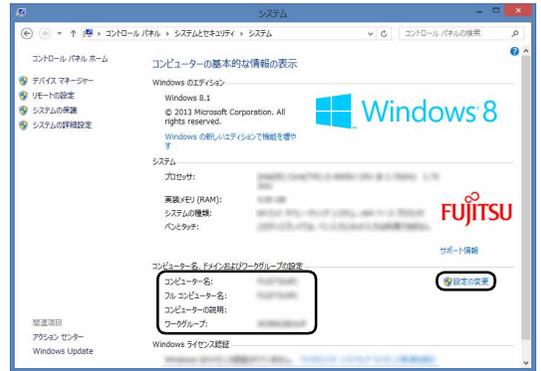
Point

- ▶ フルコンピュータ名、ワークグループを変更する場合は、管理者アカウントでサインインしてください。

1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。

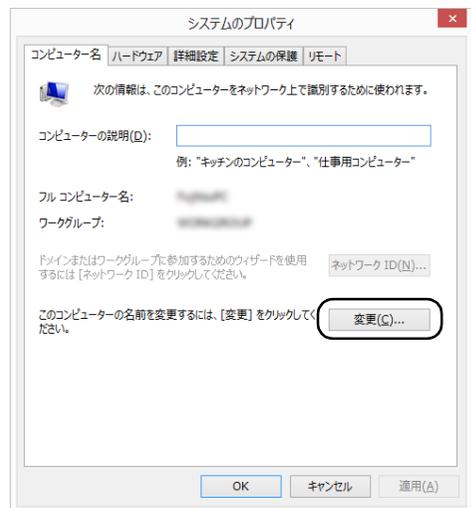
2 「システムとセキュリティ」▶「システム」の「コンピューターの名前の参照」の順にタップします。「システム」ウィンドウが表示されます。

3 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピュータ名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をタップします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

4 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をタップして、「フルコンピュータ名」または「ワークグループ」を変更します。



■ フルコンピュータ名

ネットワーク上で、パソコンを識別するための名前です。設定するときは、他のパソコンと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンの使用者名などをフルコンピュータ名に設定すると、識別しやすくなります。

■ワークグループ

ネットワークにつながったパソコンの集まりを表します。複数のパソコンに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンに同じワークグループを設定してください。

5 「OK」をタップします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

無線 LAN

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、「インターネットに接続する」(→ P.42) をご覧ください。

また、無線 LAN の電波を発信/停止する方法については、「無線通信機能の電波を発信する/停止する」(→ P.149) をご覧ください。

■無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
 - ・ メールの内容
- などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

IEEE802.11b/g

IEEE802.11a

W52 W53 W56



- ▶ IEEE 802.11n では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

□電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.45）をご覧ください。

□無線 LAN による通信を行うための注意

- 電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご利用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になれません。
- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご利用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
- IEEE 802.11g と IEEE 802.11b が混在する環境では、IEEE 802.11g は IEEE 802.11b との互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g と IEEE 802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.45）をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入/切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ/テレビ技術者に相談する

- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から 3m 以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

□良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し半径 15m 以内
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠	見通し半径 25m 以内
IEEE 802.11n 準拠	見通し半径 50m 以内

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯 (2.4GHz 帯) を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切ったり電波を停止する。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。電源を切ったり電波を停止してください (単独で電源を切れないものを除く)。
 - ・ 無線 LAN の 5GHz 帯を利用する (ただし利用できるのは屋内のみ)。
- 5GHz 帯チャンネルの W53 (52 ~ 64ch)、W56 (100 ~ 140ch) では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

■無線 LAN の仕様

項目	仕様 ^[注1]
ネットワーク種類	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠 (5GHz 帯のチャンネルは W52/W53/W56 です) (Wi-Fi [®] 準拠) ^[注2]
転送レート	DS-SS : 11 ~ 1Mbps (自動切り替え) OFDM : 300 ~ 6Mbps (自動切り替え、40MHz 帯域幅システム / HT40 時)、 130 ~ 6Mbps (自動切り替え、20MHz 帯域幅システム / HT20 時)、 54 ~ 6Mbps (自動切り替え、レガシーモード時)
使用周波数	2,400MHz ~ 2,483.5MHz 5,150MHz ~ 5,340MHz 5,460MHz ~ 5,740MHz
チャンネル数 ^[注8]	IEEE 802.11b 準拠 : 1 ~ 13ch (DS-SS) (そのうち 1ch を使用) IEEE 802.11g 準拠 : 1 ~ 13ch (OFDM) (そのうち 1ch を使用) IEEE 802.11a (W52/W53/W56) 準拠 : 36/40/44/48/52/56/60/64/100/104/108/ 112/116/120/124/128/132/136/140ch (OFDM) (そのうち 1ch を使用) ^[注3] IEEE 802.11n 準拠 : 20MHz 帯域幅システム (HT20) (OFDM) (下記のうち 1ch を使用) 5GHz モード W52 (36/40/44/48) /W53 (52/56/60/64) /W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/ 132/136/140) ch ^[注3] 2.4GHz モード 1 ~ 13ch 40MHz 帯域幅システム (HT40) (OFDM) (下記のうち 1ch を使用) ^[注4] ^[注5] 5GHz モード W52 ([36, 40] / [44, 48]) /W53 ([52, 56] / [60, 64]) /W56 ([100, 104] / [108, 112] / [116, 120] / [124, 128] / [132, 136]) ch ^[注3] ^[注6] 2.4GHz モード [1, 5] / [2, 6] / [3, 7] / [4, 8] / [5, 9] / [6, 10] / [7, 11] ch ^[注6]
セキュリティ ^[注9]	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEP キー) : 64/128 ビット) ^[注7] WPA- パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2- パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA- エンタープライズ (WPA) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) WPA2- エンタープライズ (WPA2) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (TLS/PEAP)

- 注 1 アドホック通信には対応していません。
- 注 2 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注 3 次のチャンネルが使用可能です。
- ・ W52 : 36 (5,180MHz) /40 (5,200MHz) /44 (5,220MHz) /48 (5,240MHz)
 - ・ W53 : 52 (5,260MHz) /56 (5,280MHz) /60 (5,300MHz) /64 (5,320MHz)
 - ・ W56 : 100 (5,500MHz) /104 (5,520MHz) /108 (5,540MHz) /112 (5,560MHz) /116 (5,580MHz) /120 (5,600MHz) /124 (5,620MHz) /128 (5,640MHz) /132 (5,660MHz) /136 (5,680MHz) /140 (5,700MHz)
- 注 4 IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム (HT40) に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。
- 注 5 IEEE 802.11n を使用する際の無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。
- 注 6 [m、n] は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。
- 注 7 WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。
- 注 8 このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ~ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ~ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- 注 9 IEEE 802.11n で接続するためには、パズフレーズ (PSK) を AES に設定する必要があります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

重要

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合は、セキュリティの設定をすることをお勧めします。
セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器を接続するためには、「Bluetooth デバイスの管理」を使用します。

- 1 画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。
 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
- 2 「設定チャーム」から「PC 設定の変更」▶「PC とデバイス」▶「Bluetooth」の順にタップします。「Bluetooth デバイスの管理」の画面が表示されます。

Point

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。それらのマニュアルに設定方法が記載されている場合は、そちらの手順に従って設定してください。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は、次のとおりです。

なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

□ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M の場合

- 出力 Class2、Bluetooth v4.0 + HS に準拠しています。Bluetooth v4.0 + HS およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 24Mbps (Bluetooth v4.0 + HS の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

□ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M の場合

- 出力 Class2、Bluetooth v4.0 に準拠しています。Bluetooth v4.0 およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 2.1Mbps (Bluetooth v4.0 の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■必要なものを用意する

●Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものをご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご確認ください。

- ・キーボード
- ・マウス
- ・プリンター
- ・ヘッドセット
- ・携帯電話

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

- ▶ ペ어링コード（PIN またはパスコード）について

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペアリング）設定をするときには、機器によっては「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」については、後述の「Windows ヘルプとサポート」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。

- ▶ プロファイルについて

Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。

このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。

- ・ ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M の場合
HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HSP、HFP、FTP、BIP、HOGP
- ・ ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M の場合
HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HFP、HOGP

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

●不正に使用される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をさせてしまうおそれがあります。

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで
使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご
自身の判断と責任においてセキュリティに関する設
定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワ
イヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情に
よりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、こ
れによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を 行うための注意

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大
通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2
の最大値）です。

ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性
上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプ
リ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信
距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不
能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- このパソコンのBluetoothワイヤレステクノロジー
用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。
このパソコンの使用時、特に Bluetooth ワイヤレス
テクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れな
いください。通信性能が低下する場合があります。
また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金
属などの導体（電気を通しやすいもの）でできてい
る場所を避けてください。通信性能が低下し、設置
環境によっては通信できなくなることがあります。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの
場所については、「各部の名称と働き」（→ P.45）
をご覧ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置して
ください。パソコン本体と電源が入った電気機器を
近づけていると、正常に通信できなかったり、電気
機器の障害になったりすることがあります。正常に
通信できない場合は、使用場所を変更してくださ
い。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギー
を出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に
通信できないことがあります。

- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないと
きは、パソコン本体の設置場所を変えてみてくだ
さい。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できな
いことがあります。

- Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE
802.11b、IEEE 802.11g や IEEE 802.11n の
2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波
を使用します。そのため、ご使用の状態によっては
無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの
電波が干渉し、他のパソコンなどとの通信速度が低
下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接
続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪く
なったりする場合があります。

- 無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策
を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があ
ります。

- ・無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以
上離して使用する。
- ・無線 LAN 機器の電源を切る。
- ・無線 LAN 機器の電波を停止する。
- ・無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用で
きるのは屋内のみ）。

- このパソコンに USB アダプタ型などの他の
Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付
けて、同時に使用しないでください。

□電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周
波エネルギーを放出していますが、このパソコンが
放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話の
ような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよ
りはるかに低く抑えられています。

- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイ
ドライン内で動作するため、このパソコンの使用者
に対し、安全性を確信しています。本基準および勧
告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の
審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈
する科学者たちの委員会を根本としています。

- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、
建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限
されることがあります。例えば、下記にあげる場合
です。

- ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある
環境での使用

- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの
使用に適用される方針が明確にわからない場合は、
機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可
について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

無線通信機能の電波を発信する／停止する

パソコンに搭載されている無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を発信／停止する方法について説明します。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

無線通信機能の電波の発信／停止には、次の 2 つの方法があります。

Point

- ▶ 省電力モードやワイヤレスオフモードで無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーを無効にする設定にしている場合は、省電力モードやワイヤレスオフモードを OFF にしてください（「ステータスパネルスイッチ」搭載機種のみ）。

- すべての無線通信機能の電波を発信／停止する
パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。
- 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する
すべての無線通信機能の電波が発信されている状態で、特定の無線通信機能の電波の発信／停止だけを切り替えます。
例えば、無線 LAN の電波は発信したまま、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止したいときなどに便利です。

- すべての無線通信機能の電波を発信／停止する
パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

機内モードに切り替えて電波の発信を止めてください。

手順については、サポートページから Q&A ナンバー「5909-9593」を検索してご覧ください。

サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます（→ P.107）

- 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する

- 1 画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、（設定）をタップします。

『Windows 8.1 基本操作クイックシート』

- 2 「設定チャーム」で「ネットワーク」アイコンをタップします。



3 設定を切り替えます。

- ・電波を発信する場合は、発信する機能の  (オフ) をタップして  (オン) にします。
- ・電波を停止する場合は、停止する機能の  (オン) をタップして  (オフ) にします。

Bluetooth だけを発信/停止する

1 画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』

2 「設定チャーム」から「PC 設定の変更」▶「PC とデバイス」▶「Bluetooth」の順にタップします。「Bluetooth デバイスの管理」の画面が表示されます。

3 設定を切り替えます。

- ・電波を発信する場合は、発信する機能の  (オフ) をタップして  (オン) にします。
- ・電波を停止する場合は、停止する機能の  (オン) をタップして  (オフ) にします。

スリープ/休止状態

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」^注について説明しています。

注：「休止状態」にできるのは ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみです。

スリープ/休止状態とは

■スリープ

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。

ご購入時の設定では、一定時間パソコンを操作しないと、自動的にスリープになるように設定されています。手動でスリープにする操作については、「スリープにする/復帰させる」(→ P.52) をご覧ください。

■休止状態

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

作業中のデータなどを SSD に保存して、パソコン本体の電源を切ることです。

スリープに比べると、待機状態にしたり復帰(レジューム)したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリーの残量が少なくなると、自動的に休止状態になるように設定されています。

休止状態にする

1 画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。

 『Windows 8.1 基本操作クイックシート』

2 「電源」▶「休止状態」の順にタップします。

ディスプレイの表示が消え休止状態になります。

Point

- ▶ 「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順で設定を変更してください。
 1. デスクトップ画面左下隅のを右タップし、表示されたメニューから「電源オプション」をタップします。「電源オプション」ウィンドウが表示されません。
 2. ウィンドウの左側にある「スリープ解除時のパスワード保護」をタップします。
 3. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をタップします。
 4. ウィンドウの下部にある「休止状態」のをタップしてにします。
 5. 「変更の保存」をタップします。
 6. 「電源オプション」ウィンドウを閉じます。
- ▶ 電源ボタンを押したり液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態に切り替わるように設定を変更することができます(→ P.152)。
- ▶ 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰(レジューム)しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰(レジューム)に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰(レジューム)しないでください。必ず、10秒以上たってから復帰(レジューム)するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰(レジューム)させた後、必ず10秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- スリープに移行するまでの間、USBマウスやUSBキーボードなどの周辺機器を操作しないでください。復帰(レジューム)した後、周辺機器を正しく認識しなくなることがあります。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。

- スリープや休止状態、復帰(レジューム)のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- 周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、復帰(レジューム)するときに周辺機器の情報が初期化されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中にDHCPサーバーから割り当てられたIPアドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。
- この場合は、IPアドレスの有効期間を延長するか、DHCPの使用を中止して固定IPをお使いください。
- 次の場合は、自動的にスリープや休止状態になりません。
 - ・ DVD-VIDEOなどの動画再生時
 - ・ テレビ機能をお使いの場合(テレビチューナー搭載機種のみ)
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
 - ・ Windowsの起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中(プリンター出力中など)、および処理完了直後
 - ・ SSDにアクセス中
 - ・ オートランCD-ROM/DVD-ROM(セットすると自動で始まるCD-ROM/DVD-ROM)を使用中
 - ・ ビデオCD、DVD-VIDEOなどを再生中
 - ・ 音楽CDやゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
 - ・ マルチモニター機能を使用中
 - ・ ネットワークに接続して通信中
 - ・ デジタルテレビに表示しているとき
 - ・ マウスの操作中
 - ・ LAN機能を使ってネットワーク(インターネットなど)に接続中

スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

□ご購入時の設定

●電源ボタンを押す

スリープ状態に切り替わる

□設定を変更する

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「電源オプション」をタップします。
- 2 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側の「電源ボタンの動作の選択」をタップします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

・電源ボタンの動作の選択

電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する場合、タップします。

- 3 必要に応じて電源ボタンの設定の項目を変更します。



Point

- ▶ パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめWindows に設定してあるパスワードの入力を必要とすることで、このパソコンのセキュリティを高めることができます。

1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をタップします。
2. 「パスワードを必要とする（推奨）」の左の をタップして にします。

指紋認証で指紋情報を登録しておくと、パスワード入力を省略することができます（指紋センサー搭載機種のみ）。

- 4 「変更の保存」をタップします。

■スリープになるまでの時間を変更する

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「電源オプション」をタップします。
- 2 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をタップします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「コンピューターをスリープ状態にする」の設定を変更します。



4 「変更の保存」をタップします。

Point

▶ 設定を元に戻す

変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。

1. 「電源オプション」ウィンドウ左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をタップします。
2. 「このプランの既定の設定を復元」をタップします。
3. 「はい」をタップします。
4.  をタップします。

電源プラン

パソコンの利用状況に応じた設定に変更することで、消費電力を抑えることができます。

ご購入時は次の 3 つの電源プランが用意されています。

● バランス

ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと消費電力のバランスをとります。

● 省電力

可能な限りコンピューターのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。

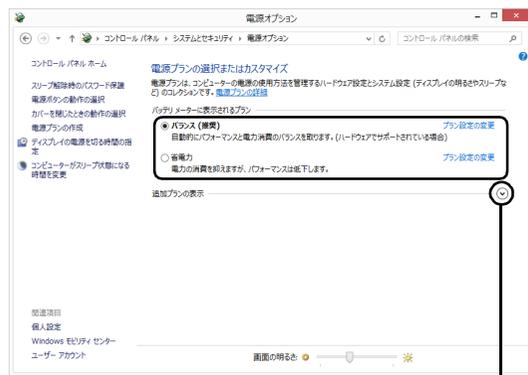
● 高パフォーマンス (ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

パフォーマンスを優先しますが、消費電力が増える可能性があります。

Point

▶ ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M で電源プランを「高パフォーマンス」に設定すると、バッテリー駆動時間が短くなります。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「電源オプション」をタップします。「電源オプション」ウィンドウが表示されます。
- 2 お使いになる状況に適した電源プランの  をタップして  にします。



「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加プランの表示」の  をタップして「高パフォーマンス」を表示させます。

(画面は機種や状況により異なります)

3 をタップします。

なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をタップすると、各電源プランの設定を変更することができます。

パソコンの節電

省電力モード

一部の機能の使用を制限することで、パソコン本体の動作を中断させずに、消費電力を抑えることができます。詳しくは、「ステータスパネルスイッチ」(→ P.80)をご覧ください。

アプリ

このパソコンには、あらかじめたくさんのアプリがインストールされています。

一度削除したアプリをもう一度使いたいときや、アプリの動作がおかしくなったとき、アプリをインストールし直すことができます。

Windows 8.1 には、Windows 8.1 のスタート画面で動作する Windows ストア アプリと、デスクトップ画面で動作するデスクトップアプリの2種類があります。

Windows ストア アプリ

Windows 8.1 専用のアプリです。

■インストール

ストアからインストールします。ストアの利用には Microsoft アカウントでサインインする必要があります。

1 スタート画面で「ストア」をタップします。

ジャンルごとにアプリが表示されます。

2 インストールしたいアプリをタップします。

インストールしたいアプリがスタート画面に見つからない場合は、左右にスライドし、隠れている画面を表示してください。

また検索チャームで検索することもできます。画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (検索) をタップします。

この後は画面の指示に従って操作してください。

■更新プログラム

インターネットに接続していると、インストール済のストアアプリが最新のバージョンでなかった場合、自動的に更新されます。

自動更新を無効にする

1 「ストア」画面で、画面右端の外から中へスワイプして「チャーム」を表示し、 (設定) をタップします。

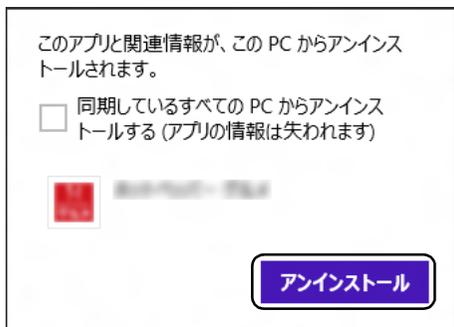
2 「アプリの更新」をタップします。

3 「アプリの更新プログラム」の「アプリを自動的に更新する」の  (はい) をタップして  (いいえ) にします。

■アンインストール

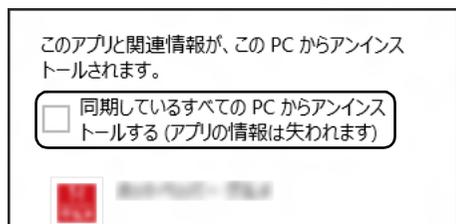
スタート画面の操作でアンインストールできます。アンインストールしたWindowsストア アプリはストアから再インストールすることができます。

- 1 スタート画面でアンインストールしたいアプリのタイルを右タップします。
- 2 「アンインストール」をタップします。
- 3 次の画面が表示されたら「アンインストール」をタップします。



Point

- ▶ 「同期しているすべてのPCからアンインストールする (アプリの情報は失われます。)」をタップして☑にすると、お使いのMicrosoft アカウントで他のパソコンにサインインしたときもアンインストールされた状態になります。



デスクトップアプリ

Windows 7 で使用していたものがほとんどそのまま使用できます。

■デスクトップアプリをインストール／アンインストールするうえでの注意

- デスクトップアプリをインストールする前には、必ずアプリのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のアプリを削除する
- 管理者アカウントでサインインする
ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はアプリの削除ができません。管理者アカウントでサインインしてください。ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。
 1. デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をタップします。
 2. 「ユーザーアカウントとファミリーセキュリティ」をタップします。
 3. 「ユーザーアカウント」をタップします。「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
 4. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。
- 起動しているデスクトップアプリをすべて終了する
他のアプリが起動していると、エラーが発生する場合があります。アプリの削除をする前に、次の作業を行ってください。
 - ・起動しているアプリをすべて終了する
 - ・タスクバーに常駐するタイプのアプリをすべて終了する
 - ・スクリーンセーバーを「なし」に設定する
 1. デスクトップ画面のなにもないところを右タップし、表示されたメニューから「個人設定」をタップします。
 2. 画面右下の「スクリーンセーバー」をタップします。
 3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をタップします。

●共有ファイルは削除しない

アプリの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のデスクトップアプリが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

■インストール

□搭載デスクトップアプリをインストールする

次の手順で、SSD のリカバリ領域からアプリをインストールすることができます。

1 スタート画面でまっすぐ上にスライドします。

📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』

2 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」をタップします。

「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」が見つからない場合は、左右にスライドし、隠れている画面を表示してください。

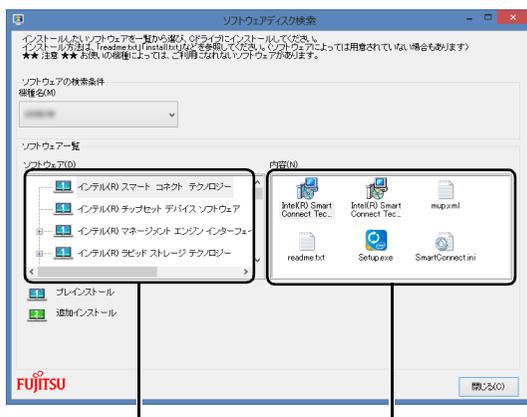
3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。

4 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」ウィンドウが表示されたら、「OK」をタップします。

5 「機種名」欄の右側の ▾ をタップし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をタップして選択します。

パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。

6 「ソフトウェア一覧」からインストールするアプリの名称をタップしてインストールします。デスクトップアプリの名称をタップすると、アプリに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



デスクトップアプリの名称 含まれるファイル

（画面は機種や状況により異なります）

7 デスクトップアプリのインストール方法は、各デスクトップアプリによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

Point

- ▶ リカバリ領域を削除している場合は、添付またはご自身で作成した ©「ソフトウェアディスク」から、デスクトップアプリをインストールしてください。

□「Office」をインストールし直す

「Office」搭載機種のみ

「Office」搭載機種をお使いの方で、「Office」のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

□ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないうち、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

□お使いのパソコンに搭載されているドライバーについて

●各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーが、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されている場合があります。

サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。

●ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。

●ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。

1. スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
📄『Windows 8.1 基本操作クイックシート』
2. 「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」をタップします。
「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」が見つからない場合は、画面下のスクロールバーの ▶ を数回タップし、隠れている画面を表示してください。
3. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。
4. 「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」ウィンドウが表示されたら、「OK」をタップします。
「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
5. 「機種名」欄の右側の ▼ をタップし、表示されたリストからお使いの機種名(品名)をタップして選択します。
パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。
6. 「ソフトウェア一覧」から更新したいドライバーをタップして選択します。
選択したドライバーが格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■アンインストール

□デスクトップアプリのアンインストール機能を使う
Windows に対応したデスクトップアプリには、アンインストール機能(デスクトップアプリを削除する機能)が用意されているものがあります。

デスクトップアプリによって操作方法が異なります。詳しくは、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

□「プログラムのアンインストール」機能を使う

- 1 起動しているデスクトップアプリをすべて終了します。
- 2 デスクトップ画面左下隅の  を右タップし、表示されたメニューから「プログラムと機能」をタップします。
- 3 一覧から削除したい項目をタップします。
- 4 「アンインストールと変更」(または「アンインストール」)をタップし、画面の指示に従ってアプリを削除します。
- 5 デスクトップアプリの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、 をタップします。

Point

- ▶ 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないデスクトップアプリについては、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

SSDの領域について

CドライブとDドライブの割合を変更する

ARROWS Tab WQ2/Mで256GB SSDを選択した場合

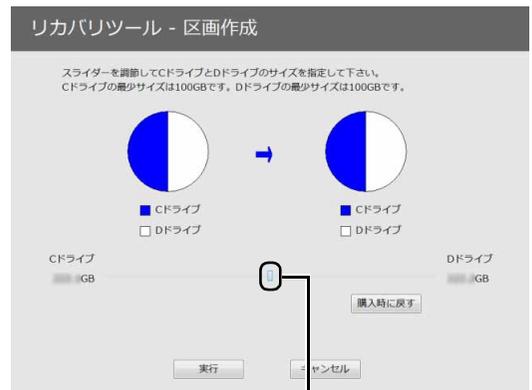
CドライブとDドライブの割合を変更すると、すべてのデータが削除されます。本当に変更が必要か検討してから操作してください。

■注意事項

- データはすべて削除されます
この操作をすると、SSD内のデータ（Cドライブ、Dドライブ共に）がすべて削除されます。
あらかじめ必要なデータをDVDや外付けのハードディスクなどにバックアップしておいてください。
- 外付けハードディスクやUSBメモリは必ず取り外してください
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- ドライブの容量制限
Cドライブ、Dドライブ共に100GBより小さい容量には変更できません。
- 領域設定を変更するときは、必ず「トラブル解決ナビ」をお使いください
市販のアプリなどで領域設定を変更してしまうと、「バックアップナビ」の「パソコンの状態」のバックアップや復元、およびCドライブをご購入時の状態に戻すリカバリなどができなくなります。
この場合は、「リカバリ領域を復元する」(→ P.159)をご覧ください。「ハードディスク全体をリカバリ」を実行してください。
- Dドライブを少なくしすぎないようにしてください
「バックアップナビ」を使ったバックアップができなくなってしまう場合があります。
- パソコン本体のみでも専用キーボードを接続してもバックアップ/復元を行うことができます。どちらの場合も必ずACアダプタをパソコン本体に接続してください。

■領域設定の変更手順

- 1 「トラブル解決ナビ」を起動します。
「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.108)をご覧ください。
- 2 「ユーティリティ」をタップします。
- 3 「領域設定」をタップします。
- 4 「同意する」をタップして●にし、「次へ」をタップします。
SSDの領域を設定する画面が表示されます。
- 5 スライダーを左右にドラッグして、CドライブとDドライブの容量を指定します。



左右にドラッグ

(画面は機種や状況により異なります)

- 6 容量を決めたら、「実行」をタップします。
- 7 「「領域設定」を作成します。」というウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。
SSDの領域が設定されます。
- 8 「完了」をタップします。
トラブル解決ナビの最初の画面が表示されます。
- 9 Cドライブをご購入時の状態に戻します。
「ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する」(→ P.119)をご覧ください。
ご購入時に戻すリカバリを実行すると、領域の変更が完了します。

リカバリ領域を削除する

リカバリ領域を削除して、その分 D ドライブで使用できる容量を増やすことができます。

■注意事項

- リカバリ領域の削除後に、ご購入時の状態に戻すリカバリを行う場合は、「リカバリディスクセット」が必要です
リカバリ領域の削除前に「リカバリディスクセット」を必ず作成してください。リカバリディスクセットの作成方法は、「リカバリディスクセットを作っておく」(→ P.172)をご覧ください。
購入することもできます。購入方法は「ディスクが必要な場合」(→ P.118)をご覧ください。
- 外付けハードディスクや USB メモリは必ず取り外してください
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
・操作を開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。
- ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M ではパソコン本体のみでも専用キーボードを接続してもバックアップ/復元を行うことができます。どちらの場合も必ず AC アダプタをパソコン本体に接続してください。
- ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では必ずパソコン本体に AC アダプタを接続して本体のみでバックアップ/復元を行ってください。

■リカバリ領域の削除手順

- 1 ④「トラブル解決ナビディスク (リカバリ起動ディスク)」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。
「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.108)をご覧ください。
- 2 「ユーティリティ」をタップします。
- 3 「リカバリ領域の削除」をタップします。
- 4 「リカバリ領域の削除」の説明が表示されたら、「次へ」をタップします。
「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5 内容をよくお読みになり、同意する場合は「同意する」をタップして⑤にし、「次へ」をタップします。

「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

- 6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. リカバリディスクセットの確認

2. リカバリ領域の削除

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。

「リカバリ領域の削除が完了しました。」と表示されたら手順 7 に進んでください。

- 7 「完了」をタップします。

- 8 トラブル解決ナビの最初の画面が表示されたら、ディスクを取り出します。

ポータブル CD/DVD ドライブを取り外します。

- 9 「終了」をタップします。

- 10 「再起動」をタップします。

Windows が起動します。

- 11 デスクトップ画面で  (PC) をダブルタップします。

SSD の容量が増えていることを確認します。

以上でリカバリ領域の削除は完了です。

リカバリ領域を復元する

削除したリカバリ領域を復元するためには「ハードディスク全体をリカバリ」を行います。リカバリ領域のみ復元することはできません。

「リカバリディスクセット」を用意してください。

■注意事項

- SSD の内容はすべて削除されます
リカバリ領域を復元するときに、SSD の領域が設定し直されます。このため SSD の内容はすべて削除されます。あらかじめ必要なデータを DVD や外付けの SSD などにバックアップしておいてください。
- 「リカバリディスクセット」が必要です
リカバリ領域の復元には、「リカバリディスクセット」が必要です。「リカバリディスクセット」を作成していない場合や、紛失・破損された場合は購入できません。詳しくは「ディスクが必要な場合」(→ P.118)をご覧ください。

- 外付けハードディスクやUSBメモリは必ず取り外してください
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
 - ・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
 - ・操作を開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。
- ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M ではパソコン本体のみでも専用キーボードを接続してもバックアップ/復元を行うことができます。どちらの場合も必ず AC アダプタをパソコン本体に接続してください。
- ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M では必ずパソコン本体に AC アダプタを接続して本体のみでバックアップ/復元を行ってください。

■リカバリ領域の復元手順

- 1  「トラブル解決ナビディスク (リカバリ起動ディスク)」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。
「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.108) をご覧ください。
- 2 「リカバリ」をタップします。
- 3 「ハードディスク全体をリカバリ」をタップします。
「ハードディスク全体をリカバリ」の説明が表示されます。
- 4 「次へ」をタップします。
「ご使用上の注意」が表示されます。
- 5 「ご使用上の注意」をよく読み、同意する場合は「同意する」をタップして  にし、「次へ」をタップします。

6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. リカバリディスクセットの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリデータをコピーする
4. リカバリを実行する
5. リカバリ領域を復元する
6. 最終処理を実行する

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。

7 「ディスクの復元が完了しました。」と表示されたら、ディスクを取り出します。

8 「完了」をタップします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

ポータブル CD/DVD ドライブを取り外します。

以上で「リカバリ領域を復元する」は終了です。

続けて、「セットアップする」(→ P.23) をご覧になり、セットアップを行ってください。

Point

- ▶ ユーザー登録は再度行う必要はありません。
- ▶ すでに Microsoft アカウントを取得されているため、「セットアップする」(→ P.23) の手順 11 では、そのアカウントでサインインしてください。

BIOS の設定

BIOS セットアップの操作

■BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOS セットアップの操作は、キーボードで操作し（タッチ操作では操作できません）。

Point

- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップ画面の表示について
HDMI 出力端子、別売の HDMI 変換ケーブルに接続したテレビやディスプレイには BIOS セットアップ画面は、表示されません。
- ▶ 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST : Power On Self Test）といいます。
 - ・ 起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください。
 - ・ POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。また、HDMI 出力端子、別売の HDMI 変換ケーブルに接続したテレビやディスプレイには表示されません。
 - ・ パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

■BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

- 1 AC アダプタを接続し、音量調節ボタン（-）を押しながら、パソコンの電源ボタンを押します。

- 2 次のように操作します。

■ ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M の場合
FUJITSU のロゴ画面が表示され、短いピーブ音が鳴ったら、音量調節ボタン（-）から指を離します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

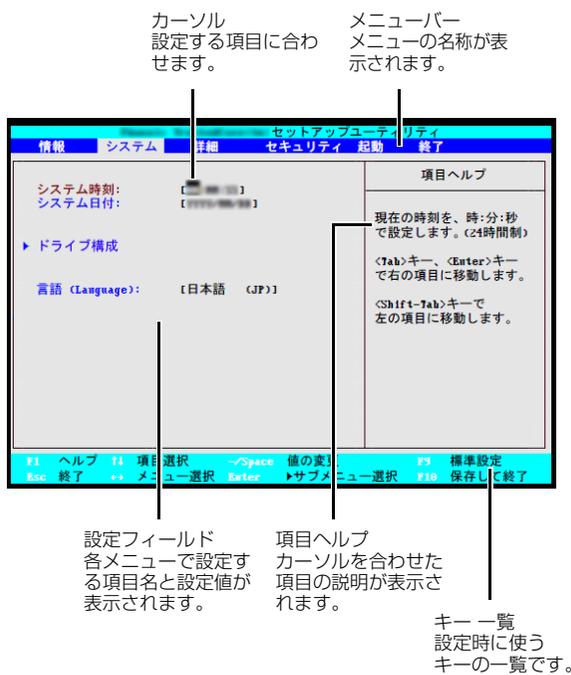
■ ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M の場合
BIOS セットアップ画面が表示されたら、音量調節ボタン（-）から指を離します。

Point

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待ってから、パソコンの電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。

■BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



(画面は機種や状況により異なります)

■設定を変更する

重要

- ▶ BIOSセットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

- 1 メニューバーの設定したいメニューをタップします。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 設定フィールドで、設定したい項目または設定値をタップで選択します。
項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。もう一度タップするとサブメニューが表示されます。
サブメニューから元の画面に戻るには、画面下のキー一覧の「Esc」をタップします。
- 3 選択したメニューの設定値をタップして変更します。
設定値はもう一度タップすると確定します。文字を入力する項目では、入力エリアをタップしてソフトウェアキーボードが表示されたら、入力したい文字をタップしてください。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1～3 を繰り返してください。
- 4 設定を保存して終了します。

■変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

- 1 画面下のキー一覧の「Esc」をタップします。
「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」(「Exit」)メニューが表示されるまで、画面下のキー一覧の「Esc」を 2～3 回押してください。
- 2 「変更前の値を読み込む」(「Discard Changes」)をタップして選択し、もう一度タップします。
「変更前の値を読み込みますか？」(「Load previous configuration now?」)というメッセージが表示されます。

- 3 「はい」(「Yes」)をタップします。

BIOSセットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

- ▶ 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する
 1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存せずに終了する」(「Exit Discarding Changes」)をタップします。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」(「Setup Warning」)というメッセージが表示されます。
 2. 「いいえ」(「No」)をタップします。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

■BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。

次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

- 1 画面下のキー一覧の「Esc」をタップします。
「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、画面下のキー一覧の「Esc」を 2～3 回押してください。
- 2 「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)をタップして選択し、もう一度タップします。
次のいずれかの確認メッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
<input type="button" value="はい"/> <input type="button" value="いいえ"/>

または

Setup Confirmation
Save configuration changes and exit now?
<input type="button" value="Yes"/> <input type="button" value="No"/>

(画面は機種や状況により異なります)

3 「はい」(「Yes」) をタップします。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

Point

- ▶ BIOS セットアップを終了せずに設定内容を保存する
次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。
 1. 「終了」(「Exit」) メニューの「変更を保存する」(「Save Changes」) をタップして選択し、もう一度タップします。
「変更した内容を保存しますか?」(「Save configuration changes now?」) というメッセージが表示されます。
 2. 「はい」(「Yes」) をタップします。

■BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 画面下のキー一覧の「Esc」をタップします。
「終了」(「Exit」) メニューが表示されます。
- 3 「標準設定値を読み込む」(「Load Setup Defaults」) をタップして選択し、もう一度タップします。
確認のメッセージが表示されます。
- 4 「はい」(「Yes」) をタップします。
BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
- 5 「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」) をタップして選択し、もう一度タップします。
確認のメッセージが表示されます。
- 6 「はい」(「Yes」) をタップします。
読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

■BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき (ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

また、ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M ではハードディスク用のパスワードを設定することができます。パソコンの SSD を他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

■BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時に必ず行うこと
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・「パスワードを変更する」(→ P.166) および「パスワードを削除する」(→ P.167) を印刷しておく
 - ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や SSD 内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
パスワードの管理には充分注意してください。

■パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

- 管理者用パスワード (Supervisor Password)
このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード (User Password)
「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード (HDD Password) (ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)
このパソコンの SSD を、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。SSD を他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、SSD が盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

■パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

□管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「管理者用パスワード設定」(「Set Supervisor Password」) または「ユーザー用パスワード設定」(「Set User Password」) をタップして選択し、もう一度タップします。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

- 3 入力エリアをタップし、ソフトウェアキーボードでパスワードを入力します。
入力エリアをタップするとソフトウェアキーボードが表示されます。
 - ・入力できる文字種はアルファベットと数字のみです。なお、アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
 - ・入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。
 - ・ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」で設定することができます。
- 4 パスワードを入力したらソフトウェアキーボードの **[Enter]** をタップします。
パスワードの再入力を求められます。
- 5 手順3で入力したパスワードをソフトウェアキーボードで再度入力して、**[Enter]** をタップします。「セットアップ通知」(「Setup Notice」) と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」) というメッセージが表示されます。
- 6 「継続」または「Continue」をタップして、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」) と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」) というメッセージが表示されます。「継続」または「Continue」をタップして、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、画面下のキー一覧の「Esc」をタップしてください。
- 7 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「起動時のパスワード」(「Password on Boot」) を「使用しない」(「Disabled」) 以外に設定します。
パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

□ハードディスク用パスワードを設定する
(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mのみ)

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「ハードディスクセキュリティ(Hard Disk Security)」
▶「ドライブ 0 用パスワード設定 (「Set Drive 0 HDD Password」)」の順にタップして選択し、もう一度タップします。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 入力エリアをタップし、ソフトウェアキーボードでパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの太文字と小文字は区別されません。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。
- 4 パスワードを入力したらソフトウェアキーボードの **Enter** をタップします。
パスワードの再入力を求められます。
- 5 手順3で入力したパスワードをソフトウェアキーボードで再度入力して、**Enter** をタップします。
「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。
- 6 「継続」または「Continue」をタップして、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。
「継続」または「Continue」をタップして、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、画面下のキー一覧の「Esc」をタップしてください。

■パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき (ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mのみ)

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、ソフトウェアキーボードでパスワードを入力し、**Enter** をタップしてください。

- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」(「Invalid Password」)というメッセージが表示されます。その場合は、ソフトウェアキーボードの **Enter** をタップし、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示されます。ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M では警告音も鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力
パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。ソフトウェアキーボードでパスワードを入力し、**Enter** をタップしてください。

- BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」で、パソコンを指定時刻に起動させたり LAN を使って起動させたりする場合に、BIOS のパスワード入力を要求するかどうかを設定することができます。

□ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにはパスワードの入力が必要になります。

設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

Point

- ▶ 管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります。

■パスワードを変更する／削除する

□パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」) メニューで変更したいパスワード設定をタップして選択し、もう一度タップします。
 - ・ 管理者用パスワード設定 (Set Supervisor Password)
 - ・ ユーザー用パスワード設定 (Set User Password)
 - ・ ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security) ▶ ドライブ0用パスワード設定 (Set Drive0 Password)パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 設定してあるパスワードをソフトウェアキーボードで入力し、**[Enter]** をタップします。
新しいパスワードの入力を求められます。
- 4 新しく設定したいパスワードをソフトウェアキーボードで入力し、**[Enter]** をタップします。
新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ パスワード設定時に必ず行うこと
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・ 解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
 - ・ 設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
 - ▶ パスワードを忘れるとすべてのデータが失われます
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、SSD 内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
パスワードの管理には充分注意してください。
- 5 手順4で入力したパスワードをソフトウェアキーボードで再度入力し、**[Enter]** をタップします。
「変更が保存されました。」(「Change has been saved」) というメッセージが表示されます。

6 「継続」または「Continue」をタップして、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」

(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。「継続」または「Continue」をタップして、手順 4 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、画面下のキー一覧の「Esc」をタップしてください。

Point

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを4秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順 4～5 で何も入力せずに、ソフトウェアキーボードの「Enter」をタップしてください。

Point

- ▶ 管理者以外の方がユーザー用パスワードを削除できるのは、「セキュリティ」メニューの「ユーザー用パスワード文字数」が0に設定されているときだけです。0以外に設定されている場合は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。ユーザー用パスワード文字数の設定については、「セキュリティ」メニューで「ユーザー用パスワード文字数」の項目ヘルプをご覧ください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

■メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。

また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器の拡張カードやメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらの周辺機器を取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1 つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。

このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、「サポート&サービス紹介」(→ P.111) をご覧ください。

■メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

□正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器が正常の場合は、BIOS のメッセージは自動では表示されません。

Point

- ▶ ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M では専用キーボードを接続している場合、正常時にBIOSメッセージを表示させることができます。パソコンを起動して FUJITSU のロゴ画面が表示されている間に【Space】キーを押します。
- ▶ ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M では、BIOS セットアップの「詳細」メニュー▶「起動設定」▶「起動時の自己診断画面」▶「使用する」に設定すると、正常時のメッセージを常に表示できます。

●Please Wait...

お待ちください... (Please Wait...)

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

□エラーメッセージ

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

このマニュアルに記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●< F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

(Press <F1> to Continue or <F2> to Enter Setup または Press <F1> to resume, <F2> to Enter Setup)

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。Windows ボタンを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、音量調節ボタン(ー)を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

●< F1/Windows button >キーを押すと継続、< F2/Volume-Down >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

Press <F1/Windows Button> to Continue or <F2/Volume-Down> to Enter Setup

(ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M のみ)

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。Windows ボタンを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、音量調節ボタン(ー)を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

●リアルタイムクロックのエラーです。日付と時刻の設定を確認してください。

(Real Time Clock Error - Check Date and Time settings)

日付と時刻の設定値が正しくありません。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

次のメッセージが表示された場合は、各項目ごとに記載されている対応を行い、再起動してください。なお、再起動しても同じメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●前回の起動中にファンエラーが発生しました。

(Fan Error occurred during previous boot.)

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。

●Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、Windows ボタンなどを押してください。

●Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/M のみ)

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、Windows ボタンなどを押してください。

●NTLDR is missing

Press any key to restart

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mのみ)
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、Windows ボタンなどを押してください。

●Remove disks or other media.

Press any key to restart

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mのみ)
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、Windows ボタンなどを押してください。

●Operating system not found

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mのみ)
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

●Failure Fixed Disk n

●System timer error

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

●Real time clock error

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

●Check date and time settings

日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

●System CMOS checksum bad - Default configuration used

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。
音量調節ボタン (-) を押して BIOS セットアップを起動し、設定を保存して再起動してください。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。

●NVRAM データが正しくありません。(Invalid NVRAM Data)

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。

次のメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●ファンエラー。システムの電源が切れます。(Fan Error has occurred)

(ARROWS Tab QH77/M、WQ2/Mのみ)
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。

●Extended Memory Failed at address line: nn

メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。

●Thermal Sensor Error has occurred

温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。

●起動可能なデバイスが見つかりませんでした。(Bootable Device was not found)

起動可能なデバイスが見つからなかった場合に表示されます。Windows ボタンを押すと起動メニュー (Boot Menu) が起動しますので、起動可能なデバイスが表示されているかどうかを確認してください。

インターネットを安心してお使いいただくために

青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやりとりをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなくなっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると考えられています。

- アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- 出会い系サイト・犯罪を助長するようなサイト
- 暴力残虐画像を集めたサイト
- 毒物や麻薬情報を載せたサイト

サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術です。100% 万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをお勧めします。

「フィルタリング」を利用するためには、一般に下記の2つの方法があります。

「フィルタリング」はお客様個人の責任でご利用ください。

- パソコンにフィルタリングの機能をもつアプリをインストールする
- インターネット事業者のフィルタリングサービスを利用する

これらのアプリのインストール方法やご利用方法については、それぞれのアプリの説明書またはヘルプをご確認ください。

なお、アプリやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルタ」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認のうえ、ご利用されることをお勧めします。

[参考情報]

- 社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料「パソコン・サポートとつきあう方法」
- デジタルアーツ株式会社（i-フィルター[®] 6.0 提供会社）
「フィルタリングとは - 家庭向けケーススタディー」

■「i - フィルター[®] 6.0」について

このパソコンには、フィルタリング機能をもつ「i - フィルター[®] 6.0」が用意されています。使い方については、「i - フィルター[®] 6.0」を使う」（→ P.170）をご覧ください。

■「i - フィルター[®] 6.0」を使う

このパソコンに用意されている「i-フィルター[®] 6.0」はご利用期間 90 日間のお試し版となっています。ぜひお試しください。初めてお使いになるときは、次の手順で初期設定を行ってください。

なお、お試し版を登録するにはメールアドレスが必要です。

- 1 インターネットに接続します。
- 2 スタート画面で「@メニュー」をタップします。

3 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

- ①「アプリをさがす」をタップします。
- ②「インターネット・メール」をタップします。
- ③「目的でさがす」をタップします。
- ④「有害サイトの閲覧を制限する」をタップします。
- ⑤「実行する」をタップします。

4 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をタップします。

「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をタップしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をタップします。「有害サイトフィルタリングソフト「i-フィルター 6.0」のご紹介」の画面が表示されます。

5 「「i-フィルター 6.0」をインストールする」をタップします。

「i-フィルター® 6.0」の使用許諾の画面が表示されます。この後は画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Point

- ▶ 次のような画面が表示された場合は、「i-フィルター® 6.0」はインストール済みです。「OK」▶「完了」の順にタップして、画面を閉じてください。

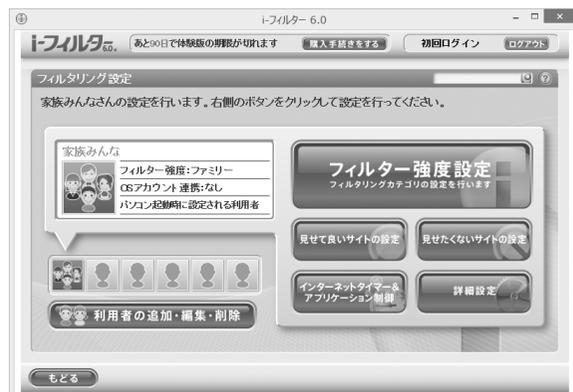


6 「i-フィルター 6.0」の画面が表示されたら、インターネットに接続していることを確認して、「90日の無料お試し付き「i-フィルター 6.0」【お申込み】」をタップします。

この後は画面の指示に従って登録を進めてください。

登録が完了すると「i-フィルター® 6.0」が利用できるようになります。

次回使うときは、デスクトップ画面右下の通知領域に表示された  アイコンから、設定を行うことができます。



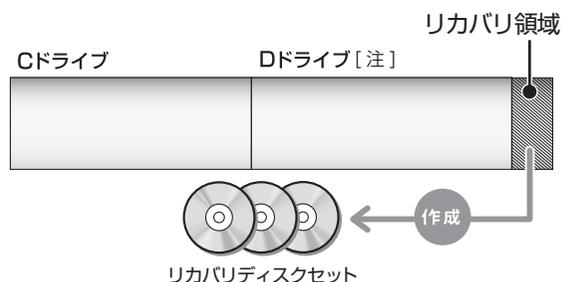
利用開始から 90 日間を超えてご利用になる場合は、継続利用の登録（有償）を行ってください。別のフィルタリングアプリをご利用になる場合は、市販のアプリをご購入のうえ、ご利用ください。

リカバリディスクセットを作っておく

このパソコンには、トラブルに備えて、SSD の「リカバリ領域」という場所に、ご購入時の C ドライブの中身が保存されています。パソコンにトラブルが起きたときは、このリカバリ領域から C ドライブをご購入時の状態に復元できます。

リカバリ領域のデータのバックアップディスク（リカバリディスクセット）を 1 回に限り作成することができます。

リカバリ領域のデータを利用できなくなる場合に備え、パソコンご購入後できるだけ早く作成してください。



注 :Arrows Tab QH55/M、WQ1/M には D ドライブはありません。

Point

- ▶ リカバリディスクセットの作成には長時間かかります。時間に余裕をもって作業をしてください。またリカバリディスクセットは購入できます。購入方法については「ディスクが必要な場合」(→ P.118) をご覧ください。
- ▶ 「リカバリディスクセット」は、次の場合に使用します。
 - ・リカバリ領域を削除しているときに C ドライブをリカバリする
 - ・リカバリ領域を破損してしまったときに C ドライブをリカバリする
 - ・SSD 全体をリカバリする詳しくは、「リカバリ領域を復元する」(→ P.159) をご覧ください。

■リカバリディスクセットとは

「バックアップナビ」を使って作成する次のディスクです。

- トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）
- リカバリデータディスク 1 [注]
- リカバリデータディスク 2 [注]
- ソフトウェアディスク 1
- ソフトウェアディスク 2

注：1 回に限り作成可能です。

リカバリディスクセットを作るうえでの注意

■AC アダプタを接続してください

■ディスクを用意してください

- お使いになれるディスク
 - DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL
- DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL のうちの、どのディスクを使用しても、作成枚数は同じになります。
- 画面の指示に従ってディスクのレーベル面にディスクの内容を記入してからセットします。

■「Roxio Creator」が必要です

「Roxio Creator」はこのパソコンに用意されています。「Roxio Creator」を削除すると、リカバリ領域のデータをディスクに書き込むことができなくなります。

■ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください

ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。作成を始める前に接続してください。ポータブル CD/DVD ドライブでお使いになれるのは DVD-R のみです。

■リカバリデータディスクおよびソフトウェアディスクではパソコンは起動できません

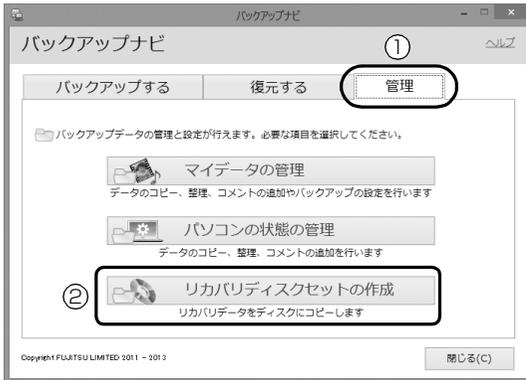
リカバリディスクセットの作成手順

- 1 スタート画面左下  のをタップします。
 -  が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
 -  「Windows 8.1 基本操作クイックシート」
- 2 「バックアップナビ」をタップします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をタップします。

「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をタップします。

4 「バックアップナビ」の概要を説明する画面が表示されたら、「次へ」をタップします。

5 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

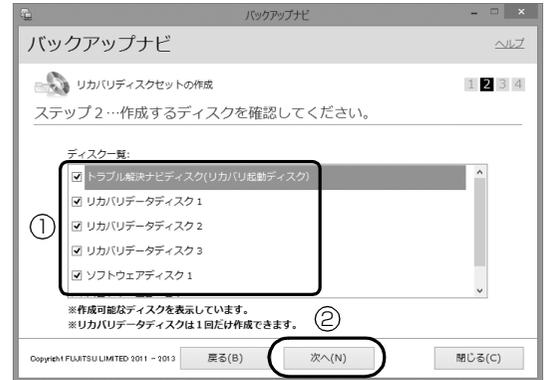
- ① 「管理」タブをタップします。
- ② 「リカバリディスクセットの作成」をタップします。

6 次の画面の操作をします。



- ① タップして、お使いになるディスクの種類を選択してください。
- ② 必要なディスクの枚数を確認します。
- ③ 「次へ」をタップします。

7 次の画面の操作をします。



- ① 作成するディスクを選択します。
- ② 「次へ」をタップします。

重要

▶ リカバリデータディスク 1～3 を作成するときは、すべて選択し、作業を中断しないでください。

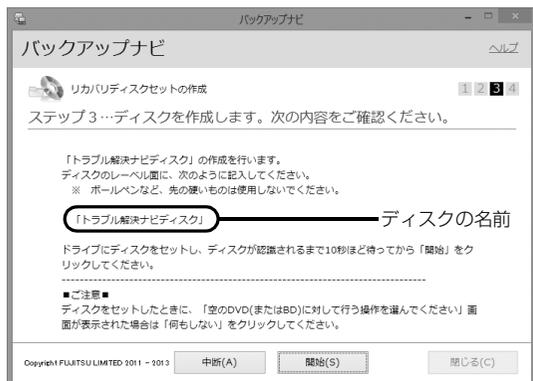
8 内容を確認して「OK」をタップします。



9 「[○○○]の作成を行います。」というメッセージが表示されたら、用意したディスクのレーベル面に○○○と記入します。

○○○は作成するディスクの名前が表示されます。

レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆などの先の硬いものは使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。



10 記入したディスクをセットします。

Point

▶ ディスクをセットしたとき、「空のDVD に対して行う操作を選んでください。」というメッセージが表示されることがあります。「何もしない」をタップすると、そのまま操作を続けることができます。

11 ディスクが認識されるまで30秒ほど待ってから、「開始」をタップします。

ディスクへの書き込みが始まります。完了するまで30分以上かかる場合があります。しばらくお待ちください。

書き込みが完了するとCD/DVDドライブが開き、メッセージが表示されます。

12 表示されたメッセージに従って操作します。

■ 「[○○○]の作成を行います。」というメッセージが表示された場合

手順 13 に進んでください。

■ 「リカバリディスクセットの作成に成功しました。」というメッセージが表示された場合

選択したディスクすべて作成完了しました。

結果を確認し、手順 14 に進んでください。

Point

▶ エラーが発生した場合は、画面のメッセージに従って作成をやり直してください。

13 ディスクを取り出して、次に作成するディスクのレーベル面に○○○と記入し、手順 10 に戻ります。

14 ディスクを取り出して、「完了」をタップします。手順 5 の画面に戻ります。

これでリカバリディスクセットの作成は完了です。リカバリディスクセットは1回しか作成できませんので、大切に保管してください。

パソコンの電源を完全に切る

重要

▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。

- ・トラブル解決ナビを起動する
- ・BIOS セットアップを起動する

上記以外にも、操作前にパソコンの電源を完全に切る必要のある場合があります。

詳しくは、「Windows を終了する」(→ P.51)をご覧ください。

- 1 デスクトップ画面左下隅の  を右タップします。
- 2 表示されたメニューから「シャットダウンまたはサインアウト」▶「シャットダウン」の順にタップします。

廃棄・リサイクルのご案内

■個人のお客様へ

PC リサイクル対象外であり、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■法人・企業のお客様へ

弊社ではお客様から排出される機器を回収リサイクル(有償)し、リチウムイオン電池など資源の有効活用に積極的に取り組んでいます。詳細は当社ホームページ「事業系 IT 製品リサイクルサービス」(<http://fenics.fujitsu.com/outsourcingservice/lcm/recycle/>)をご覧ください。

パソコンの廃棄・譲渡時の SSD 上のデータ消去に関するご注意

パソコンを廃棄あるいは譲渡する際、SSD に記録されたお客様のデータが流出して、再利用される可能性があり、結果的にデータが流出してしまうことがあります。

原因として、パソコンの SSD に記録されたデータは、削除したり、SSD を再フォーマットしたりしても、データが消えたように見えるだけで、特殊なソフトウェアを利用することで、読み取ることができるからです。

また、SSD 上のソフトウェアを削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。

そのため、パソコンを廃棄あるいは譲渡する際は、SSD 上のデータが第三者に流出することがないように全データの消去の対策をお願いいたします。対策として、専用ソフトウェアやサービス(有償)のご利用をお勧めいたします。

詳しくは、サポートページの「パソコン廃棄、譲渡前の常識！データを消去しよう」

(<http://azby.fmworld.net/usage/special/erasedata/>)をご覧ください。

■データ消去専用ソフトウェア

パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の 1 つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、Windows などの OS によるファイル削除やフォーマットと違い、SSD

の全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。「ハードディスクデータ消去」の使用方法については、サポートページから Q&A ナンバー「6604-6237」を検索してご覧ください。サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます（→ P.107）。

富士通パーソナルコンピュータ修理規定

最新版はホームページに掲載しています。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syurikitei/>

第1条（本規定の適用）

1. 富士通株式会社（以下「富士通」といいます）は、お客様が富士通の「故障や修理に関する受付窓口」にて修理の依頼をされた場合、または富士通の専用ホームページ「<http://azby.fmworld.net/support/repair/index.html>」（以下「専用ホームページ」といいます）にて修理の依頼をされた場合、本規定に定める条件により修理を行います。なお、お客様が日本国外から修理の依頼をされる場合および販売店または販売会社経由で修理の依頼をされる場合は、本規定は適用されないものとします。
2. 前項に基づき富士通が本規定に定める条件により修理を行う場合は、本規定の内容が、次条に定める対象機器に同梱されている保証書（以下「保証書」といいます）裏面の無料修理規定（以下「無料修理規定」といいます）の内容に優先して適用されるものとします。なお、本規定に定めのない事項については、無料修理規定の内容が有効に適用されるものとします。

第2条（対象機器）

本規定に基づく修理の対象となる機器（以下「対象機器」といいます）は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ（詳細は本規定末尾記載、以下同じ）および当該日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ用の富士通製周辺機器（ただしプリンタは除きます）とします。

第3条（修理の形態）

1. 富士通は、お客様より対象機器の修理をご依頼いただいた場合、現象や使用状況等を伺いながら簡単な切り分け診断を行い、修理の必要があると富士通が判断した場合に、次のいずれかの形態により修理を行います。ただし、対象機器の機種または離島等の一部地域等、修理の形態が限定される場合があるものとします。
 - (1) 引取修理（パソコン修理便）
お客様のご自宅から故障した対象機器を引き取り、修理完了後ご自宅までお届けします。
 - (2) 訪問修理
訪問修理が可能な製品について、お客様が訪問修理を希望された場合は、富士通指定の修理サービス会社の担当者がお客様のご自宅を訪問し、修理作業を行います。なお、訪問料は、保証書で特に無料と定められている場合を除き、保証期間の内外を問わず、別途有料となります。また、離島の一部地域では、訪問料とは別に訪問に要する実費（フェリー代、宿泊代等）をお客様にご負担いただく場合があります。
2. 前項にかかわらず、当該切り分け診断の結果、故障の原因が外付けキーボード、マウス、ACアダプタにあると富士通が判断した場合は、富士通は、原因部品の良品をお客様のご自宅に送付いたします。なお、故障部品については、お客様から富士通に送付していただけます。

第4条（保証期間内の修理）

1. 保証期間内に、取扱説明書、対象機器添付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で対象機器が故障した場合には、富士通は、無料修理規定に従い、無料で修理を行います。
2. 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
 - (1) 保証書が対象機器に添付されていない場合
 - (2) 保証書に必要事項の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合、その他事実と異なる記載がされていた場合
 - (3) ご使用上の誤り（水などの液体こぼれ、落下、水没等）、または改造、誤接続や誤挿入による故障・損傷の場合
 - (4) 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害（硫化ガス等）、異常電圧や指定外の電源使用による故障・損傷の場合
 - (5) 寿命部品や消耗品の自然消耗、磨耗、劣化等により部品の交換が必要となった場合
 - (6) 接続している他の機器、または不適当な消耗品やメディアの使用に起因して対象機器に生じた故障・損傷の場合
 - (7) お買い上げ後の輸送や移動または落下等、お客様における不適当なお取り扱いにより生じた故障・損傷の場合
 - (8) お客様が設定したパスワードの忘却やお客様が施錠された鍵の紛失により、マザーボード、本体カバーその他の部品の交換が必要になった場合
 - (9) お客様のご使用環境や対象機器の維持・管理方法に起因して生じた故障および損傷の場合
（例：埃、錆、カビ、虫・小動物の侵入および糞尿による故障等）
3. 第1項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても、別途それぞれの料金が発生するものとします。

- (1) 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
- (2) ハードウェア部分に起因する故障ではなく、ソフトウェアの再インストールで復旧する場合であって、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフト再インストール料

第5条 (保証期間外の修理)

1. お客様による修理のご依頼が保証期間外の場合、富士通は、有料で修理を行います。
2. 次の各号のいずれかに該当する場合は、修理料金の他にそれぞれの料金が発生するものとします。
 - (1) 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
 - (2) ハードウェア部分に起因する故障ではなく、ソフトウェアの再インストールで復旧する場合で、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフト再インストール料
3. お客様による修理のご依頼が保証期間外の引取修理の場合であって、お客様に向った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと富士通が判断した場合は、その診断作業に対して診断料が発生するものとします。また、対象機器お預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされた場合(第6条第2項および第3項に定める場合を含みます)であっても、診断料が発生するものとします。
4. お客様による修理のご依頼が保証期間外の訪問修理の場合であって、富士通指定の修理サービス会社の担当者が、訪問先でお客様に向った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと判断した場合は、当該診断作業に対して訪問料と診断料が発生するものとします。また、担当者がお客様ご指定の場所に訪問し、修理作業に入る前に修理のご依頼をキャンセルされた場合は、訪問料が発生するものとします。

第6条 (修理料金の見積もり)

1. 修理が有料修理の場合であって、お客様が修理のご依頼時に修理料金の見積もりを希望された場合、富士通は、引取修理の場合は対象機器のお預かり後に診断作業を行い、見積金額をお知らせするものとし、訪問修理の場合は訪問前にお客様から現象や使用環境等お伺いした内容に基づき診断を行い、概算の見積金額をお知らせするものとします。富士通もしくは富士通指定の修理サービス会社の担当者が、当該見積金額での修理について、お客様にご了承いただいたうえで、修理を行います。ただし、お客様から修理のご依頼時に修理料金の上限金額をご提示いただいた場合であって、修理料金が上限金額を超えない場合は、お客様にご了承いただいたものとして見積提示なしに修理を行います。
2. 前項のうち引取修理の場合であって、お客様に見積金額をお知らせした日から1か月を超えても、お客様から見積もりに対するご回答がなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を実施せずに、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。
3. 第1項のうち引取修理の場合であって、修理の過程において新たな故障の原因が判明した場合等、お客様に見積金額をお知らせした後に当該金額を変更する必要が生じた場合には、富士通は、再度見積金額をお知らせするものとし、当該再見積り後の金額での修理についてお客様にご了承いただいたうえで、修理を継続いたします。なお、当該再見積り後の金額での修理についてお客様にご了承いただけなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を中止し、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。

第7条 (修理料金等の支払い方法)

第4条または第5条に基づき発生した修理料金等については、お預かりした対象機器の返却時に現金にてお支払いいただきます。

第8条 (修理期間)

引取修理の場合、富士通は、対象機器のお預かりから、修理完了後の対象機器のご自宅へのお届けまで、原則として7日間に対応いたします。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、7日間を超える場合があるものとします。

- (1) お客様から向った故障の現象が確認できず、修理箇所の特定ができない場合
- (2) 引取修理の場合であって、引き取り先が離島の場合
- (3) 有料修理の場合であって、お客様が修理料金の見積もりを希望された場合
- (4) お客様のご都合により、修理完了後の対象機器の返却日に日程変更等が生じた場合
- (5) 天災地変、戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由が生じた場合
- (6) 第12条第1項に定める補修用性能部品が在庫切れの場合

第9条 (修理品の保管期間)

引取修理の場合であって、修理完了後にお客様に修理の完了および返却日をお知らせしているにもかかわらず修理後の対象機器をお受け取りいただけない場合、または対象機器お預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされたにもかかわらず当該対象機器をお引き取りいただけない場合は、富士通は、対象機器をお預かりした日から6か月の保管期間の経過をもって、お客様が当該対象機器の所有権を放棄されたものとみなし、当該対象機器を自由に処分できるものとします。この場合、富士通はお客様に対し、当該保管に要した費用および当該処分に要する費用を請求できるものとし、また、保証期間外の修理の場合は、別途修理料金または診断料を請求できるものとします。

第10条 (故障部品の取り扱い)

修理を行うために対象機器から取り外した故障部品については、お客様はその所

有権を放棄するものとし、富士通は、当該故障部品をお客様に返却しないものとします。なお、当該故障部品は、環境への配慮から再調整後検査し、富士通の品質保証された補修用性能部品として再利用する場合があります。

第11条 (修理ご依頼時の注意事項)

お客様は、修理をご依頼されるにあたり、あらかじめ以下の事項についてご了承いただくものとします。

- (1) お客様が保証期間内に修理をご依頼される場合は、必ず対象機器に同梱されている保証書を対象機器に添付いただくものとします。
- (2) お客様が修理をご依頼された対象機器の記憶装置(ハードディスク等)に記憶されたデータ、プログラムおよび設定内容(以下総称して「データ等」といいます)につきましては、富士通では一切保証いたしません。お客様は、修理をご依頼される前に、お客様の責任においてバックアップをとっていただくものとします。(日頃から随時バックアップをとられることをお勧めいたします。) なお、修理および修理前の診断作業の過程で、データ等が変化・消去される場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合(第6条に定める場合を含みます)でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程でデータ等が変化・消去されている場合があります。
- (3) 富士通は、修理および修理前の診断作業の過程で、インターネットへの接続確認等の目的で対象機器をインターネットに接続する場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合(第6条に定める場合を含みます)でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程で対象機器がインターネットに接続されている場合があります。なお、当該接続によりデータ等が変化・消去される場合があります。また、富士通は、当該接続によりデータ等が変化・消去される等の問題が生じ、当該問題を解決するために必要と判断した場合、データ等を変更、消去等する場合があります。
- (4) 修理完了後のオペレーティングシステム(OS)ならびにその他のプログラムの再インストールおよびセットアップ等につきましては、お客様ご自身で実施いただくものとします。
- (5) お客様ご自身で貼り付けられたシール等につきましては、取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。また、お客様ご自身で行われた塗装や刻印等につきましては、元の状態への復旧はできないものとします。
- (6) 富士通は、修理期間中の代替機の貸し出しは行わないものとします。なお、修理期間中の対象機器の使用不能による補償等は、本規定で定める責任を除き富士通では一切責任を負わないものとします。
- (7) お客様が対象機器にパスワードを設定されている場合は、当該設定を解除したうえで修理をご依頼いただくものとします。
- (8) 対象機器の修理とは関係のない記録媒体(CD、DVD、メモリーカード、フロッピーディスク、MO等)、他の機器との接続ケーブル、および添付品等につきましては、事前にお客様の方で対象機器から取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。なお、万が一これらが対象機器に付加された状態で修理をご依頼いただいた場合、富士通ではこれらの管理につき一切責任を負わないものとします。
- (9) 修理のご依頼時に、当該修理にリカバリディスクが必要である旨富士通からお客様にお知らせした場合は、お客様は必ず対象機器に同梱されているリカバリディスクを添付いただくものとします。
- (10) 次の各号のいずれかに該当するものは、修理の対象から除かれるものとし、
 - a. お客様が対象機器出荷時の標準搭載の部品を加工・改造されたこと、または対象機器出荷時の標準搭載以外の部品を使用されたことに起因する故障の修理
 - b. ウィルスの除去
 - c. 液晶ディスプレイの一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在する場合の修理・交換
 - d. データ等のバックアップおよび復旧作業

第12条 (補修用性能部品)

1. 補修用性能部品は、製品の機能を維持するために必要な部品をいい、故障部品と機能、性能が同等な部品(再用品および第10条に定める故障部品の再利用も含む)とします。
2. 富士通における補修用性能部品の最低保有期間につきましては、対象機器に同梱されている説明書記載のとおりとなります。補修用性能部品の保有期間の終了をもって、当該対象機器の修理対応は終了となります。

第13条 (個人情報取り扱い)

1. 富士通は、本規定に基づき修理に関してお客様から入手した情報のうち、当該お客様個人を識別できる情報(以下「お客様の個人情報」といいます)につき、以下の利用目的の範囲内で取り扱います。
 - (1) 修理を実施すること。
 - (2) 修理の品質の向上を目的として、電子メール、郵便、電話等によりアンケート調査を実施すること。
 - (3) お客様に有益と思われる富士通または富士通の子会社、関連会社もしくは

かじめ承るものとし、

- (1) サービス対象製品以外のハードウェアおよびソフトウェアに対するサポート作業
 - (2) サービス対象製品にインストールされているソフトウェアについて、会員が別途/バージョンアップ版やアップグレード版等を購入し、バージョンアップやアップグレードを行ったソフトウェアのサポート作業
 - (3) 質問に対する作業が、連続的かつ長時間にわたる作業
 - (4) 電話または E メールによるサポートが、不可能または不適切と富士通が判断した場合におけるサポート作業
 - (5) マニュアルに記載されていないような、通常想定できない使用方法に対するサポート作業
 - (6) ハードウェアの故障・修理に関するお問い合わせ
 - (7) その他富士通がサポート対象にならないと判断した作業
5. 技術サポートの利用料金（以下「技術サポート料」といいます）については、本会員規約末尾記載のとおりとします。なお、会員が会員専用ホームページおよび E メールにより技術サポートを利用する際にかかる通信費等は、別途会員が負担するものとします。
6. 前項において技術サポート料が有料となる場合、その支払方法は、原則としてクレジットカード（MASTER/VISA/JCB）での支払いとします。ただし、例外として富士通が認めた場合、別途富士通が指定するコンビニエンスストアでの支払いも可能とします。なお、支払方法は一括払いとします。
7. 前項におけるクレジットカードでの支払いの場合、技術サポート料は当該クレジットカードの会員規約において定められている振替日に会員指定の銀行から引き落とされるものとします。また、コンビニエンスストアでの支払いが認められた場合は、会員は、技術サポート料を別途富士通が定める期日まで支払うものとします。なお、当該支払に要する手数料は、会員の負担とします。

第 6 条 (AzbyClub ポイントサービス)

1. 富士通は、以下に定める会員に対し、AzbyClub ポイントサービス（以下「ポイントサービス」といいます）を提供します。
 - (a) ポイントサービス開始後、富士通が提供するショッピングサイト WEB MART（以下「WEB MART」といいます）で商品を購入した会員
 - (b) AzbyClub カードを所有している会員
 - (c) その他、富士通が別途通知した会員
2. 会員は、発行された AzbyClub ポイント（以下「ポイント」といいます）を蓄積、消費することにより、WEB MART での商品購入時における割引の適用、旧 AzbyClub で実施する懸賞への応募、景品との交換その他のサービスを利用できます。なお、各サービスの具体的な内容およびポイント消費数等の詳細については、別途定めるものとします。
3. ポイントには、旧 AzbyClub や WEB MART 等での商品購入に伴い発行されるポイント（以下「ショッピングポイント」といいます）と、富士通が提供する各種サービスの利用に伴い発行されるポイント（以下「キャンペーンポイント」といいます）の 2 種類があります。なお、ポイント発行数については、別途各サービス毎に定めるものとします。
4. キャンペーンポイントは、別途定める上限数を超えて蓄積することはできません。
5. ショッピングポイントは、会員が購入した商品が出荷された時点で発行されます。なお、WEB MART において富士通が定める「販売条件」（以下「販売条件」といいます）に基づき会員が当該商品を返品した場合は、当該ポイントは無効となります。
6. 会員が WEB MART での商品購入時に割引の適用を目的としてポイントを消費する場合、当該ポイントの消費は、商品の代金決済が完了した時点で確定するものとします。なお、販売条件に基づき会員が商品を返品した場合は、当該ポイントの消費はなかったものとして扱われます。
7. ポイントの有効期間は、発行から 1 年目の日の属する月の末日までとします。ただし、当該有効期間内にポイントの発行または消費があった場合、会員が保有するすべてのポイントの有効期間は、当該発行または消費のあった日から 1 年目の日の属する月の末日まで、自動的に延長されるものとします。
8. 会員は、ポイントの第三者への譲渡、売買、現金との交換等は一切できないものとします。
9. ポイントの発行および消費は、本会員規約の第 2 条第 1 項に定めるユーザー登録番号およびパスワードにより管理されるものとし、ポイントサービスの利用時に会員がこれらを入力しなかったことにより、ポイントの発行が受けられない、もしくはポイントを消費できずに商品購入時の割引が受けられない等の不利益を被ったとしても、富士通は一切責任を負わないものとします。
10. 会員が、本会員規約の第 11 条（退会）または第 12 条（会員資格の取消等）に基づき、旧 AzbyClub を退会し、または会員資格を取り消された場合、ユーザー登録が抹消された時点で当該会員の保有するすべてのポイントは無効となります。
11. 富士通は、事前に会員に通知することにより、ポイントサービスを終了することがあります。この場合、会員の保有するポイントは、第 7 項にかかわらず、当該ポイントサービスの終了日をもってすべて無効となります。

第 7 条 (会員の遵守事項)

1. 会員は、富士通が本サービスを提供するにあたり必要と判断したデータおよ

び情報等を、富士通に提供するものとし、

2. 会員は、富士通が依頼する問題解決に必要と判断した予防または修正のための作業をすみやかに実施するものとし、
3. 会員は、本会員規約に基づき本サービスを受ける権利につき、第三者に譲渡、再許諾等できないものとします。また、本サービスにより富士通が会員に提供した情報その他著作物は、その会員のみ利用することができるものであり、会員は富士通の書面による事前の承諾なくして、当該情報その他著作物を第三者に利用させないものとします。
4. 会員は、氏名、住所等、富士通への届出内容に変更があった場合は、すみやかにその旨富士通へ届け出るものとします。会員が当該届出を怠った場合、富士通は当該会員に対して本サービスを提供しないことがあります。
5. 会員は、サービス対象製品に関する所有権、使用权等を保有する等、サービス対象製品を適法に利用していることを富士通に対し保証するものとします。万が一適法に利用していないことが判明した場合には、富士通は当該会員に対して本サービスを提供しないことができるものとします。
6. 会員は、富士通より通知されたユーザー登録番号、パスワードを自己の責任をもって管理するものとし、それらが不正使用された場合であっても、富士通は一切責任を負わないものとします。

第 8 条 (個人情報の取り扱い)

1. 富士通は、本サービスの利用にあたり会員が富士通に登録した情報のうち、当該会員個人を識別できる情報（以下「会員の個人情報」といいます）につき、以下の利用目的の範囲内で取り扱います。
 - (1) 本サービスを提供すること。
 - (2) 本サービスの向上を目的として、E メール、郵便、電話等によりアンケート調査を実施すること。
 - (3) 本サービスの向上を目的として、会員における Eメールの開封状況、富士通の Web ページの閲覧状況、その他会員における本サービスの利用に関する情報を収集、および分析すること。
 - (4) 会員に有益と思われる富士通または富士通の子会社、関連会社もしくは提携会社の製品、サポートサービス等の情報を、Eメール、郵便、電話等により会員へ提供すること。
 - (5) 会員の個人情報の取り扱いにつき、個別に会員の同意を得るために、当該会員に対し Eメール、郵便、電話等により連絡すること、ならびに当該同意を得た利用目的に利用すること。
 - (6) キャンペーン品・モニター品・当選賞品などを会員へ発送すること。
2. 富士通は、会員から AzbyClub ユーザー名の利用申込みがあった場合に限り、ニフティ株式会社の子会社の提供するサービスを利用するために、会員の個人情報のうち AzbyClub ユーザー名発行に必要な情報（氏名、住所、電話番号など）を契約に基づきニフティ株式会社に提供します。AzbyClub ユーザー名については、付則に記載します。
3. 富士通は、前各項に定める利用目的のために必要な範囲で、会員の個人情報を業務委託先に取り扱わせることができるものとします。
4. 富士通は、「個人情報の保護に関する法律」において特に認められている場合を除き、会員の個人情報につき、本条に定める以外の利用目的で取り扱い、または前項に定める以外の第三者に開示、提供することはありません。

第 9 条 (サービスの打ち切り)

富士通は、会員への事前の通知により、本サービスの提供の全部または一部を打ち切る場合があることを会員は了承するものとし、

第 10 条 (責任の限定)

1. 富士通は、会員が本サービスを利用することにより得た情報等について何らの保証をするものではありません。
2. 本サービスのうち有料サービスの利用または利用不能により会員が損害を被った場合には、当該本サービスの利用料金相当額を限度として富士通は賠償責任を負うものとします。ただし、本サービスのうち無料サービスの利用または利用不能により会員が損害を被った場合には、富士通は賠償責任を負わないものとします。
3. いかなる場合においても富士通は、富士通の責に帰すことのできない事由から生じた損害、富士通の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、逸失利益ならびに第三者からの損害賠償請求に基づく損害については、責任を負わないものとします。
4. 本サービスの利用または利用不能により会員が被った損害が、富士通の故意または重過失に起因するものである場合には、第 2 項および前項の規定は適用されないものとします。

第 11 条 (退会)

1. 会員が旧 AzbyClub からの退会を希望する場合は、事前に富士通に届け出るものとします。なお、旧 AzbyClub から退会すると、同時にユーザー登録も抹消されます。

第 12 条 (会員資格の取消等)

1. 会員が次のいずれかに該当する場合、富士通はその会員資格を取り消し、同時にユーザー登録のすべてを抹消することがあります。
 - (1) ユーザー登録時に虚偽の事項が記載されていたことが判明した場合
 - (2) 本サービスのうち有料サービスを利用した際に、利用料金の支払を遅滞もしくは拒否した場合
 - (3) 本会員規約に違反した場合
 - (4) 本サービスの運営を妨げる行為を行った場合

○ FMVらくらくバックおよびFMVらくらくパソコンの扱いについて
FMV らくらくバックおよび FMV らくらくパソコンに関する技術サポートの利用料については、上記料金表の定めは適用されず、電話およびEメールいずれもお問い合わせ 1 件より有料（通常 2,000 円/件（税込）、AzbyClub カードでのお支払の場合 1,500 円/件（税込））とさせていただきます。

■ AzbyClub ユーザー名について

1. 富士通は、会員が希望する場合、会員に対し、ユーザー登録番号とは別に、AzbyClub ユーザー名およびパスワード（以下あわせて「AzbyClub ユーザー名等」といいます）を無料で発行します。ただし、AzbyClub ユーザー名等の発行にかかる通信費等は、別途会員が負担するものとします。なお、AzbyClub ユーザー名等の発行を受けるためには、会員は、ニフティ株式会社が決める@nifty会員規約および個人情報保護ポリシーに同意する必要があります。
2. 会員は、富士通により発行されたAzbyClubユーザー名等を自己の責任をもって管理するものとし、AzbyClub ユーザー名等が不正使用された場合であっても、富士通は一切責任を負わないものとします。
3. 会員は、AzbyClub ユーザー名等を使用して、本サービスの他、ニフティ株式会社および富士通が指定するその他の第三者（以下「提携先」といいます）の提供するサービス（以下「提携サービス」といいます）を利用することができます。会員は、提携サービスに関して問い合わせがある場合、当該提携サービスの提供元に対して直接問い合わせるものとします。
4. 会員が AzbyClub ユーザー名等を使用して提携サービスを利用する場合、会員は、提携先の定める利用規約等に従うものとします。なお、ニフティ株式会社以外が提供する提携サービスの利用に際しては、当該提携サービス提供元の会員規約および個人情報保護ポリシーへの同意が別途必要になる場合があります。
5. 会員が有償の提携サービスを利用した場合、当該有償提携サービスの利用料金は、富士通からではなく、当該有償提携サービスの提供元から請求される場合があります。
6. 提携サービスについて、富士通は、何らの保証も行わないものとします。本サービスの利用を除き、AzbyClub ユーザー名等の利用に関して、富士通は一切の責任を免れるものとし、会員は、提携サービスに起因して損害を被った場合であっても、富士通に対し、一切の請求を行わないものとします。
7. 会員は、富士通所定の方法により届け出ることにより、AzbyClub ユーザー名等を使用して本サービスを利用することを一時停止し、または AzbyClub ユーザー名等を削除することができます。なお、AzbyClub ユーザー名等を使用して本サービスを利用することを一時停止し、またはAzbyClubユーザー名等を削除した場合であっても、会員は、本会員規約に基づく会員資格を失わないものとします。
8. 富士通は、以下の場合に、本会員規約に基づく会員資格を失わせることなく、会員が AzbyClub ユーザー名等を使用して本サービスを利用することを、一時停止または削除することができるものとします。
 - (1) 会員が提携サービスの利用規約等に基づき当該提携サービスの利用資格を一時停止または取り消された場合。
 - (2) 会員が提携サービスの利用資格を自ら一時停止し、もしくは取り消した場合。
 - (3) その他の理由により富士通が必要と認めた場合。

文字コードの取り扱いに関する注意

環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのアプリや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。

文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、Eメールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。

環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。

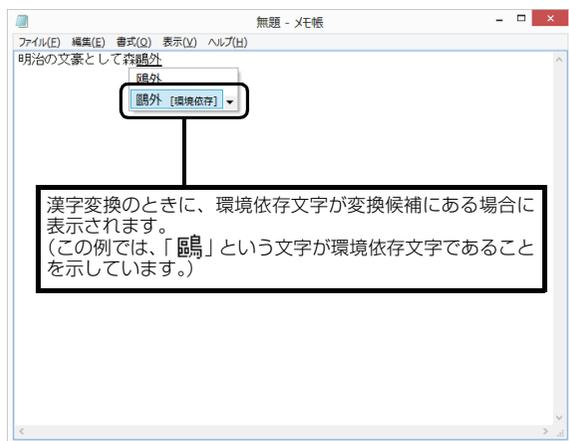
- Eメールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
- アプリが環境依存文字に対応していない場合、アプリが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。
- お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。
- インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

例 ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

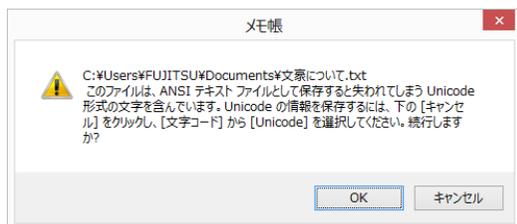
Windows 8.1、Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。

次に表示されるメッセージの例を説明します。

例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ



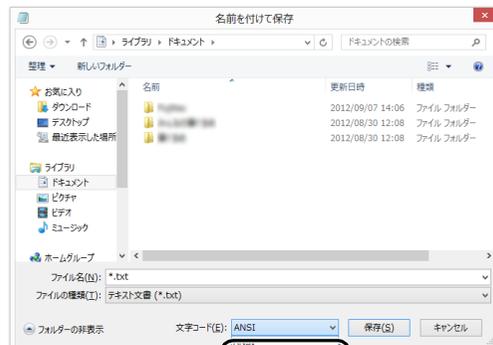
例 2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ



- 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。
「キャンセル」をタップすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。

Point

- ▶ 文字コードを他の形式にして保存する
環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。
ただし、Unicode に対応していない OS やアプリでこのファイルを開くと、文字化けを起したり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。



文字コード「Unicode」を選んでから保存してください。

Windows 8.1、Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性

Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP以前のOSは「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形									
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	澣	澣
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	檜	檜	7026	澹	澹
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	桷	桷	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FBD	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	廐	廐	6062	恢	恢	6A0B	槿	槿	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喻	喻	6357	抄	抄	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甌	甌
5642	噂	噂	63C3	掬	掬	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	噌	噌	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	瞥	瞥
56C0	轉	轉	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祗	祗
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形									
79E4	秤	秤	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	鑄	鑄
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鎚	鎚
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	迪	迪	9453	鎚	鎚
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞞	鞞
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞞	鞞
7BB8	箸	箸	85F7	藷	藷	8FE6	迦	迦	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	篝	篝	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	粩	粩	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鯖	鯖
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	診	診	9061	遡	遡	9C52	鱒	鱒
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	曾	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						

パソコン本体の主な仕様

ここでは、パソコン本体の主な仕様を紹介しています。

■仕様の調べ方

仕様の詳細については「富士通アドバイザー」(→ P.107) の「サポート & サービス情報」から「パソコンの仕様を調べる」を選択して表示されるホームページの内容をご覧ください。なお、仕様の詳細を調べるときに、お使いのパソコンの型名が必要になることがあります。型名は次の場所に記載されています。

- 保証書
- パソコン本体の裏面に貼付されたラベル
- 「@メニュー」を起動し、「サポートをさがす」▶「お問い合わせする」▶「パソコンの情報を表示する」を選択すると表示される画面



- ▶ 型名の確認方法の詳細は、サポートページから Q&A ナンバー「3702-5873」を検索して参照できます。サポートページは「富士通アドバイザー」から簡単に表示できます (→ P.107)。

■ARROWS Tab QH55/M、WQ1/M

ARROWS Tab WQ1/M は、インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART」でのみご購入いただける製品の仕様です。

注記については、「仕様一覧の注記について」(→ P.187) をご覧ください。

品名	ARROWS Tab QH55/M	ARROWS Tab WQ1/M
CPU注1	インテル® Atom™ プロセッサ Z3770 (インテル® バースト・テクノロジー対応)	
メインメモリ注2	デュアルチャネル対応 LPDDR3-1066	
	標準容量/ 最大容量	4GB (2GB × 2)
無線 LAN注3	規格	IEEE802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠 (5GHz 帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠)注4
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注5
電源供給方式	ACアダプタ注6	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC12V (3A)
	バッテリー	内蔵バッテリーパック：リチウムポリマ 38Wh
外形寸法 (幅×奥行×高さ) (突起部含まず)	単体：267.0 × 180.8 × 9.9mm スリムキーボード注8に設置時：267.0 × 195.0 × 20.0mm	
本体質量 (バッテリーパック含む)注7	単体：約 650g スリムキーボード注8を含む：約 1,280g	

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

仕様一覧の注記について

- 注 1 ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。
- 注 2 メモリの交換、増設はできません。
- 注 3 無線 LAN の仕様については、「無線 LAN」(→ P.141) をご覧ください。
- 注 4 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注 5 IEEE 802.11n 準拠を使用したときは、MIMO 方式にもなります。
- 注 6 標準添付されている電源ケーブルは AC100V (国内専用品) 用です。また、矩形波が出力される機器 (UPS (無停電電源装置) や車載用 AC 電源など) に接続されると、故障する場合があります。
- 注 7 各製品で質量が異なる場合があります。
- 注 8 ARROWS Tab WQ1/M でスリムキーボードを選択した場合のみ添付されています。

■商標および著作権について

インテル、Intel、インテル Atom は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Roxio、Roxio のロゴ、Roxio Creator は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

McAfee、マカフィー、サイトアドバイザーライブは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

デジタルアーツ /DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。

デジブックは株式会社トリワークスの登録商標です。

「メモリースティック」は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。

SDXC ロゴは、SD-3C, LLC. の商標です。 

ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association (PCMCIA) の商標で、富士通へライセンスされています。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。

@nifty は、ニフティ株式会社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2013-2014

Memo

Microsoft アカウント

メールアドレス (Microsoft アカウント)、パスワードを記入してください。



The form consists of two dark grey buttons on the left: 'メールアドレス (Microsoft アカウント)' and 'パスワード'. To the right is a large white input field with a pencil icon in the top right corner. Inside the input field, an '@' symbol is visible, indicating where to enter the email address.

※第三者に漏れないよう充分に注意して管理してください。

アクセサリ・周辺機器 (オプション) のご紹介

本製品をさらに便利にお使いいただけるよう、専用のオプションをご用意しています。

ご購入および価格のご確認は、インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART」をご覧ください。

品名	型名	概要
専用カバー	FMV-NCS 14	本体に装着したまま、スタンドスタイルやタブレットスタイルなどで使える専用カバーです。
スリムキーボード	FMV-NKB7	キータイプでの操作が快適になる、フラットポイントつきの専用キーボードです。
拡張クレードル	FMV-NDS 13	USB / HDMI 出力 / アナログ RGB / LAN 端子搭載。充電にも利用できます。
充電専用クレードル	FMV-NDS 14	本体をセットして充電できるクレードルです。

このほかにも、標準添付品と同等品を追加でご購入いただけるものがあります。

詳しくは、インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART」でご確認ください。

ARROWS Tab QH シリーズ

取扱説明書<詳細版>

B5FK-2751-02-00

発行日 2014年7月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



パソコン操作に困ったら、**お電話**ください。
プロがご自宅にお伺いし、解決します!

富士通パソコン出張サービス PC家庭教師

(有料)

セットアップって
むずかしそう…
やってくれないかな。



パソコン 基本設定

めんどろなパソコンのセット
アップは、お任せください!

13,900円(税込)~

ウイルス感染!?
うちに来て、
みてほしい。



かけつけ診断

原因がわからないトラブルも
プロが解決に導きます!

9,800円(税込)~*

デジカメの写真、
どうやって
プリントするの?



教えて パソコンレッスン

お客様の「したい」ことを
丁寧に説明します!

17,800円(税込)~

* 診断の結果、必要なリカバリ等の作業が発生した場合、別途費用が発生します。

通話料
無料

みんな つなぐよ
0120-37-2794

■ 受付時間: 10時~19時 ■ 訪問時間: 10時~20時 (有料サービス)

※携帯電話、PHSからも通話可能です。システムメンテナンスのため、休止させていただく場合がございます。

「PC家庭教師」は弊社指定のサービス会社をご自宅に伺い、その場でサポートする有料の出張サービスです。電話での技術相談をご希望の場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

「PC家庭教師」のほかにも、富士通の有料サービス「バリューplus」では、多彩なメニューをご用意しております。詳しくはホームページをご覧ください。

例 ● Word、Excelも電話で相談できるPCコンシェルジュサービス
● 3年間メーカー延長保証サービス など

富士通 バリューplus

検索

